

第63回 中日書道展

中日会報

公益社団法人 中日書道会
 編集事務局 名古屋市中区名駅二丁目45-19
 〒450-0002 室番 800
 桑山ビル8階 C号
 電話 (583) 1910
 FAX (583) 1910
<http://www.cn-sho.or.jp>
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ

— 祝賀懇談会のあいさつより —



名誉会長

海部 俊樹

みなさん、こんにちは。

この大会場を隅から隅まで埋めつくした千人を越える方々の熱気に、私まで上気するようでありませぬ。凄いいエネルギーだなと実感しております。

例えば、本会は既に平成二十五年度の総会を終えられ、第六十三回中日展の授賞式更には功労者表彰まで終えられたそうです。加えて後藤汀鷺副理事長の愛知県芸術文化選奨文化賞のご披露があり、榎本樹郎副会長の日展五科審査主任ご就任報告がありと、めでたくも晴れがましいことばかりであります。この席はそういうことの全部をまとめてお祝いしようというまさに大祝賀会なのであります。

さて、私が初めて中日書道会の席にお邪魔したのは桑原幹根前会長が八十二才の時であったと記憶しております。私はその頃新人議員でした。桑原会長は書に造詣の深い方でしたから私も忝なく筆に親

しむことになりました。「自分で墨を擦れ、墨汁など使ってはならん」ということから、書道について色々教えられました。

「書を学ぶことによつて、人間はどこまで自己を鍛錬し成長させることができるか」

壮大な話ではありますが、しかし根っこにそういう意識がなければ、書道に本當に関わつた人間とは言えないでしょう。実用の文書は、どんな機械的なものにとつてかわられ、生活の場での書の必要性は稀薄にならざるを得ない。そんな時代の中で敢えて墨を擦り筆を取る皆様方の抛り所は何か、常に考えて頂きたいと思ひます。

「継続は力なり」と言われます。そこには真摯に継続することによつてしか見えてこないものがあるという意味も含まれるのではないのでしょうか。意味を探り求めながらの継続こそが人間の力を育てると。

私は、五十年の議員生活を終えました。中日書道会は来年設立八十周年を迎えます。先程発表された新理事長、副理事長を先頭に記念事業の準備が進められていきます。中日書道会を挙げて協力し、そのことが新たなエネルギーを生むような展開であつてほしいと願つております。

どうか皆様方もますます精進され、自分を磨かれ、且つ中日書道会の発展にも御尽力頂きたい。

皆様方の御健勝、御健筆を祈つて挨拶いたします。本日はまことにおめでとございます。

目次

10	9	8	6	5	4	3	2	1
第六十三回中日書道展概要	第六十三回「中日書道展」管見	西嶋慎一先生 田宮文平先生	愛知県芸術文化選奨文化賞ご受賞 第六十三回中日書道展祝賀懇談会 平成二十五年度功労者表彰 平成二十五・六年度新役員紹介 第六十三回中日書道展を参観して 第六十三回中日書道展	後藤汀鷺副理事長 愛知県芸術文化選奨文化賞ご受賞 第六十三回中日書道展入賞者名簿 第六十三回中日書道展当番審査員 第六十三回中日書道展を終えて 平成二十五年度総会、第一回理事会 第二回、第三回、第四回理事会 平成二十五年度教育研修会のご案内 平成二十五年度公開講座のご案内	名譽會長あいさつ 理事長あいさつ 第六十三回中日書道展 受賞者・受賞作品紹介、作品評 第六十三回中日書道展	12	11	
59	48	46	44	42	35			

総会

平成二十五年六月十六日(日) 午後二時

総会議案内容

- 一、平成二十四年度事業報告書の承認に関する件
 - 二、平成二十四年度収支決算書の承認に関する件
 - 三、財産目録の承認に関する件
 - 四、役員を選任に関する件
- (詳細はP46に掲載しました)

第一回 理事会

平成二十五年五月十九日(日) 午後三時

・本年度総会の上程議案に関する理事会

第二回 理事会

平成二十五年六月十六日(日) 午後一時

・新役員(理事・監事)の選任に関する理事会

第三回 理事会

平成二十五年六月十六日(日) 午後三時

・総会後の新理事長・新副理事長の選任に関する理事会

第四回 理事会

平成二十五年七月十五日(月祝) 午後四時

・新企画委員の選任に関する理事会

理事長あいさつ



理 事 長 鬼 頭 翔 雲

今年も、例年に比べ梅雨明けが早く、早々と猛暑の夏になりました。連日のニュースでも全国各地の気温と熱中症に関する情報が伝えられています。

さて、第六十三回中日書道展も多くの会員・協賛会員の皆様のご協力を頂き、お陰様で盛況裡に終了することが出来ました。

出品点数は四五一四点で、昨年より一五二点の減です。その中でも、特に二科公募が昨年比一一八点の減ということでもあります。二科若年層出品は四八六点であり、他公募展と同じように、一般新出品者の拡大がなかなか思うように進んでいない状況です。本展としての「書」愛好者増に繋がる手立てを考え、現実に対応した、また、中・長期的な出品増の為の施策を考えて参らねばなりません。

本年度は役員改選の年であります。去る六月十六日、「理事会」を開催、平成二十七年六月の総会日までの役員（理事・監事）を決めさせて頂きました。不肖私、総会後開催の「新理事会」において再度、理事長の重責を拝命致しました。誠に身の引き締まる思いをしております。微力ではございますが、この二年間、

真摯な気持ちをもって一生懸命努めさせて頂きます。変わらませぬご厚情とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

来年、本会は創立八十周年を迎えます。大きな節目の年であります。事務局では「八十周年記念事業担当部」を新設し、組織、日程、事業等々、本会に相応しい斬新・意欲的なイベントを開催すべく、準備を本格化させました。本会は勿論のこと、一般市民にも「書」の魅力、意義、重要性を喧伝していきたいと考えています。事業内容につきましては会報等でお知らせして参ります。

本年の事業も例年通り開催してまいります。この会報をお届けする頃には「国内史跡探訪研修旅行」が終わっていることと思います。

秋には書道教育研修講座、公開講座、寿書展、愛のチャリティ募金等々事業が続いてまいります。毎年の行事です。マンネリズムに陥ることなきよう清新な企画、運営を目指し、頑張つて参ります。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

本会名誉会長	元内閣総理大臣 海部俊樹様
本会名誉顧問	衆議院議員 近藤昭一様
本会名誉顧問	衆議院議員 朝日将貴様
本会名誉顧問	江崎鐵磨様 代理 小山 勇様
本会名誉顧問	中日新聞社 常任顧問 大島寅夫様
本会名誉顧問	中日新聞社 代表取締役社長 太田宏次様
本会名誉顧問	東洋医学研究財団 理事長 山口宏昭様
中日新聞社 事業局長	垣尾良平様
中日新聞社 兼文化事業部長	森 陽一様
中日新聞社 広告局長	磯部 真様
中日新聞社 広告局 次部長	西原健二様
中日新聞社 文化センター 部長	久田 到様
中日新聞社 文化事業部 次長	杉本研介様
中日新聞社 文化事業部	河合信明様
東海テレビ放送 常務取締役	加藤昭宏様
東海テレビ放送 事業局長	田中達也様
東海テレビ放送 事業部長	杉田 朗様
東海テレビ放送 事業局 次長	坪内正恭様
東海テレビ放送 事業部 プロデューサー	奥水城治様
司法書士	谷田義弘様
税理士	

(順不同)

後藤汀鶯 副理事長 愛知県芸術文化選奨文化賞ご受賞



後藤汀鶯

書に夢を追い、夢を膨らませて連綿、古希を迎えました。

健康で続けられたことに感謝し、これを機に何かできないものかと模索いたしておりました。そこで……。

昨年は古事記が編まれてからちようど一三〇〇年に当たり、日本の国の始まりを少し緋いてみようと、熱田神宮、出雲大社、熊野本宮大社等に関わりのある言葉を作品にして、社中展に「古事記豊けし」と題し、出品いたしました。そして、作品はそれぞれの神社に寄進して参りました。そんな矢先、朗報が届いたのでございます。これには、何か不思議な力を感じ身の震えるような感動を覚えました。

三月十二日、愛知県庁にて厳肅な授賞式が行われ、大村知事より賞状を賜り身の引き締まる思いでございました。

第四十五回日展第5科審査主任に樽本樹邨名誉副会長がご就任



愛知県庁にて



また、六月十六日の祝賀会の折、たくさんの先生方に温かいお言葉をいただき、喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。中日書道会に入会して五十余年、素晴らしい先生方に恵まれご指導を受けて参りました。私のような浅学非才な物が、こんな榮譽ある賞をいただけるとは思ってもいませんでした。ほんとうに夢のようでございます。

これからも新たな気持ちで頑張つて参ります。よろしくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。まことに有難うございました。

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小島 瑞 柳

平成二十五年六月十六日(日)ウェスティンナゴヤキャッスル天守の間に於いて、平成二十五年年度総会、第六十三回中日書道展祝賀懇談会が開催されました。

今回は役員改選に伴い、新しく理事長、副理事長が選出されました。中日書道会の益々の発展を皆様と共に、祈願いたします。

清水里佳子様、ヴァイオリン、天野雅子様、ピアノによる「愛の喜び」の余韻の中、松永清石副理事長の開会のお言葉で始まりました。

海部俊樹名誉会長から、ユーモア混じえての政治活動のお話や、これからの中日書道会についてのお言葉を賜わりました。

中日新聞社常任顧問の小山勇様からも、「中日書道会とはとても長いご縁です。増々のご隆盛を」と、ご丁寧なお祝辞を戴きました。

常任顧問(副理事長)の後藤汀鶯先生は、愛知県芸術文化選奨文化賞をご受賞され、海部俊樹名誉会長から、花束と記念品が贈呈されました。「幼い時より書に親しみ、高校時代に加藤梅香先生に出会い、今に至ります。全ての皆様に感謝致します。」と謝辞を述べられました。

樽本樹邨名誉副会長は、第四十五回日展第5科(書)の審査主任に就任され、海部俊樹名誉会長から、花束が贈呈されました。

続いて東海テレビ放送常務取締役、河合信明様の乾杯のご発声で、祝宴が始まりました。

今年も、ご長寿のお祝い顕彰者六名のご出席を頂き、樽本樹邨名誉副会長から、花束とおみやげが贈呈されました。益々のご活躍をお祈り致します。盛況な賑わいの中、関根玉振副理事長の閉会の辞により、一〇〇五名のご参加を頂きました祝賀懇談会を無事終えることが出来ました。皆様に深く感謝申し上げます。



清興 ヴァイオリン 清水里佳子様
ピアノ 天野 雅子様



乾杯 河合信明様



祝辞 小山 勇様

平成二十五年度 功 労 者 表 彰

事務局長 伊藤 昌石

本年度功労者表彰は三名

故水谷苔径氏、故永治秋聲氏は、それぞれ北勢支部、濃飛支部創設時より多大なるご尽力を賜りました。

故篠田一鳳氏は長年書道人育成、中日書道会の発展に寄与され、その功績は多大でありました。

顧問
故 水谷 苔径氏



参与
故 永治 秋聲氏



参与
故 篠田 一鳳氏



表彰式に参列の関係者お二人



平成25年度 功労者表彰

ご長寿お祝い

中日書道展ご長寿出品者は満年齢八十八歳、九十歳、九十五歳以上の方々をお招きして、顕彰を行っております。

今年度は次の六名の方の出席をいただきました。

- 顧問 山中 秋邦
- 参与 位田 美千
- 評議員 清 芳園
- 評議員 服部 桂岳
- 評議員 保田 翠溪
- 準会員 谷川 景仙



ご長寿のお祝に出席の方々

平成二十五・六年度 新役員紹介

名誉会長

海部 俊樹

名誉副会長

樽本 樹 邨
安藤 滴水

理事長

鬼頭 翔雲

副理事長

松永 清石
関根 玉振
伊藤 昌石

事務局長

伊藤 昌石
(兼務)

理事

青木 清濤
天野 白雲
伊藤 仙游
上田 賦草
大池 青岑
大島 緑水

監事

(新) 山本 雅月
(新) 伊藤 英峰
(新) 横山 夕葉

(新) 山村 内江 俊鶴
(新) 松本 下英 風彦
(新) 中村 立玉 英強

(新) 富田 内峰 敏
(新) 武内 栄敏
(新) 佐藤 慶雲

(新) 柳原 晴夫
(新) 近藤 浩平
(新) 工藤 俊朴

(新) 川崎 尚麗
(新) 加藤 矢舟
(新) 加藤 夏舟

(新) 岡本 苔泉
(新) 岡野 楠亭

〈新しく役員となられた方々〉



副理事長 伊藤 昌石

この度は副理事長を仰せつかり、その重責を深く心に感じております。伝統あるこの中部日本書道会は、先人達が幾多の困難を乗り越えられて、その基礎をきづき、社団法人として今日の公益社団法人の中部日本書道会に至っております。

この輝かしき本会が益々隆盛の一途をたどり、公益社団法人の名に恥じぬよう、鬼頭理事長を中心に、松永副理事長、関根副理事長と協力し合って、本会創立の精神である「和」の心を忘れず、今迄以上に明るく輝やかしい会となりますよう、努力してまいります。来年は本会創立八十周年事業があり、更にその翌年には第六十五回中日展の記念展が計画されています。皆様の大きいご助力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事 梶山 夏舟

この度は伝統と歴史ある、公益社団法人、中部日本書道会の役員改選にもない、理事に推挙賜り、身に余る光栄と存じます。職責の重大さを痛感しております。精一杯、職を務めてまいりたいと思っております。会員、皆様方のご指導と、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。



理事 加藤 矢舟

この度は、来年初立八十周年を迎える輝かしい伝統と歴史ある公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき身に余る光栄と同時に責務の重大さに身の引き締る思いでございます。



理事 富田 栄楽

この度は伝統ある公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき、身に余る光栄と感謝申し上げますと共にその責務の重大さに身の引き締る思いを痛感致しております。少子高齢化、ネット社会



理事 山際 雲峰

が益々加速する中、日本の誇る伝統書道を守り、更なる発展をさせることが何よりの使命と考えております。諸先生方のご指導とご鞭撻ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この度の役員改選により、理事に推挙賜り、光栄であると同時にその重責を痛感しております。歴史と伝統ある公益社団法人中部日本書道会発展のため、微力ではございますが、責務を遂行すべく努力を致す所存です。諸先輩、会員の皆様の温かいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。



監事 伊藤 暁嶺

この度改選に伴い監事を引き受けることになりました。

公益社団法人の認可を受け、各部よりの報告書の確認を如何に進めるのか戸惑いと不安で一杯です。中日書道会は、来年初立八十周年を迎えます。又、平成二十七年には、本展六十五周年を迎えます。

四六〇〇人を超える会員が一丸となれば、記念事業の計画、それらの遂行が大きな力になると思っております。

三年前の三月十一日、東日本大震災により日本の経済が大打撃を受けました。出品点数も、震災の影響か、高齢化の為なにかやや減少傾向にあります。しかし歴史と伝統を誇る中日書道会ですから、皆さま方の真摯な熱意を持ってすればよい成果が期待出来ると思います。過去に、理事、企画部長、事業部長、教育部長、褒賞部長を歴任しました。その経験を生かして監事の仕事を全うしたいと思っております。



監事 柘 英峰

この度は、平成二十五年度総会において、思いもかけず監事の大役を拝命いたしました。まさに青天の霹靂であります。

会員として身を置かせていただき学書させていただきだけで有難い事と思っておりますのに、その上に、この様な大変身に余る光栄に浴し、恐縮しております。器も能力もない私の様な者が、お役に立てるか不安、戸惑いで一杯です。責務の重大さに身の引き締まる思いを痛感している所です。

職務遂行にあたっては、輝かしい歴史と伝統のある中部日本書道会の理念と品格を堅持し、その名を汚さぬ様、理事長先生はじめ諸先輩、諸先生方のご教導の下、微力ではありますが、誠心誠意努める覚悟でございます。ご覧の如き浅学非才の若輩であります。何卒、諸先生方、会員の皆様の温かいご指導ご鞭撻を賜ります様よろしく申し上げます。

平成二十五・六年度 新企画委員紹介

名誉副会長

樽本 樹 邨

理事長

安藤 滴水

副理事長

鬼頭 翔 雲

副理事長

松永 清 石

副理事長兼事務局長

関根 玉 振

総務部長

伊藤 昌 石

庶務部長

青木 清 濤

企画部長兼IT部長

天野 白 雲

横井 宏 軒

八十周年記念事業担当部長

輝かしい歴史と伝統のある中部日本書道会の理念と品格を堅持し、その名を汚さぬ様、理事長先生はじめ諸先輩、諸先生方のご教導の下、微力ではありますが、誠心誠意努める覚悟でございます。

研究部長

廣澤 凌 舟

教育部長

後藤 啓 太

褒賞部長

武内 峰 敏

渉外宣伝部長

岡野 楠 亭

記録統計部長

村瀬 俊 彦

編集部長

工藤 俊 朴

厚生部長

小島 瑞 柳

一宮支部長

岩田 潤 流

岩田支部長

半田支部長

山内 江 鶴

西三河支部長

丹羽 常 見

東三河支部長

古川 昇 史

濃飛支部長

石原 聲 風

北勢支部長

平野 公 慎

中南勢支部長

世古口 大 虚

岐阜支部長

林 玲 玉

佐野 翠 峰

〈新しく部長になられた方々〉



企画部長兼IT部長 横井 宏軒

今までの企画部長に加えこの度IT部長を拝命いたしました。

ITとは Information Technology (インフォメーション・テクノロジー)の略で、一般に情報技術と訳されます。IT部の業務としては、情報公開に関する事、情報収集に関する事、情報技術を活用した事務処理の効率化を進めることとです。従来手動で行われていた作業をコンピュータで効率化・発展させたもの、今までなかったサービスがコンピュータの応用によってはじめて可能になったものもあります。

多くの情報を蓄積していただける内容や推移を知ることが出来ます。情報自体に価値があり、情報収集、情報の入力的大事と考えます。そして「情報をどのように活用するか」どうやって仕事を進めていけばいいかの



八十周年記念事業担当部長 上小倉 積山

この度は、八十周年記念事業担当部長を拝命し、身の引き締まる思いです。歴史と伝統を有する中部日本書道会にとって、八十周年は重要な節目の年であり、その記念事業を担当させていただけることは、身に余る光栄であることは勿論であります。非常に重要な仕事を任されたことをひしひしと感じております。現在、中部日本書道会がどのようなポリシーを持って活

動し、これから先、どのような方向へ進もうとしているかを対外的にアピールする場にもなるものと考えます。この記念事業を通じ、多くの人々に、そして様々な世代に、文字が持つ力を、それを書くことから生まれる喜びを、いかにして感じ取ってもらえるかを模索してゆきたいと思っております。この大きな事業は、会員の皆様方の御協力なくしては成功させることは出来ません。私も精一杯努力してまいりますので、今後ともご指導、ご支援いただきませう、よろしくお願ひ致します。



第一会員部長

馬場 紀行

この度、二年間の第一会員部長を拝命致しましたが、前職の第二会員部長と何ら、作業的に変更はなく、先の二年間で培った会員部の職務を大過なく全うするつもりですのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



第二会員部長

山田 杏華

この度、第二会員部長を仰せつかりました。あらためて身が引締まる思いであります。過去三期六年第一会員部長として理事長を始め、諸先生のご指導を賜り努めさせていただきました事に心よりお礼申し上げます。少子化、高齢化、趣味多様化の時代ではございますが、書の芸術は遠々と輝き続いております。より書道会の魅力作りに励み、若年層の拡大に努めます。尚次年度には中日書道会八十年も控えておりますので、ここ一期二年間、微力ではあります私に出来る範囲で精一杯頑張つてゆきたいと思ひます。今迄以上に指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈新しく支部長になられた方々〉



一宮支部長 岩田 潤流

去る一月二十七日開催の一宮支部集會に於いて、重責を担う支部長を拝命致しました。日々を重ねる毎に、その責務の重大さを益々深く痛感しております。先輩の先生方、前支部長則武穹先生の温かい御指導を仰ぎつつ、一步一步慎重に進めたいもの至らぬ点は多く、常に不安と隣り合わせの毎日です。とにかく誠心誠意、精一杯努めさせていただくのみと、自分自身に言い聞かせております。幸運にも、支部運営を支えていただく執行部の先生方には大変恵まれ、本当に力強い限りです。一宮支部では年間関係行事が多く、執行部による準備作業は間断無く続き、夜を徹しての仕事も珍しくはありません。さて、来年は一宮支部創立六十周年を迎えます。多くの方々の御協力を戴き、一宮支部という「大家族」の皆様と共に、本部との連



半田支部長 山内 江鶴

携を保ちながら「和」をもって歩んでいきたいと願っております。何卒、御指導、御支援を賜ります様心よりお願ひ申し上げます。

この度、半田支部長の大役を仰せつかり、役職の重さ考えたとき、重責に身の引き締まる思いで一杯です。半田支部は本年支部設立五十周年の節目を迎えました。そして来年は学生展も五十回展を迎えます、この伝統ある半田支部を今日まで築かれてきた先輩諸先生方のご意志を守り、尚一層支部の発展を目指し、活力と和をもって支部運営を行っていききたいと思っております。さいわいにも新しいスタッフに多数の若い方も参画していただけた。この恵まれた環境のなか、全力で職務を勤めてまいります。今後とも何卒よろしくご指導、ご支援を賜



濃飛支部長 石原 聲風

本年一月の支部役員會に於いて濃飛支部、支部長に選任されました。大役を拝命し驚きと共に責務の重さに緊張の思いでいっぱいです。もとより浅学非才の身ではありますが、支部の諸先輩、会員のご指導ご協力を仰ぎまして運営に努める所存です。

りますようお願い申しあげます。

中津川、恵那、下呂市と岐阜県東濃飛騨地域に点在します支部ですが、設立より二十八年となり、歴代支部長の活躍もあり、地域の書道文化の一翼を担っていると自負しています。今後、も元気のある支部活動、展示会を目指し微力ではございますが頑張つて参ります。本部の先生方のご教示ご鞭撻を賜ります様、又皆様方の温かいご支援を願ひ申し上げます。



岐阜支部長 林 玲玉

一昨年、前岐阜支部長の急病により、急遽支部長代行を仰せつかりました。皆様方のご協力を戴き、一年七カ月を務めさせていただきました。

この度、役員改選により改めて岐阜支部長の大役を仰せつかりました。その重責に身の引き締まる思いで一杯でございます。

今年度は、岐阜支部設立二十周年を迎えます。結成以来の先人、先輩諸先生方が築き上げて来られました歴史と伝統文化を守り、微力ではございますが、一生懸命努めさせていただき覚悟でございます。

支部会員展、研修旅行、講演會と一年を通して成すべく事業は多々ございますが、会員相互の信頼と絆を大切に、心豊かに活動していききたいと思っております。

会員ともども、何卒、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第六十三回中日書道展を参観して

名誉顧問 西嶋慎一



アア、書は人なりだ。本年の中日展第一室に入って、私は強く感じた。本年は室の正面に、伊藤天游、土屋陽山、中林露風、樽本樹邨、黒野清宇と長老の作品が並んでいた。それぞれにある風格があり、生身の人間がある。ここでは作者の形代として書がある。

樽本樹邨は矢張り現役最高峯だけに、その形代が凜乎としていて、筆致にも響きがみなぎっていた。安藤滴水、鬼頭翔雲は未だ形に囚われるが、志向は樽本と同じ世界を望む。

黒田玄夏、平松紫雲には書き進む力と詩情を感じる。円熟した筆は濃厚な叙情世界を作り出す。中島藍川の篆刻も同じ境地の世界だろう。高木大宇は円熟に赴かず、筆の機能が生むさまじまを楽しむ。座間井邨、後藤秀園は、さすがに歳を感じさせ遊びの世界だ。

副理事長は油の乗り切った世代だが、後藤汀鷺の動き、関根玉振の厚味、松永清石の章法に特色が見えた。関根の作には、深

い線と軽い線が混在する。意識した姿なのか。

理事には充実した作が目立った。工藤俊朴、近藤浩平、加藤裕、伊藤仙游、上田賦草、横山夕葉の作が好ましかった。いずれも筆が練れていて修練の深さを思わしめた。この基礎の上に、表現するべき核を早く見出ししてもらいたいものだ。

岡野楠亭の篆刻も問題作だ。印に外郭をつけぬ手法は二世蘭台が多用した。その手法は布字の緊密さと強い刀法に支えられていた。岡野は刀法の強さで定評がある。しかし、朱白の分間に一考を要しはしまいか。監事にも実力者が揃う。山本雅月は切れ味鋭い筆で、深い線をかもす。加藤矢舟は、布字にたくまざる趣きを示す。梶山夏舟の運筆の間と章法の巧みさも楽しめた。

海部俊樹賞の鈴木功子は、筆の抑揚と頓挫をうまく用いていた。表現に無理がなく、抑制された筆で深い造形を生み出していた。大賞の瀨瀬卓葉は、修練を感じさせる筆で巧みな章法を演じていた。技法的に最も研鑽を積んだ一作であろう。

準大賞の富田青邑の歯切れの良い筆と、それが生み出す律動感は魅力的であった。牧惠清の大きく動かす筆が演ずる世界にも才能を感じさせられた。

かなでは平野仁子の丁寧な筆づかいが眼についた。第三部は植田錦舟の大胆な構成が光る。第四部は、受賞作のいずれもが恣意的で客観性に欠けるのはなぜか。表現の核に思いをいたして欲しい。篆刻の丹羽裕の余裕ある刀法は楽しめた。このクラスは技法の水準が高く層も厚い。中日書道会の底辺の広さを示すものだろう。

技法水準の高さと、それが生み出す充実した作品群の存在。第六十三回中日書道展を参観して印象づけられた特色はこの二つである。この傾向は、また、近年の中日展では継続して見られる現象で、幹部諸氏の指導の方向性を示すものでもあろう。

技法の修練とある水準の維持は、書の世界にとって必須の条件である。十二分な技法習得にもとづく表現を、これからも中日書道会は目指して欲しい。

ちかごろマスコミには、しばしば、筆文字、なる表現が登場する。筆で文字を書けば書道ではないのか。恐らく技法水準が十分でない、しかも扱いにくい筆が演出する意外性のある文字を賞でて筆文字、と表現するのであろう。それはデザイン性を優位に据えた発想である。

この様な現象を中日書道会の皆さんはどう考えられようか。書はデザイン性がなければ成立しないが、デザインだけでは書にならない



西嶋慎一先生

い。長い時間をかけて、築き上げられて来た書、の定義が挑戦を受けている様に、筆文字、の流行を見て、私には感じられる。中日書道会の皆さんも、かような社会現象があることを認識して欲しい。そして、あらためて、書の道に進む意義を考えていただきたいと思う。

第六十三回「中日書道展」管見

名誉顧問 田宮文平



富士山が、ユネスコの世界文化遺産に登録されて日本中が沸き立った。それについても自然遺産として申請し、認定されな

かったときのみなおの落胆振りが昨日のことのようにおもしろいおこされる。富士山の姿形はたしかに美しいが、世界に類例がないこととはない。それを考えないで申請したのは日本人のおもしろいことであつたのかもしれない。万葉歌にも謳われ、北齋の富嶽三十六景から浅間信仰に至るまで、類例のない富士山の「文化力」に日本人の多くが改めて認識を深めたにちがいない。

中日書道展は、中京地区を統合する最大の書道展である。このたびの第六十三回展は、公益社団法人に認定されて、さらに全国区のイメージを高めている。これぞ、申すまでもなく「文化力」である。愛知県美術館、名古屋市民ギャラリー栄、電気文化会館東・西ギャラリー、名古屋市博物館の四会場にわたって、まことに規模壮大である。

さて、次に愛知県美術館の第一室の主力作品によって第六十三回展の様相を伺うことにしよう。いずれも半折大。

名誉副会長の樽本樹郎『凜若喬嶽時』は、縦一行の五言句の行草体で、骨格強固。文字の大小も工夫。同じく安藤滴水『静かな眼』は、横形式に平明の書を味わい深く展開。落款も巧みだ。

理事長の鬼頭翔雲『對句』は、得意の隸書二行。潤筆主体だが、字間行間の純白を生かして重くならないよう演出している。

副理事長では、後藤汀鷺『劉基詩』は、変化のある二行の行草体で新境地に注目。松永清石『唐詩』は、縦三行の長丁場をリズム感よく展開。関根玉振の五絶は、求心力のある行書を単体で二行に書いて力強い。

常任顧問では、漢字系で土屋陽山『葉根譚』、伊藤天游『圓如太虚』、高木大宇『毛公鼎』、平松紫雲『大伴家持歌(原文)』、中林路風『微雨閑坐古松』、かな系で黒野清宇『黒鬼』、座馬井邨『良寛の歌』、後藤秀園『ほととぎす』、近代詩文系で黒田玄夏『田宮朋子のうた』、篆刻系で中島藍川『牆有風(白文)』等、さすがにキャリア充分で、それぞれ独自の世界をもっている。理事は、これからの中日書道展の中心となるべき人材である。

青木清濤『良寛のうた』は抒情的に巧みに展開。天野白雲『良寛のうた』は前者とは対照的に万葉仮名で丈夫振りに書く。伊藤曉嶺『森部海南詩』は、目にも鮮やかな深紅の紙に二行の行草体を堂々と展開。伊

藤昌石『月落下離天』は、五言句を草書一行に清韻のタッチで書く。事務局長として運営の要にある。伊藤仙游『高青邱詩』は、縦二行に行草体をいかにも若武者らしくダイナミックに展開。上田賦草『春日大風感懷』は、曙色の紙に三行の行草体を流れよく収める。大池青岑『禪語』は七言二句を縦二行に潤筆主体にしっかり書く。大島緑水『花盛り』は、東山魁夷の文から標題を大胆に造形。

岡野楠亭『十年磨一劍』の朱文は布置も巧妙で、落款の書もみごとだ。岡本苔泉

『石川啄木のうた』は、調和体に独自の視点があつて素晴らしい。加藤裕『長谷川權の句』は、方形に三行、筆致冴える。川崎尚麗『允禧詩』は、縦三行の行草体に中央の行に柱をつくる。工藤俊朴『陸游詩』は、横形式に七行の行草体に縦長、扁平の文字を巧みに織り込む。近藤浩平『ゆく先』は、藤原伊尹の歌を方形に五行、流れと散布を工夫。榊原晴夫『無聲慟哭』の白文は、宮澤賢治詩題により整正の篆体に刻す。佐藤慶雲『漢詩』は、や、扁平の行書二行に独自性を醸す。武内峰敏『窓』は新美南吉詩を縦三行にリズム感よく展開。武山翠屋『窓前芭蕉』は良寛詩を二行に濃淡自在に書く。津田秋月『王漁洋詩』は、独特の墨彩で丁寧な書いている。

中野玉英『李太白詩』は、縦二行に躍動的に展開。中村立強『鳳』は、筆勢豊かな現代造形。平松采桂『千字文の一節』は、縦一行に

堂々と書く。松下英風『五言二句』は、萬壑樓云々を二行に独自の感覚で展開。村瀬俊彦『定家の歌』は、縦形式に連綿と散布を生かす。山内江鶴『葛子琴詩』は、縦三行に字形をしっかりとらえて格調が高い。横山夕葉『忽』は、ゆっくりとした運筆が沈潜し、墨彩も美しい。監事の梶山夏舟『于謙詩』は、肌色の対聯様式の絹本に多字を独特に書く。加藤矢舟『万葉歌』は、方形に四行、新境地が感じられる。山本雅月『古今和歌集』は、貫之ほかを得意の小字で品格高く展開する。



田宮文平先生

第63回 中日書道展

出品総数 **4514点**
 若年数 **563点** (二科若年数486点)

4会場にて開催

出品数一覧表

展覧会資格／部門	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
審査顧問	6	3	2	0	1	12
特別出品	-1 2	1	-1 0	0	0	-2 3
一科審査会員	8 274	4 69	4 46	-1 29	19	15 437
二科審査会員	4 390	-7 80	5 97	1 39	-1 28	2 634
依頼	-18 294	2 67	8 91	-1 22	3 22	-6 496
無鑑査	4 316	-1 64	-9 89	-2 25	-1 30	-9 524
一科 (内 若年)	-19 661 (52)	-18 118 (2)	-6 183 (22)	3 35 (0)	6 89 (1)	-34 1,086 (77)
二科公募 (内 若年)	-64 871 (380)	-21 122 (10)	-8 213 (84)	-14 41 (5)	-11 75 (7)	-118 1,322 (486)
総計	-86 2,814	-41 524	-7 721	-14 191	-4 264	-152 4,514

⑨各枠上段は第62回中日展出品数との増減数

名古屋市ギャラリー栄

6月11日(火)～6月16日(日)

無鑑査(1部) **315点**



愛知県美術館ギャラリー

6月12日(水)～6月16日(日)

審査顧問、特別出品、一科審査会員、
 二科審査会員、依頼、中日賞(無鑑査)

1,592点



電気文化会館

6月11日(火)～6月16日(日)

無鑑査(2部～5部) **204点**



名古屋市博物館ギャラリー

6月18日(火)～6月23日(日)

一科 **1,086点**

6月26日(水)～6月30日(日)

二科 **1,322点**



主催 公益社団法人中部日本書道会、中日新聞社

後援 愛知県・岐阜県・三重県、名古屋市、愛知・岐阜・三重 各県教育委員会

審査総評

審査部長 関根 玉振

第六十三回中日書道展に入賞・入選されました皆様、誠にありがとうございます。

本年度の出品総数は、四、五一四点を数え、昨年に比べて一五二点の減でありましたが、低迷する経済状況からすれば評価のできる実績を残すことができました。

これも指導者の先生方と出品者皆さま方の意欲のためとの感謝申し上げます。

さて、審査は去る五月十一日(土)～十三日(月)の三日間、愛知県産業労働センター七階で各部とも公明正大に責任をもって、慎重なる選考にあたっていただきました。

初日の十一日は二科公募(一、三三二点)のうち、二科賞九九点、奨励賞五四五点、佳作四〇六点、入選二七〇点と決定いたしました。

二日目の十二日は一科公募(一、〇八六点)のうち、推薦三八点、特選一五三点、準特選三四一点、秀逸三四五点、入選二〇九点、それぞれ定められた入賞比率に基づき決定いたしました。厳しい審査の中、レベルアップされた作品ばかりでした。今後大きな自信をもって一層飛躍して下さい。



審査当日、審査員の先生方に説明される関根玉振審査部長

最終日の十三日は、無鑑査・依頼の作品は、特別選考委員二名の審査員により慎重審査の結果、海部俊樹賞一点、大賞一点、準大賞五三点、中日賞五一点、桜花賞七六点が晴れの栄冠に輝きました。特に海部俊樹賞の鈴木さんは、素直な筆法で一字一字スケールの大きい世界をつくっていました。

全体的にみますと、作品は古典を基にした作、個性的で斬新な作、意欲的に書き込んだレベルの高い作等、多種多様でありました。

来年は本会八十周年記念、再来年は本展六十五回記念展です。出品者の皆様方の更なるご精進とご活躍を期待いたします。

最後になりましたが、審査員、並びに委員の先生方には絶大なるご支援ご協力を賜り、心から深く感謝し御礼申し上げます。



特別賞選考委員

海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〔作品評〕

松永 清石（大賞、一部）・渡邊 笙鶴（二部）
黒田 玄夏（海部俊樹賞、三部）・中村 立強（四部）・岡野 楠亭（五部）

海部俊樹賞

第三部 鈴木 功子



この度は、第六十三回中日書道展におきまして荣誉ある海部俊樹賞を賜り誠にありがとうございました。
これも偏に、温かくご指導下さいました師始め、書友の皆様方のお蔭と深く感謝しております。

今回の作者三好達治の詩「胡桃譜」は胡桃に対する詩情面白く、大胆な筆致を

心がけ制作しましたが、書道の奥深さと自身の未熟さを極めて痛感した次第です。今後はこの賞に恥じないよう、より一層精進をして参る所存でございます。御指導賜りますようお願い申しあげます。

〔評〕

直線が冴え白が輝いている。横画を右肩上りで一貫し、整然としたリズムを奏でる受賞にふさわしい快作だ。



大賞

第一部 瀬瀬 阜葉

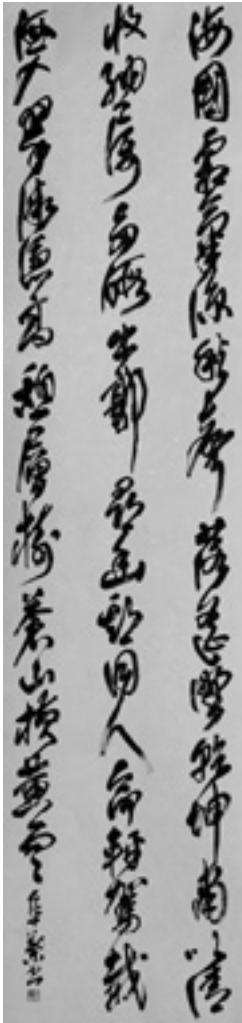


この度は思いもかけず「大賞」という荣誉ある賞を賜り、喜びと共に賞の大きさに身の引き締まる思いで一杯です。選考にあられた先生方に心より御礼申し上げます。また幼い頃よりご指導戴きました師匠や良き諸先輩、そして年老いた両親の支えのお陰と心から感謝致しております。

常々師匠より、墨の濃淡、墨量、行間、余白、文字の大小など、ご指導を戴きながら制作に取り組んでいます。なかなか納得のいく作品は書けません。これからはこの賞を励みに一層の努力をし精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。誠に有難うございました。

〔評〕

王鐸を主流とした筆線が回転するリズムで、すっきりと仕上げている明度の高い作。



海部俊樹賞・大賞・準大賞（第1部） 受賞者

準大賞

第一部 青山華塘



この度は思いも
かけず栄誉ある準
大賞を賜り、喜び
と感謝の気持ちで
一杯です。

これも偏に、永
年に亘り温かくご指導くださいました師のお
陰と心より厚くお礼申し上げます。また、こ
こまで続けることができたのも家族の協力
と、教室で熱心に書道に取り組み皆様の姿が
励みになってのことだと思えます。

近年、書道展に足を運ぶうちに、縦書きと
はまた一味違った横書き作品に惹かれ、今回

準大賞

第一部 荒川祥壽



第六十三回中日
書道展において、
思いがけぬ準大賞
をいただき、身に
余る光栄とうれし
く思っております。

審査に当たられた諸先生、師匠、社中の
皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

受賞作品は李商隱の詩、三首を五行で仕上
げました。盛り上がる所、行間、余白などに
注意し、力強く仕上がるよう心掛けました。
出品した作品は最後に書いたものでした。

挑戦してはみたもの
の、イメージ通りの流
れがでず、まだまだ
勉強不足を痛感してお
ります。

今回の受賞に恥じぬ
よう一層努力してまい
りますので、今後とも
ご指導ご鞭撻の程よろ
しくお願い申し上げます。

〔評〕

熟練された筆致、緩
急自在に紙面を押し快
い旋律となつて躍動す
る作。



何も考えず書くこと
に集中できる時間は、
私にとって宝物で、折
に触れ助けられて参りました。

これからも書の時間を大切に、努力した
いと思えます。今後ともご指導を賜りますよ
う宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

何紹基の趣きを根底に、淡々とこれだけの
多字数を纏め上げた手腕は見事。



準大賞

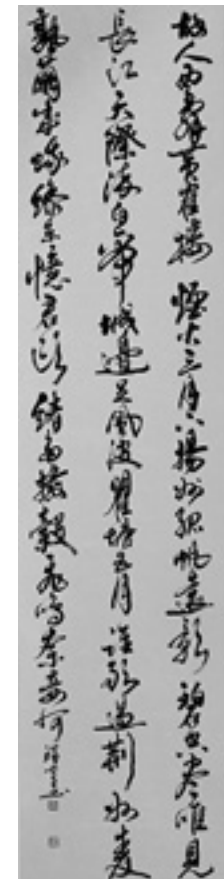
第一部 石井瑞鶴



この度は、栄誉
ある準大賞を賜
り、誠に有り難う
ございます。と同
時に、身の引き締
まる思いです。こ

れも偏に恩師をはじめ、諸先輩、書友の皆様
に深く感謝申し上げます。

今回の作品は、李白の詩二首ですが、余白



準大賞

第一部 井村耕心



この度第六十三
回中日書道展にお
きまして準大賞と
いう栄誉な賞を賜
り誠に有難うござ
います。

連綿のある行草体に魅せられ王鐸、傅山の
作品や、孫過庭の書譜をベースに十数年にわ
たり行草書の作品に取り組んできました。
今回の作品を制作するにあたっては、連綿

を活かせる行間と、墨の濃淡、文字の大小等
相反する要素が醸し出す表情ある線質でと試
行錯誤を繰り返しましたが、詩人の心の翳
までまだ、表し切れておりません。これから
の課題とします。

今後は、この賞に恥じぬよう尚一層、精進
を重ねて参ります。今後ともご指導ご鞭撻賜
りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

流暢に流れる筆線のリズムは心地よく、明
るい行間に爽やかさを感じる作。

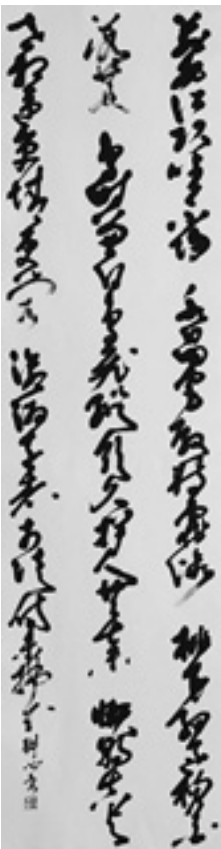
を生かし、流れのある余白を楽しめる作品を
目指しました。試行錯誤の毎日で、力量不足
を痛感しましたが、持てる力は出し切れた作
品に仕上がったとは思っております。

この受賞を励みにこれからも書道が続けら
れる幸せを噛み締めながら日々精進を重ねて
いく処存であります。

最後に、お導きくださった師匠、社中の先
生方に感謝申し上げます。

〔評〕

重厚で墨量豊かな洗練された筆致。潤と渴
の対比が明るさのある作を演出。



準大賞

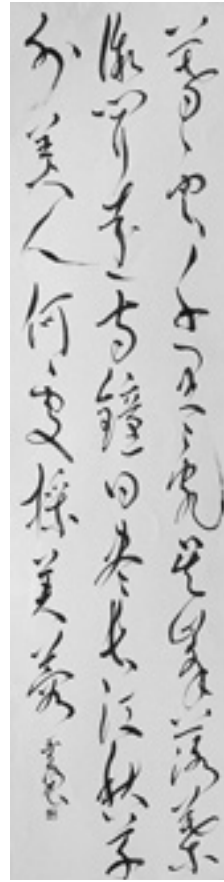
第一部 落合玉泉



第六十三回中日書道展におきまして、栄えある準大賞を賜り、感激のあまり言葉もあり

ません。恩師の熱い書への情熱に励まされ努力してまいりました。ありがとうございます。四季折々の花鳥風月を心の糧とし、詩情豊かに書への限らない道に精進してまいりたいと存じます。何とぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 ゆつたりとした大河のような穏やかな流れの中にも力強さを見る作。



準大賞

第一部 金澤秀駕



このたびは栄誉ある準大賞をいただき喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

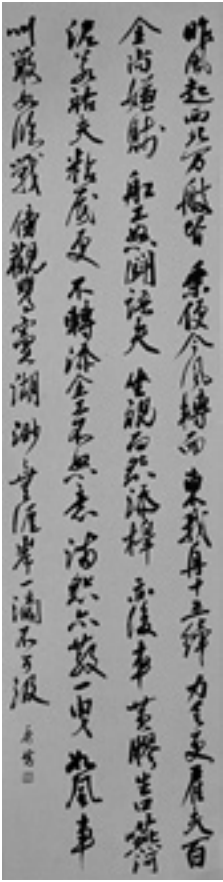
米芾の書に魅

せられ、筆の開閉、緩急、遅速の変化等、万分の一でも私なりに表現できたらと、行間、墨量、文字の大きさに気を付けながら書きました。書いているうちに書の中に吸い込まれる

ような一体感を覚え、好きな書が続けてこられたことに感謝しました。今回の受賞を機に、さらに研鑽を重ねて参りたいと思います。良き先生、良き仲間、良き家族に恵まれ、「ありがとうございます。」とお礼申し上げます。

〔評〕

洗練された堅実な用筆、気負いなく流れる旋律は品格ある作となった。



準大賞

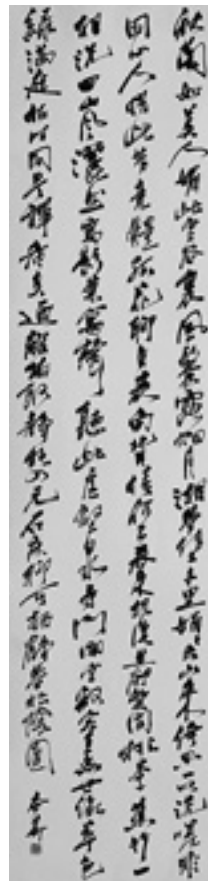
第一部 亀井杏華



始め、早三十数年。書を楽しむことを目標に今まで続けて来ました。今回準大賞を受賞することができ、心から嬉しく、また信じられない思いでいっぱいです。

この度は、中日書道展において、準大賞をいただき、本当にありがとうございます。ありがとうございます。

思えば、小学校入学前から書道を



準大賞

第一部 唐戸幸子



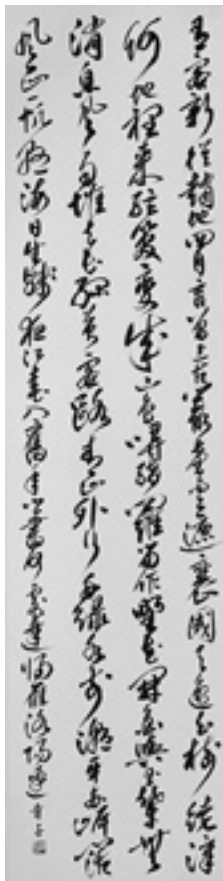
この度は、栄誉ある賞をいただきまして、ありがとうございます。私が小学生の頃、亡母がかな文字を習っていたのを側で見ました。「大人になれば私にも流れる様な字が書ける。」

と思いつきながら時が過ぎたのですが、世の中思いう様にいきませんでした。そこで思い

切つて教室の門を叩き、度々の中断をくり返しながら三十年程かかりましたが、本当にうれしい日がありました。一重に師匠のユーモアと、ヤル気の出るコメントによる和やかな教室の雰囲気の中で、続ける事ができ、今に至ったと思います。

〔評〕

手練れた筆致、軽やかなリズムに乗って進む筆線、適当に配した大きな字が効果的。



今回の作品は、四行ということで、行間をすつきり見せるのに苦労しました。墨のにじみやかすれ、強弱をバランスを考えて入れ、自分の持ち味である力強さを出せば、と思いい取り組んで来ました。幼い頃より書の基礎から教えていただき、時に厳しく時に優しくご指導いただいている師匠には、感謝しても足りないくらいです。これからも、師匠のもと、仲間と共に書に精進していきたいと思ひます。(本当にありがとうございます。)

〔評〕

古意あふれる形姿、一貫した気脈は最後まで、乱れることなく纏った作。

準大賞

第一部 草野慧泉



この度は、伝統ある中日書道展において栄誉ある賞をいただき、有難うございました。受賞に際し、ご選考いただきました先生方に心より御礼申し上げます。大変光栄に感じますとともに、過分な受賞に身の引き締まる思いです。

日頃は、半紙に王羲之を勉強していますが、今回の作品は王安石の五言律詩を選び、行間

準大賞

第一部 白須賀 香園



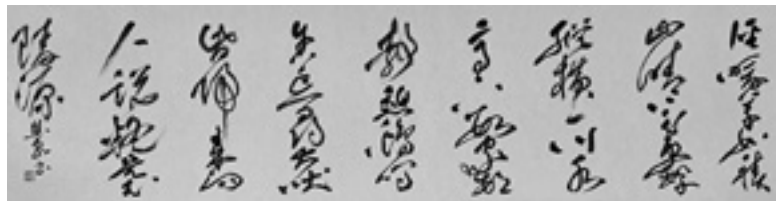
この度は自分の目標でもありました準大賞をいただき、有難うございました。熱心に指導くださいました師に感謝でいっぱいです。また刺激し合う書友にも恵まれ長年続けることができました。以前から呉昌碩に取り

の明るさに注意し筆をゆったりと運ぶことに気を付けました。趣味の一つとして始めた書道ですが、今回の受賞を励みにこれからも研鑽し、楽しく作品を創っていきたいと思っています。中日書道会の益々のご発展を、お祈り申し上げます。

横への振幅を意識したこの作、随処に表われる自然な空間が作品を大きく見せている。

組んでまいりましたが、なかなか思うように進まず迷いながらの作品づくりでした。今回の受賞を大きな励みとして、新たな一歩を踏み出したいと思えます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

呉昌碩を踏まえた筆法と罫線がアクセントとなり作品が引き締って見事。



準大賞

第一部 杉浦昇旭

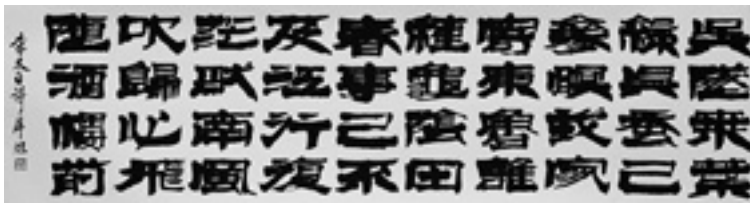


この度は栄誉ある準大賞の朗報を戴き、驚きで身が引きしまる思いを致しております。書を如く楷書、行書、草書、そして隷書と一歩一歩進んでまいりました。その間、師匠には永年に亘りご指導頂き深く感謝申し上げます。あわせて、諸先輩方の温かい励ましに守られたお陰だと思っております。

今回の作品は漢隷中の代表的な名品「乙瑛碑」を骨子として重厚で堂々とした風格のある線質と空間の美しさを出すよう心掛けて制作しました。

今後は、墨量と線質にスピード感などを加味した力強い作品を旨とし、一層努力致す所存でおります。

古典の練度の高い筆線が織りなす形姿に安定感がある。重厚だが明るく纏めた実力は見事。



準大賞

第一部 竹内由美

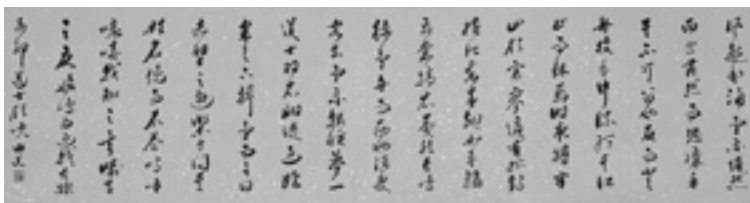


突然の受賞の知らせに驚き、喜びつつも賞の重みも感じております。ご指導くださった先生方のおかげで、やっと準大賞を受賞することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。この受賞で恩返しができました。

今回の作品である、祝允明の赤壁の賦はこの数年来書き込み続け、色画仙紙に字の変化と墨の濃淡に気配りつつ書きましたが、思うようにならず苦労しました。しかし最後に少しは作品として表現することができたのかと思えます。

書の世界は奥深く、幅広くもあります。集中して取り組む時間もなかなかとれないこともあり、まだまだ勉強不足であります。この受賞を励みに今後も古典を基礎に勉強を続け、書の世界の一助を担えるよう精進いたします。

古法を基調に練熟度の高い用筆の妙。一貫した流れで糸の乱れなく纏めている。



準大賞

第一部 土屋春聲



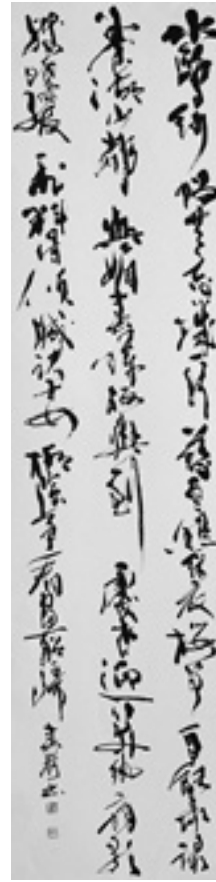
この度は大変栄
誉ある準大賞を頂
き、身に余る光栄
と感激で一杯で
す。これも偏に師
をはじめ諸先生

のご指導の賜と心から感謝しております。
書に入門し、長年学んでまいりました。孔
子の「学ぶだけで考えることをしないと物の

道理は明確にならない」そして、師が常におつ
しやる「思索し、決断し、実践する」のお言
葉にどう答えればよいか、未だ距離があり未
熟さを痛感しつつも、努力したいと存じます。
今後はこの賞を励みに、更に研鑽を重ね人
生において書を心の糧に歩んでまいりたいと
存じます。今後ともご指導の程よろしくお願
い申し上げます。

〔評〕

直線を意識した運筆、縦へのリズムが行間
を明るくし筆の開閉がよく立体感のある作。



準大賞

第一部 角田紫苑



この度は、思い
がけなく準大賞と
云う名誉ある賞を
頂き有難うござい
ました。

これも偏に、温
かくご指導いただきありがとうございます。賜
と深く感謝致します。

個性的な書をと、墨量、力強い線、全体のバ
ランス等を心掛け筆を運びました。しかしな
かなか思うようには進まず、自分の力のなさ
を痛感しております。
頂きました賞の喜びを礎に、一層の努力を
重ねていく所存でございます。
今後ともご指導の程よろしくお願い致しま
す。

〔評〕

統一感が良く一糸乱れぬ筆法は、その緊張
感が最後まで一貫している作。



準大賞

第一部 富田青邑



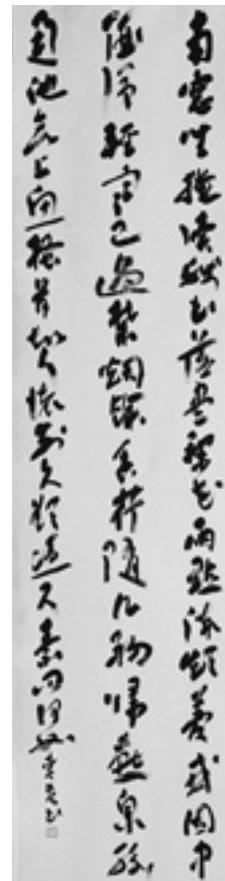
この度は、栄誉
ある賞をいただき
身に余る光栄
と感謝致します。
これも偏に師
をはじめ諸先生

方のご指導ご支援の賜とお礼申し上げます。
遅々とした歩みの中、「継続は力」と思い
ながら進めて来ました。ようやく先輩方の背
中が少し見えて来たと思います。

作品は、草行の単体で相矛盾するような流
麗さと力強さを求め、試行錯誤をくり返しな
がら書きました。
結果は思いとはほど遠く、今さらながら勉
強不足と未熟さを痛感した次第です。これ
を機に一層の努力、研鑽を重ねるつもりです。
今後とも、ご指導のほどよろしくお願
いします。

〔評〕

練熟した筆線の織りなす形姿。単体作なが
ら大小疎密の構成がすばらしい。



準大賞

第一部 外山悠汀



この度は、栄誉
ある準大賞を戴
き、誠に有難うご
ざいました。こ
れも偏に「継続は
力」「何事も経験」

と温かく熱心にご指導下さいました師匠はじ
め、諸先輩方のあたたかい励ましと、家族の
支えのおかげと心より感謝申し上げます。
作品は、行間のバランス・墨量・張りのあ

るしなやかで充実した線や流れ等思うように
表現できず、力量の無さを痛感致しました。
書を通じて経験したすべての事は私にとつ
て大切な宝です。この受賞を機に新たな出発
点として、更なる精進を重ね見聞を広め、楽
しみながら「書」と向きあってみようと思
います。今後とも一層のご指導を賜りま
すようお願いします。

〔評〕

この作元略を意識したその筆意とゆつたり
とした構成、行間の白さが際立った作。



準大賞

第一部 西田 玲舟



この度は、榮譽ある準大賞を賜り、驚きと喜びと共に感謝の気持ちでいっぱいです。これも偏に温かくご指導下さいました諸先生方の賜と厚く御礼申し上げます。

力強い線の表現、墨量や余白に留意し、試行錯誤をくり返しましたが何ひとつ思うようにならず改めて自己の未熟さを痛感いたしました。

〈評〉

この受賞を励みに、これまで以上に精進してまいりたいと思います。今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



準大賞

第一部 西村 松花

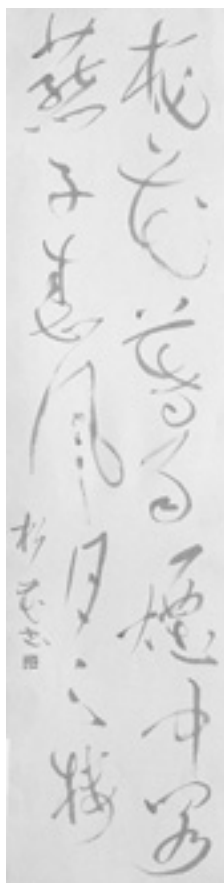


この度は第六十三回中日書道展におきまして榮譽ある準大賞をいただき、誠に有り難うございました。これも偏に社中の諸先生、諸先輩方の熱心なご指導と温かい励ましのお陰と、心より感謝申し上げます。

ゴールが遠のいていくかのような心の焦りと葛藤のなか、何とか今の自分の力を精一杯出した作品が出来あがりました。しかし、目指すところにはまだまだ遠く、書の奥深さと自分の未熟さを痛感しております。

〈評〉

これからも書道が続けていける幸せに感謝し、より一層精進を重ねて参りたいと思います。今後ともご指導を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。



準大賞

第一部 野々垣 清城

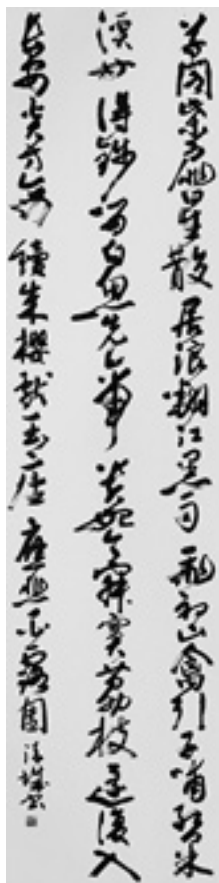


準大賞のご通知を受け取り、一瞬、間違いでないかと驚きました。このような大きな賞は、私には遙か彼方の夢

でした。書道の勉強を始めたのは、定年退職後ですから、「六十の手習い」です。なかなか上達しません。いつも「継続は力なり」をモットーにひたすら書き続けて来ました。既

〈評〉

鍛錬を経たその筆法に熟達を見る。淡々と流れる堅実な構成の中に奥深さを感じる作。



準大賞

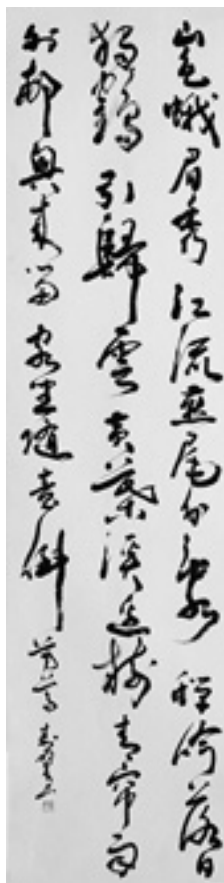
第一部 日比野 寿翠



中日展に出品を始めて30年近くになります。特別、書く事が好きとか、才能がある訳でもなく、ただコツと書き続けてきた気がしますが、ここまで続けられたのは、やはり師匠の大きな存在です。筆さばきに感動をし、教えに耳を傾け、温かいお人柄に生き方も学んでまいりました。今、改め

〈評〉

自然に流れるリズムと奇を衒わない構成。気持ちのゆとりが紙面に満ち満ちている。



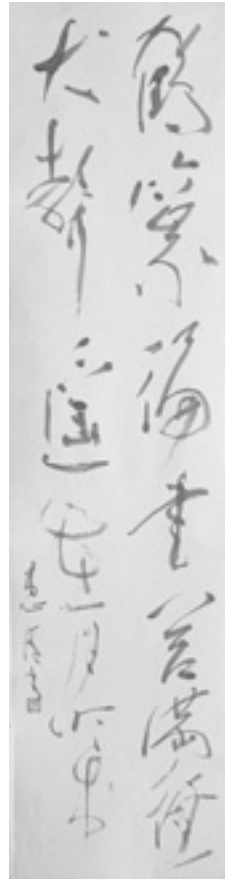
準大賞

第一部 牧 惠清



遠い夢と思つていた「準大賞」。様々な思いで一段一段と階段を登つていく中に夢が現実となりました。これも偏に永年に

亘りここまで導いてくださった師のお陰である、深く感謝致しております。今回の作品は一〇〇人余り参加の麗筆会主



催の一泊二日の錬成会において、師、諸先生方社中の皆様から頂いた温かく熱心なご指導と励ましで、何とか仕上げた作品です。厚くお礼申し上げます。これからは、この受賞を励みとして一層の精進をして参りたいと存じますので、今後共にご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

力強い筆線が疎密潤濁がよく調和している。用筆に安定感があり品よく纏まっている。

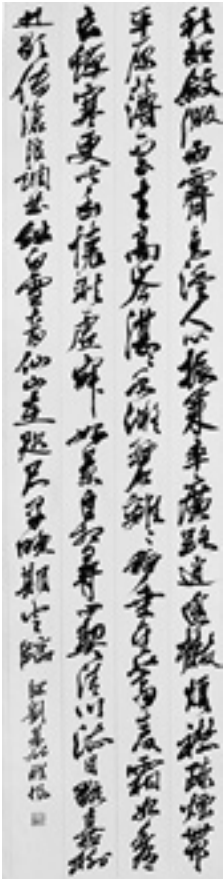
準大賞

第一部 松田雅風



この度は大変栄誉ある賞を賜りまして誠に有り難うございました。自分の中では遠い目標に思えておりましたが、それが現

実のものとなり夢のようで、身に余る光栄でございます。ここまで多くのご指導を頂きました師匠を始め諸先輩の皆様の励ましに、厚く感謝申し上げます。



この作品は、点画をしっかりと書く事と、墨量と余白に留意して必死に努力を重ねました。それでもなかなか師の教えの様には成らず、書けば書く程書術の入口にも立てていない自分の学びの未熟さを痛感いたしました。まだまだ精進あるのみです。家族の理解にも感謝を忘れず、力強い線を求めて自己研鑽に邁進いたす所存です。今後とも宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

密度ある構成は行間の響き合いと軽快なリズムが心地よく爽やかな作に仕上がっている。

準大賞

第一部 松平翠泉



この度は栄えある準大賞をいただき、大変有難うございました。これも偏に師匠、諸先輩、周りの方々の

お陰と感謝して居ります。昨年より横の聯に挑戦し、題材は白居易の詩三首をひとつの作品にしました。なかなか書けず、苦しい思いをしました。特に作品全体の墨量が均一になり、単調になる事でした。何枚も書き込む中にどうにか変化が生まれ、仕上げる事が出来ました。

準大賞

第一部 水野清花



この度は準大賞という素晴らしい賞をいただき、大変うれしく思います。長年の間ご指導いただいた師を

はじめ諸先生方のお導きに深く御礼申し上げます。中日展への初出品は大学三年生の時でした。結果はあまり良くありませんでしたが、大きな書展に参加出来て、嬉しかったのを覚えております。当時はまさか自分がこのような賞をいただくとは想像もできませんでした

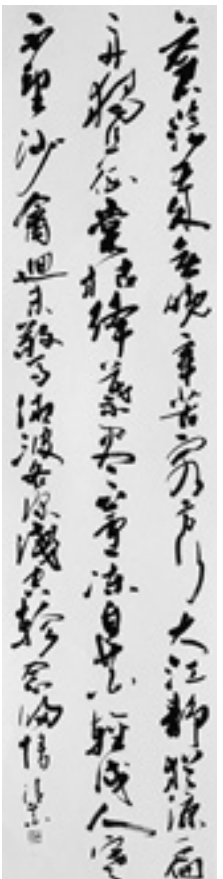
今回の作品を書くにあたり墨の濃淡、潤濁、左右のバランス、行間の明るさ、

行の流れ、等々まだまだ難しい点が多く残りますが、今後の課題として、勉強してまいります。

〔評〕

横作品でありながら、やや抑制された振幅と大きくとった行間に余白の美しさが光る。

が、出品は続けていきたいと考えておりました。その思いどおりに二十年以上続けることができました。その環境をあたえてくれた家族にも感謝しております。作品はまだ未熟で長い年月の勉強が必要で、これからもよろしくご指導お願いいたします。



緩急を駆使した軽妙に流れる律動感が快い。安定した構成と筆線に練度の高さを感じる作。

準大賞

第一部 水野朋香



この度は、栄えある準大賞を頂き誠にありがとうございました。未熟な私にはとても重い賞で感激しておりますと同時に身の引き締まる思いでございます。

これもご指導下さった師匠をはじめ、諸先生方のおかげと深謝しております。ずっと応援してくれた亡き父に報告し、家族の理解に感謝しながら、今後一層努力していきたいと思っております。

〈評〉

気負いのない軟らかなタッチの運筆。行間の呼応もよく品のある作に纏めている。

準大賞

第一部 村井香仙



思いもよらぬ受賞のお知らせに驚きと感謝の気持ちで一杯でございます。誠にありがとうございます。うございます。

学び、筆を持つ喜びを知り、書を通して人としての心の勉強もさせていただきました。隷書を始めて二十年余り、勢いのある字を心掛けて取り組んでまいりましたが、なかなか思うように書けず反省ばかりです。多くの課題がありますが、この賞に恥じぬよう一層努力してまいります。

〈評〉

古典を踏まえた伝統の書風。後二行が作品全体をよく締めていて明るさがある作。



準大賞

第一部 森本夏溪



身の引き締まる思いが致しております。これも偏に師匠をはじめ、諸先生方の温か

いご指導のお陰と心より感謝申し上げます。今回も王鐸の力みのない大らかな流れを出せればと取り組みましたが課題が残るばかりです。今後も淀みないのびやかな線が出せるよう努力を重ねていきたいと思っております。ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

〈評〉

横よりも縦への展開を意識した筆法、大きくとつた行間は黒よりも白さが光る作。

準大賞

第一部 安田玄遠



左利きの私が十八の時、入門を許されて以来中日書道展への出品を重ね早や十数年の年月が経ちました。

日展に出品をしております。書によって結ばれた縁に感謝しつつも未来ある子どもたちに書を伝えていくことの責任と重圧を背負う立場として、改めて今回の受賞は喜び以上に身の引き締る思いで一杯です。偉大なる先人の一人、中野越南は『真の線』という表現を以て書の理想とされました。いつの日か私も真の線を体得すべく今回の受賞に驕ることなく更なる研鑽の為に精進していきます。

〈評〉

豊潤で深みのある用筆に古典の習熟を見える。大胆な構成は作品を大きく見せている。



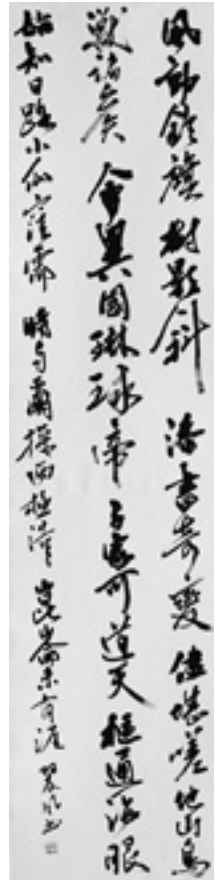
準大賞

第一部 箭野翠風



伊勢神宮の式年遷宮と出雲大社の大遷宮の二大神事が重なるすばらしい年に、栄えある「準大賞」を賜り

身に余る光栄と喜びの気持ちで一杯でございます。これも偏に寛大なお人柄の恩師をはじめ、



社中の諸先生方の温かいご指導と励ましのお陰と心より感謝致しております。運筆のリズム・墨量の変化・筆圧など、私にはまだまだ課題が山積でございますが、今後とも研鑽を積み、一歩一歩、前進してまいりたいと思っておりますので、よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕 安定した結構のこの作、王鐸の筆意を習熟し、一貫した流れで纏めた手腕は流石。

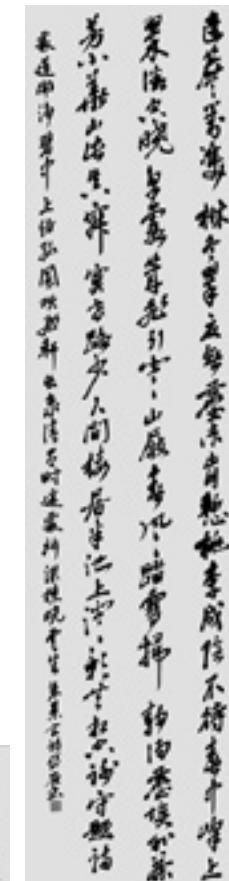
準大賞

第一部 鷺津岱嶺



この度は、思いがけない準大賞という身に余る賞を頂き、大変感激しております。これも偏に、師匠

の温かいご指導の賜と心から御礼申し上げます。と、審査にあられました諸先生方のご厚情の振り返ってみますと、幼い頃から氣長に楽



しく続けて参りました書ですが、まだまだ未熟で書の奥深さに力不足を思い知らされるばかりです。今回の受賞を励みとし、賞に恥じぬよう精進、努力を重ねていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくご指導下さいませようお願ひ申し上げます。有難うございました。

〔評〕 文字の大小疎密の変化が快いリズムとなつて紙面を圧している。呉昌碩の習熟度の高い作。

準大賞

第一部 若山峰瀨



この度は、準大賞を受賞でき感慨無量です。私の作品は、昨年購入した「中国の古典」(角川ソフィア文庫)の季

白から「將進酒」という詩を選択しましたが、酒にまつわる「いわゆる」楽しい詩文が目にとまったからです。私ごとで恐縮ですが、書「を習ひ初めた



のは会社を退職した六十才の年で、家内がボケ防止のため何か習い事をしてはとアドバイスをしてくれましたのがきっかけで、あれから二十年の歳月を経ました。当時を思い起しますに「書道」の奥深さも知らずに月日を重ねてきましたが、「中日書道会」へ加入し、少しは作品が書けるようになり、師匠を初め先輩方のご指導をいただきまして、今日の栄えある賞を頂くことができました。

〔評〕 木簡が基調か。これだけの単体多字数を最後まで心の乱れの無い緊張感と氣力に敬服。

準大賞

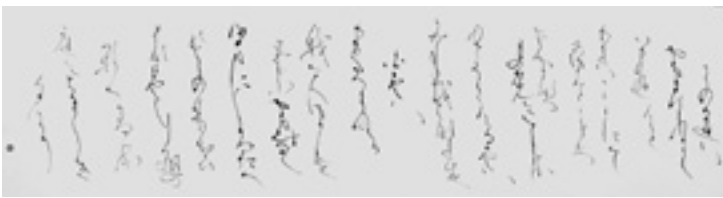
第一部 朝岡伸



この度は身に余る賞に推挙いただき誠にありがとうございます。これ偏に師匠はじめ諸先生方のご指導と教室仲間の人達との交流の賜物と深く感謝致しています。中日展には数年前から中日サイズ横に歌四首で挑戦しています。それというのも研究会などで「あなたにはその大きさの文字が適ってるよ」とのご助言を得て、自分自身も何となく書きよ

い文字数だなどと思いつながら出品していたこと

ろ、思いがけず桜花賞をいただき、やはりこの中字位の大きさが自分にとって相性が良いのかなと少し自信が付いて書き込むうちに肩の力が抜けて少し楽に書けるようになり、面としての白を意識して書いたその中の一枚が今回の作品となりました。



〔評〕

筆圧を充分きかせた弾力のある線と流動感のあふれた流麗さがすばらしい作品。

準大賞

第二部 近藤 由果



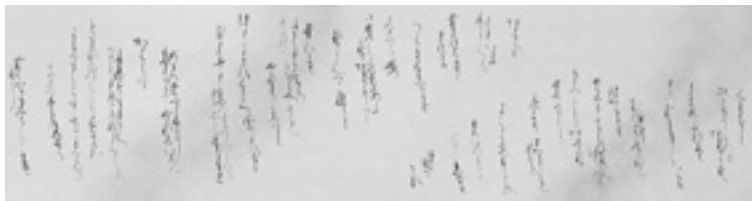
この度は栄えある準大賞をいただき、身に余る光栄と厚く御礼申し上げます。これも日頃よりご指導くださる師匠や社中の皆様のお陰と、感謝の気持ちで一杯です。

ここ数年、百人一首を細字で書く作品を試行錯誤してまいりました。今回は二つのまとまりを作って構成してみました。墨量や線の弱さに悩みましたが、温かくご指導くださる師匠と諸先輩、書友の方々に励まされこまごまです。

まだまだ未熟な私ですが、頂いた賞に恥じぬよう、更に努力精進して参りたいと存じます。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

渋味のある線と散らしの妙が作品の厚みと奥行きを感じさせる作品。



準大賞

第二部 新保 美月



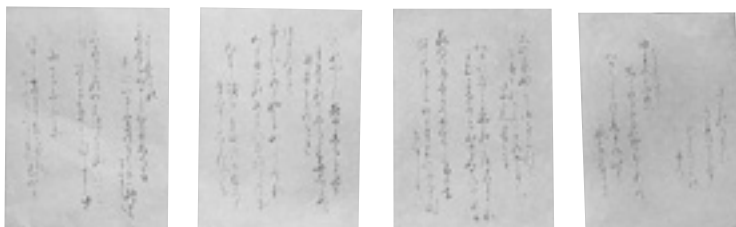
この度、第六十三回中日書道展におきまして栄誉ある準大賞を頂き、誠にありがとうございます。思いもよらぬ知らせに感激と喜びで一杯でございます。これも偏にご指導下さいました諸先生方諸先輩・書友の皆様方のお陰と深く感謝して居ります。この賞を励みとして、改めて古典に学び、線質を鍛え魅力ある書を目指して一層の努力を重ねて参る所存でございます。

最後に家族の協力により、書を学ぶことの出来る幸せを胸に、たゆまず前進して行きたいと思っております。

今後共よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。心より御礼申し上げます。

〔評〕

繊細な線と躍動感のある表現から清楚で切れ味のよい作風を醸し出した秀作。



準大賞

第二部 菅沼 柏葉



今回、図らずも中日書道展で、準大賞という身に余る賞を頂き、驚きと喜びで一ぱいでございます。心より厚く御礼申し上げます。

常々指摘されます墨量、線質の甘さ等、なかなかうまくいかず、料紙に助けられ、自分の力不足を思いしらされた作品ですが、これも一重に病を押しすご指導下さった師匠をはじめ、会の諸先生方、お仲間、家族の応援があつてこそこの賞です。

会の中で勉強出来ることに感謝しつつ、この賞の重みをかみしめ、一層精進せねばと心新たにいたしております。どうぞ今後共よろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。

〔評〕

鋭い線と散らし構成の美しさが、落着きのある壮重な作品としてまとめである。



準大賞

第二部 鈴木 稲水



この度は、栄えある準大賞の吉報をいただき厚く御礼申し上げます。

これも偏に日頃より、ご指導いただいております、わが師匠をはじめ、よき社中の方々の、お陰と、感謝の気持ちで一杯です。

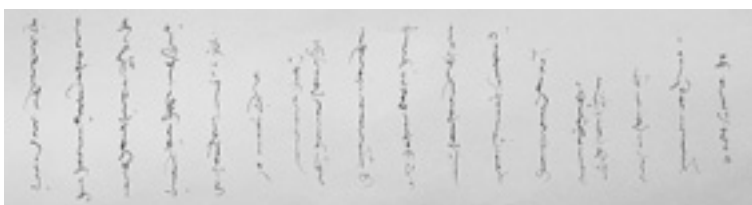
行間と、後半の盛りあげに注意したつもりですが、なかなか思うよう出来ず、力不足を痛感して居ります。

終りのない書の道、今回の受賞を励みに欠点を補いつつ、魅力のある作品作りを心がけ、精進していきたいと思っております。

今後とも諸先生方の御指導の程よろしく、お願い申し上げます。

〔評〕

運筆と用筆の技術の高さが線質のすばらしさを出し、その上作品構成も気品に満ちている。



準大賞

第二部 野口 紀代子



思い掛けなく立派な賞をいただきありがとうございます。もう、数十年も前のこと。師匠より手本をいただくことから始まり、何年か過ぎた頃から自分で書作するよう指導を受けました。臨書を基調とし集字しながら一首より始めたものです。当時は集字辞典なるものは無く自分で作ったものです。一文字変えると一変する。まるで生き物のように、喜びだったり落胆だったり、そんな醜味を味わいながら。今日此の時を迎えられましたのも、永い年月関わりあってくださいました方々のお陰でございます。ありがとうございます。

上品で艶のある線の美しさと墨量の変化が清らかで厚みのある作品にしている。



準大賞

第二部 平野 仁子

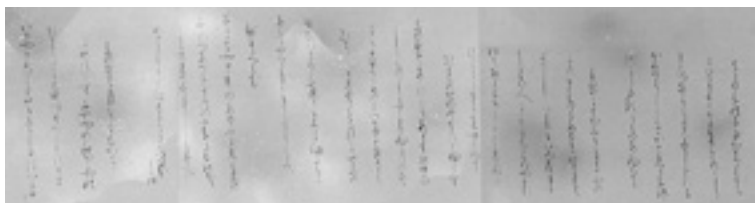


第六十三回中日書道展におき、準大賞を頂くことができ大変光栄に思っております。いつも丁寧にご指導頂きました師匠、そして今まで長い間支えてくださった方々に、感謝の念を捧げたいと思います。

この道は、遠く深く限らないものと判りつつ「力まず、急がず、一時をも大切に」を心にし、精進して参りました。最近やっと、紙・筆・墨の全ての大切さに気が付き始め、古典の臨書を弛まず努力すべきと実感し、今は腕に覚えさせるのに精一杯の段階です。

これからもこの賞を励みに、試行錯誤をしながら自己表現が出来るようになればと、精進して参ろうと思っております。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

作品の構成は平明であるが、洗練されて温かみのある味わい深い線質が魅力的な作品。



準大賞

第三部 植田 錦舟



「準大賞」のお知らせに、喜びとともにビックリしました。同時にいつも熱心にご指導くださる先生、先輩、共に学ぶ皆さんに心より感謝しお礼申し上げます。

仕事が多忙、母の介護、自身の体調不良の時も、できる範囲で「書」を続けることが気分転換になり癒されてきました。しかし作品



準大賞

第三部 太田 浄泉



この度は、栄ある準大賞を戴き誠に有り難うございました。

これも偏にご指導下さいました師をはじめ諸先生方、社中の皆様の温かい励ましのお陰と心より感謝申し上げます。白秋の詩集「思ひ出」の中の一編で、詩の



づくりとなると難かしく未熟さを痛感しております。今回の作品は社中の錬成会の際に皆さんの熱意に力をいただき、素直な気持ちで一気に書き上げたものです。この受賞を励みに、古典を勉強し、線を磨いて気負わず自分らしい作品が書けるよう一歩一歩精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

聲のひと文字でしつかり締めた。凛とした北の風景が眼前に浮かぶ作。小字に厚味加われば更に佳となる。

情景をイメージし乍ら、運筆、墨量に留意して作品作りに取り組みました。その作品の受賞はとても嬉しく、これを励みに更なる努力を重ねて参りたいと存じます。今後とも、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

墨量の使いどころが実に節理に叶い、潤濁のバランスが見事だ。起筆に意欲あるタッチが働いて効果あり。

準大賞

第三部 國府谷 妙仔



この度は準大賞を授賞させて頂き有難うございまして。厚くお礼申し上げます。これも師匠始め皆々様の御指導のお陰と感謝致します。日頃は色々の錬成会や美術館巡り等、善き物を沢山見聞きして楽しんでいますが、この度の受賞で更に伸びる機会を作って頂き、喜んで居ります。作品は詩の美しさ墨の濃淡、かすれ、字の配置、大小等、師匠に導びかれその事が少しでも出来る様になったからかと喜んで居ります。

後になりましたが幼少の時から善い物正しい事を見せよき道を歩ませて呉れた今は亡き父母又息子を始め家族の皆々に感謝したいと思えます。ありがとう。

〔評〕

多字数書きは時に平板になり易いがこの作は緩やかな気持ちの動きを伴って、強弱肥瘦が自然に醸されている。



準大賞

第三部 鈴木凍山

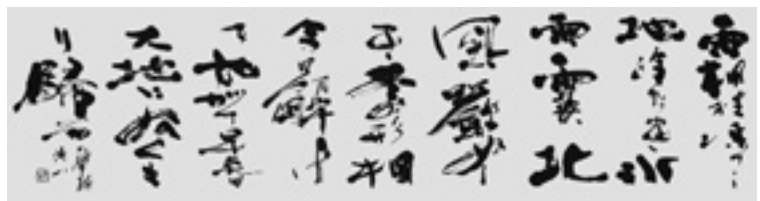


この度は、思いもよらない大変な賞を賜り、喜びと共に大変身の引き締まる思いです。これまで根気よくご指導してくださった師匠や諸先生方、励ましてくださった書友のお陰と心より感謝しております。堀口大學の「早春歡喜」を題材に作品を作りました。厳しい冬の寒さの大地が陽光を受け、温んでゆく情景を思い浮かべながら筆を進めました。あまりにも壮大な自然を歌った詩に何度も筆が負けてしまいそうになりましたが、何枚も書くうちに気持ちが高まり、夢中になって書き上げることができました。

まだまだ未熟な私ですがこの受賞を励みに精進して参りたいと思えます。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

線に重厚味を見せそのポリユームが紙の白を美しく見せた。又字粒の大小で明るさを工夫したのもいい。



準大賞

第三部 鈴木美月



第六十三回中日書道におきまして、身に余る榮譽を賜りましたこと心より御礼を申し上げます。これも偏に師匠をはじめ、会の諸先生方、書友の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

作品は金子みすずの詩文で、「明日」という題目でありました。私は明日という未来に思いを馳せる事ができる環境に感謝をしながら制作をいたしました。造形に乏しく力量

準大賞

第三部 平岡妙紅

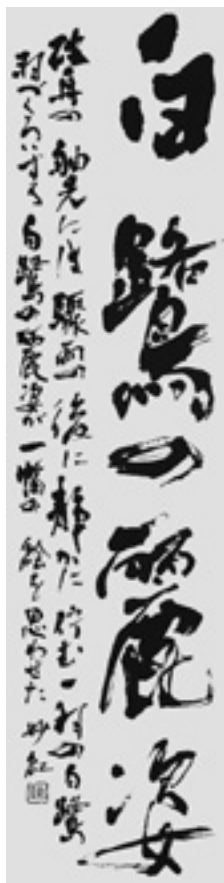


この度、栄えある準大賞を賜り、喜びと感謝の気持ちで一杯です。これも偏に恩師はじめ諸先生方のご指導があればこそ、又、社中の皆様や家族のお陰で今日まで書の道を歩むことが出来たと感謝しています。

この作品は、旅に出掛けた時の感動の一部分を作品にしてみました。取り組んだものです。いざ書いてみますと構成がまとまらず、大字と小字のバランスも難しく締切間際

〔評〕

「白鷺の麗姿」と一揮した氣勢にまず眼を奪われる。後半の小字も筆勢変わることなく終始練度の高さを見せる。



不足を痛感いたしました。今後は、この賞に恥じないように一層精進してまいりたいと存じますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

「みすず」の詩から浮かんだ夕暮の情景、その詩情を楽しむかのように緊張らず書いている。あしたも楽しそう。



まだまだ未熟な私ですが、この賞を励みに更に精進して参りたいと思えます。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

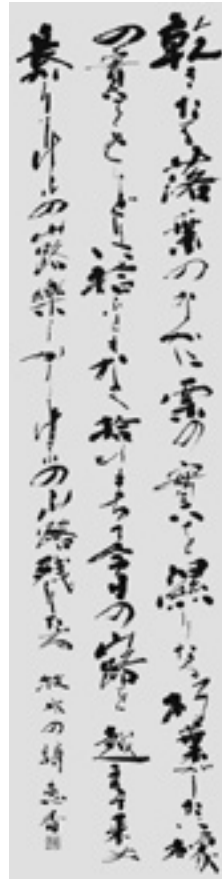
準大賞

第三部 堀田恵香



この度、身に余る賞の朗報を頂きました。目標には驚き、目標にすら念頭になかった「準大賞」受賞に心が引き締まりました。

これも諸先生方、書の仲間そして審査に当たって下さいました先生方のお陰と深く感謝の気持ちでいっぱいです。自分の好きな詩歌を自由に表現出来ます近



代詩文との出会い。それは書物にふれる機会をも増やしてくれました。師は勿論の事。書、書友に年を忘れ元気を頂いています。この賞に恥じないよう努力と共に、支えてくれた皆様に少しでも恩返しが出来ればとの思いです。幽谷先生「お前ガンバレタな」って褒めてくださってるかな。

〔評〕

三行書きの難かしさは行間の美しさを見せることにあるが、この作は前後左右の文字群を巧みに配して成功。

準大賞

第三部 宮間 秀子



この度は栄えある準大賞を賜り身に余る光栄に、感謝の気持ちと喜びで一杯でございます。

年賀状が書けたらと単純な気持ちでやり始めた「書」でしたが、すばらしい師と熱心にご指導下さる諸先生方、社中の皆様の励ましに深く感謝申し上げます。



〔評〕

作品は数年来自分なりに研究してきました墨の「にじみと色」。思う様にはまいりませんが作る度に面白さを感じる様になり、書に生かしたいと思っています。少しづつではありますが精進努力して、尚一層長く楽しんで参りたいと思います。今後共にご指導よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

作風の大胆さが小観をカバーして見応え充分だ。渴の用筆に習熟度が加われば更に成長が期待できる。

準大賞

第三部 森 雪華



この度栄えある準大賞を賜り誠に有り難とうございました。嬉しさで、ドキドキしております。諸

先生方の温かく熱心なご指導を始め、書友の皆様、家族のお陰と深く感謝申し上げます。



作品は状況だけを説明した様な暗い詩ですが、私には何か小さな明りが感じられ、それが伝わればいいなと思います。この受賞を機に健康に留意し、一層精進したいと思えます。今後共にご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕

俯仰の妙を随所に見せた練達の技が光る。字粒を大きく見せる造型法や、暢達の気運のタテ画の工夫が良い。

準大賞

第三部 森下 喜久子



仕事から帰って郵便受けの中にはいつていた電報をみて驚きました。この私が賞をいただけるなんて思ってもみないことだったからです。三年前に主人を亡くし、つらい日々を送りながらも頑張ってきた私への天からのご褒美なのでしょう。仕事も家事もありながら書道が続けてきた欲張りな私を、主人はいつも暖かく応援してくれました。これまで支えてきてくれた家族、そして師匠、お仲間の方たちに感謝、感謝です。

今回は私の敬愛する音楽評論家の方が書かれた一文を作品にしました。この方が書かれる文章からはいつも音楽が聴こえ、絵が見え



〔評〕

伸びやか・切れ味など書美の要素をよく心得ている。音楽の要素だ、絵画の要素だ、これらが美の世界だ。

準大賞

第四部 鵜飼冠山



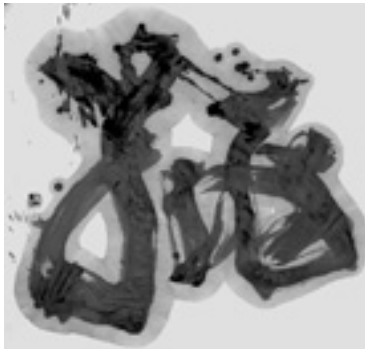
この度は栄えある準大賞を頂き誠にありがとうございます。賞の喜びと共に賞の重さを痛感いたしました。これも偏に、ご指導下さいました師匠はじめ諸先生のお陰と心より感謝しております。

展覧会に出品するようになった頃、師匠によく、未完成の作品を出品することについて「次につなぐればいいんだ。」と言われました。この言葉が心に残り、継続学習の重要性を常に考え作品制作に取り組んできました。

これからもこの思いを持ちつつ、一層の努力を重ね精進して参りますので、今後共にご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

落筆の第一画から、抑揚、捻れの筆力が示されている。自然の流れで筆が躍動し八面の連筆で骨格も確か、用筆用墨に妙味あり。



準大賞

第四部 築山美香



思いもよらぬ受賞の報せに、驚きと喜びでいっぱいです。栄えある準大賞をいただき、誠にありがとうございます。これも小さい頃より今も変わらず温かくご指導してくださりました良き師をはじめ、諸先生方、共に励まし合う書仲間や家族の応援のお陰と心より感謝しております。

表現することの難しさを感じながらも、無心になって書に向き合えることを、幸せに感じる今日この頃です。日々の古典の鍛練を怠らず、人の心に喜びや感動を与えられるよう努力していきたいと思っております。

今後もしもご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈評〉

大胆な構成のもと、陰陽、潤濁の迫力あるタッチで一気呵成に書きあげている。シンニヨウの最終部分濁筆の気魄は痛快なり。



準大賞

第四部 浜田翠雲



このたび準大賞を受賞する事が出来ました事、心より御礼申し上げます。

受賞作品「龍」は、私の生れ年。いつかは作品として書きたいと思いつめて参りました。そして、今回に到りました。「龍」の如く元気な、大きな、力強い文字をと心掛け一気書き上げました。書の道に入り四十数年、先代師匠はじめ、現在の両師匠、そして常に励まし合い共に学ぶ仲間の皆さん心より感謝致します。

一生を通じ、限りなき「書」の世界に臨む以上、今後もひたすら続ける事しか無いでしょうが、生涯を通じ何か残せる作品を書いてみたい。

〈評〉

筆画に躍動する気分が溢れ、潤濁のメリハリの利いた線活動でまとめあげていて心地良い。運腕快暢、左右の呼応の響きが良い。



会場風景（愛知県美術館ギャラリー）

準大賞
第五部 近藤 雲洋



レタックスが届いて準大賞の受賞を知り、驚きでいっぱいでした。老学の私

が、まさか榮譽ある賞をいただけるなんて、望外の喜びです。美の真髓を深く理解するには、その実体験をすることが何より大切だと考えます。私にとって書の世界で最も難解だったのは、篆刻の分野でした。書美を求めて半世紀以上、幸いにも熱意と研究心にあふれた指導

準大賞
第五部 丹羽 裕



準大賞入賞の電報に接した時は、驚きで身震いする感情を抑えきれませんでした。日頃師より篆刻の大切さと、それを作品に生かすよう指導を受けておりま

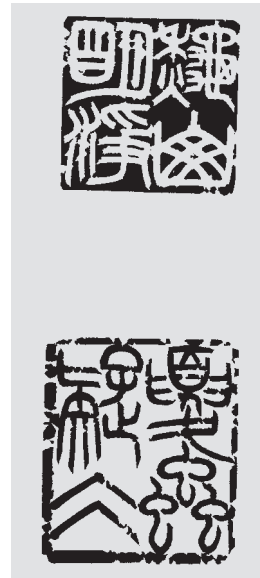
が、自分の力量不足から教えに應えられないもどかしさで一杯でありました。そんな折、見たまま感じたま



者に恵まれ、古典をふまえた勉強をしてみました。今回の榮譽はそのおかげです。「老驥伏櫪」という言葉があります。このたびの受賞を励みとして、奥の深いこの世界を、学ぶ楽しさを味わいながら志を新たにしてい層精進したいと存じます。

〔評〕

篆刻の三法がしっかりと身につけている。大らかな文字の構えと安定した刀法には呉昌碩の風格があり、整然とした作



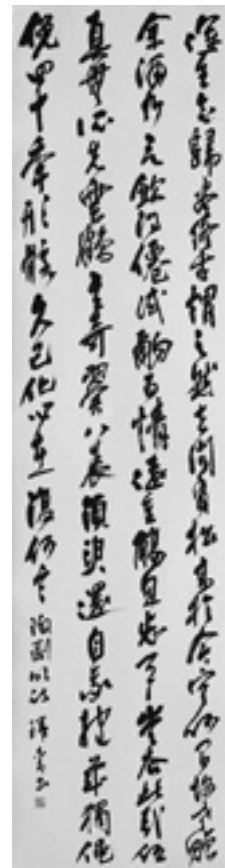
価をいただき、今後の目指すべき道を再認識いたしました。一字一句を厳しく吟味し、研鑽を重ねることで、師を始め社中の諸先生方の名を汚さぬよう努めてまいる所存でございます。

〔評〕

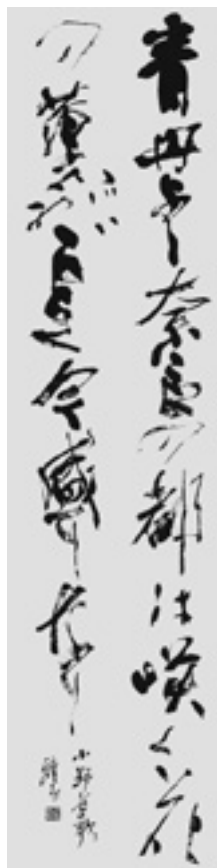
「月」字「華」字それぞれの終画を呼応させ細心の刀法による作。外郭に古拙味を出し印に光を呼び込んだ。

中日賞

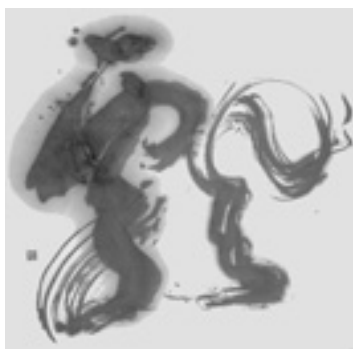
第一部 中日賞 諸富瑞青



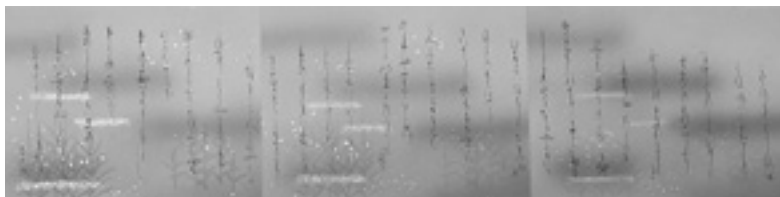
第三部 中日賞 田中雅子



第四部 中日賞 田美泉



第五部 中日賞 永谷加代子



第二部 中日賞 竹内 紫峰



準大賞（第2部～第5部）受賞者



中日賞 桜花賞（第1部）受賞者



中日賞 桜花賞（第2部～第5部）受賞者

桜花賞

第一部 桜花賞 奥村貞虹

第一部 桜花賞 大矢香風

第一部 桜花賞 石川明加

第一部 桜花賞 飯田泰郷

第一部 桜花賞 愛澤珠翠

第一部 桜花賞 河村雄鳳

第一部 桜花賞 川出泉麗

第一部 桜花賞 河口霄華

第一部 桜花賞 神谷聖華

第一部 桜花賞 加藤苔苑

第一部 桜花賞 桂川珪水

第一部 桜花賞 近藤翠嶺

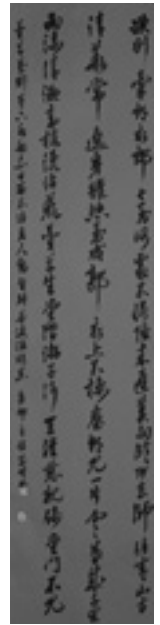
第一部 桜花賞 児玉美泉

第一部 桜花賞 久保田嵐翠

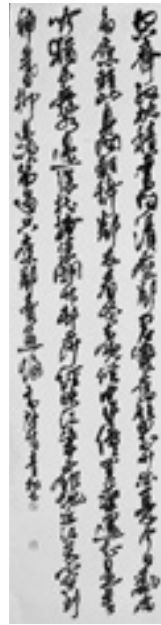
第一部 桜花賞 窪田蝶華

第一部 桜花賞 工藤佳瑛

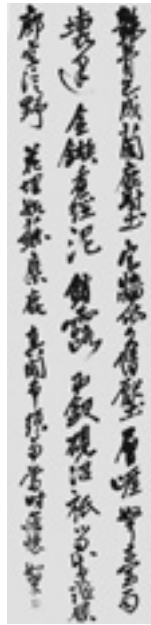
第一部 桜花賞 神田閨秀



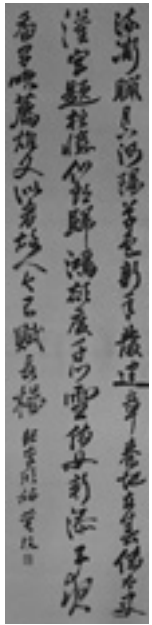
第一部 桜花賞 近藤 茜畦



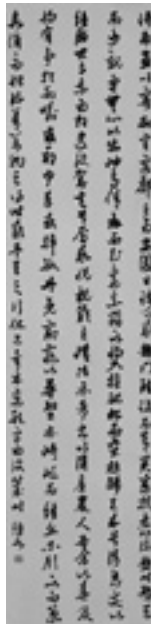
第一部 桜花賞 酒井 青桐



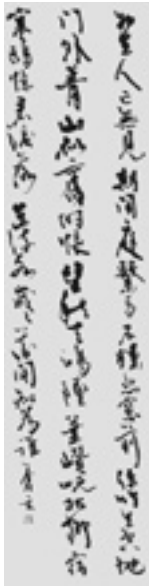
第一部 桜花賞 塩田 如翠



第一部 桜花賞 鈴木 葵風



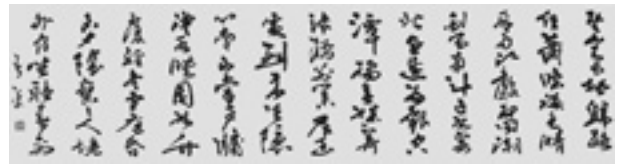
第一部 桜花賞 鈴木 悠水



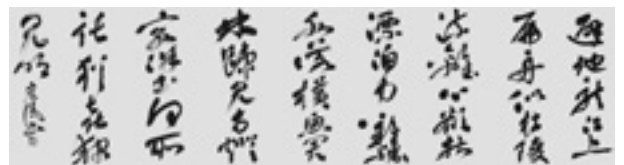
第一部 桜花賞 関谷 蒼玄



第一部 桜花賞 竹内 松華



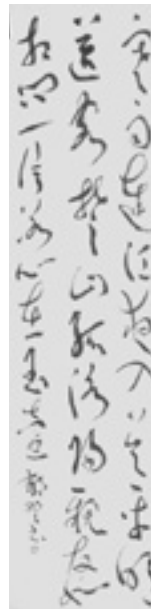
第一部 桜花賞 寺岡 春蘭



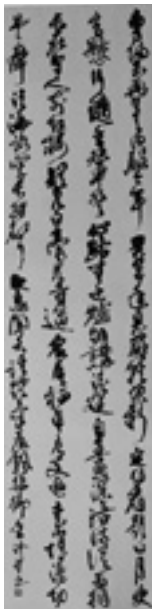
第一部 桜花賞 南原 宏風



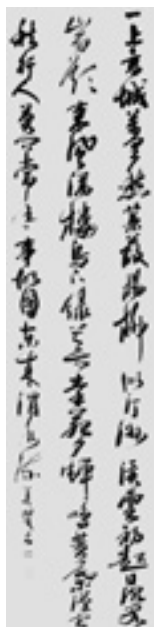
第一部 桜花賞 祖父江 佳扇



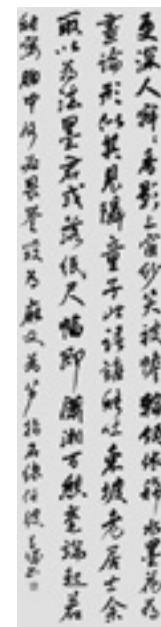
第一部 桜花賞 武田 郁野



第一部 桜花賞 中井 港星



第一部 桜花賞 中川 美翠



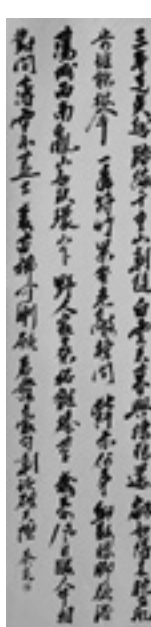
第一部 桜花賞 中西 草城



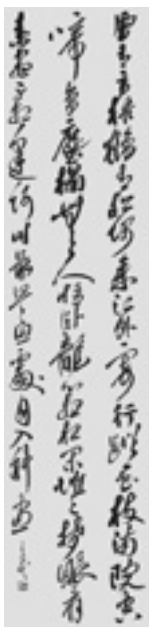
第一部 桜花賞 丹羽 藍水



第一部 桜花賞 根谷 捷子



第一部 桜花賞 原田 葵泉



第一部 桜花賞 平井 三千代

第一部 桜花賞 平光朱扇

嶺石治村盡新涼
深樹以成陰
橋路通何處
桐門剛獨

第一部 桜花賞 藤澤秋嶺

温帯雨の日は保命の薬
涼風は心洗はる
山吹の香は秋の心洗はる
紅葉の香は秋の心洗はる
雪の香は秋の心洗はる
氷の香は秋の心洗はる
雪の香は秋の心洗はる
氷の香は秋の心洗はる
雪の香は秋の心洗はる
氷の香は秋の心洗はる

第一部 桜花賞 穂積清華

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 洞英翠

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 松岡瓊玉

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 松永翠峻

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 松本紅華

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 八木清峭

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 山内香霖

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 山田紅照

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第一部 桜花賞 山田秀謙

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 伊佐治美芳

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 稲垣紅春

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 杉本曾泉

春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 稲吉欣香

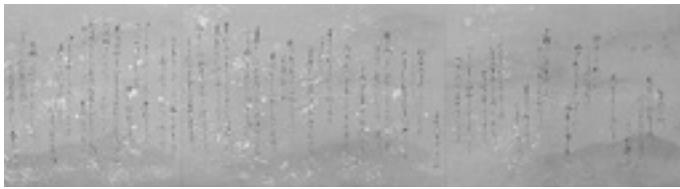
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 高木愛子

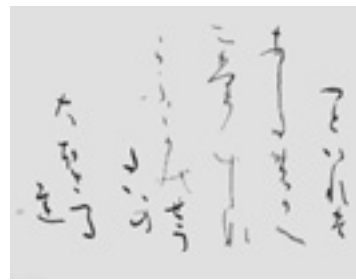
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い

第二部 桜花賞 早川尚江

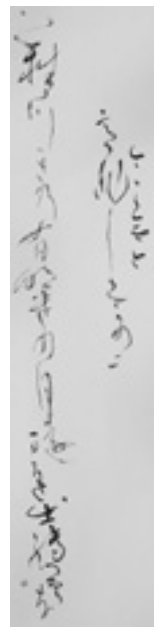
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い
春の風は柔らかな
夏の日差しは強い
秋の空は青い
冬の雪は白い



第二部 桜花賞 森 千鶴子



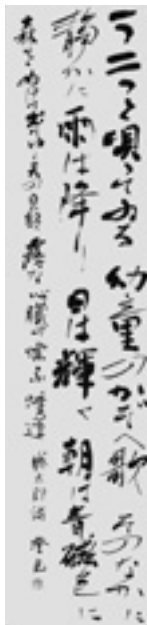
第二部 桜花賞 半田 幸瑩



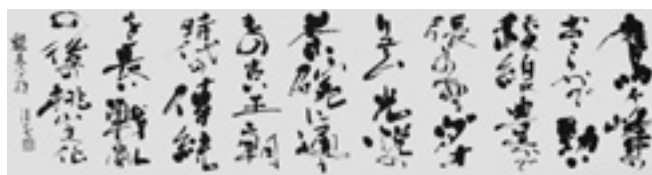
第二部 桜花賞 土屋 香風



第三部 桜花賞 渡並 柳恵



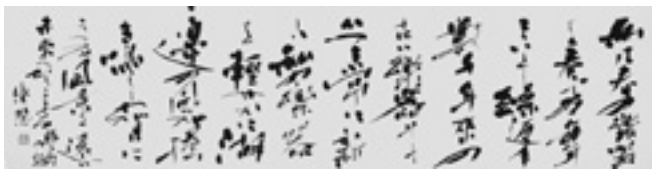
第三部 桜花賞 戸塚 澄光



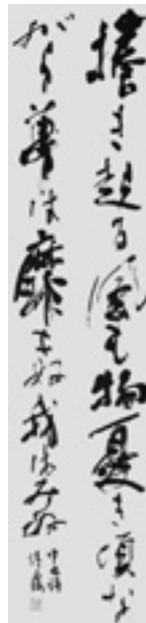
第三部 桜花賞 春日井 清苑



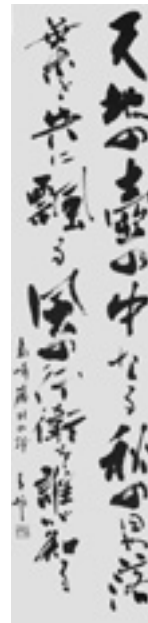
第三部 桜花賞 北野 春艸



第三部 桜花賞 福岡 優慧



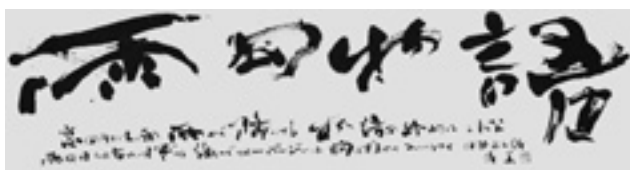
第三部 桜花賞 宮本 清霞



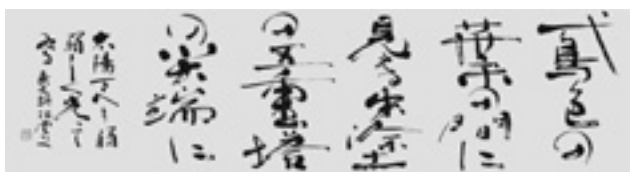
第三部 桜花賞 馬場 青邨



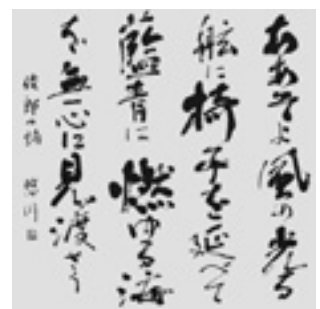
第三部 桜花賞 中野 寿美



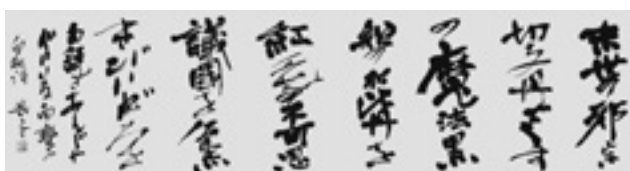
第三部 桜花賞 松田 清美



第三部 桜花賞 矢橋 江雲



第三部 桜花賞 石橋 悠川

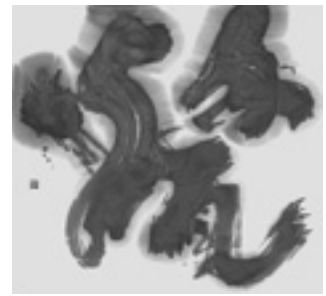


第三部 桜花賞 山口 典子



第三部 桜花賞 山田 游水

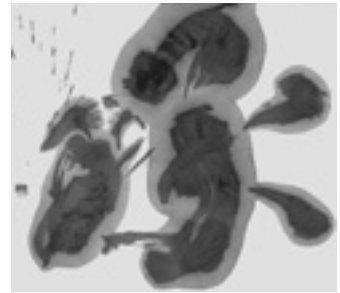
第四部 桜花賞
石川 茂義



第四部 桜花賞
半田 博子



第四部 桜花賞
中野 万敬



第四部 桜花賞
矢田部 里美



第五部

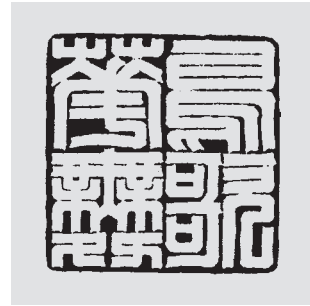
桜花賞

為水

剛



第五部 桜花賞
真田 九龍



第五部 桜花賞
玉木 浩雄



第五部 桜花賞
間瀬 清司



中日賞・桜花賞作品評

第一部 (漢字) 後藤 汀鷺評

〈中日賞〉

諸富 瑞青

結構の美しさ、躍動する運筆、正に清勁秀美円熟の書法を窺わせる作品は厳しい修練の賜精華となる。

〈桜花賞〉

愛澤 珠翠

力強い筆線が字々を形作って展開、そこから醸し出す回転する筆峰は最後まで充実、線も引締って効果的。

飯田 泰郷

ゆったりとした佇まい、おとなしい書きぶりは品よく、小気味よいリズムから清らかな詩情が漂ってくる。

石川 明加

筆勢は滞ることなく連綿、行の呼応、響き合い等慣れた書法は、たゆまぬ努力が作品から伝わってくる快作。

大矢 香風

多くの無駄を省いて整正な姿態に精神性をみる。潤渇を織りませた円転自在な書は見飽きることがない魅力の作。

奥村 貞虹

行間に美しい旋律を響かせながら、ゆつくりと書き流した書線、良寛さんの心を見るような表現で眼を引いた作。

桂川 珪水

何の衞いもなくさらりと連綿してゆく和様の書、淡い墨色は心ちよい安らぎを与えてくれる優しい作。

加藤 苔苑

線姿ともに滑らかでよく暢び安定感がある。洗練された章法が行間を明るくした、余裕を感じる作。

神谷 聖華

転折に厳しく力強い筆峰、キビキビした字形は赤い紙とマッチしてすっきりと爽快感を表した作。

河口 霄華

逆入平出の法を得て、巧みに筆峰を開閉、運腕大きく実に堂々とした作、日頃の努力で自己の書を確立された。

川出 泉麗

鋭く変転する筆到は大きく深い世界を暗示する。潤渇の変化、構成のうまさなど表現力が豊かな作。

河村 雄鳳

北魏の書法を巧みに取り入れた強靱な線、骨格の太さ、墨痕鮮やかで力感紙面を制した作となる。

神田 閔秀

一点一画を疎かにしない整齊な書、方に構えた構成、筆鋒雄々しく收筆の処理も厳しい、気概が胸に迫ってくる。

工藤 佳瑛

多彩に展開するダイナミックな線は紙面の上を躍動、行の呼応や余白にも配慮された筆力充溢の作。

窪田 蝶華

金石の気を内蔵した構造的な強い線、形質ともに変化にとみ、藏峰鋭角な転折な力強い

豪放な書となった。

久保田風翠

古法に裏打ちされた確かな形象、よく伸びた爽快な線は明るく冴えて美しい、熟達した清勁の姿がある。

児玉 美泉

一字一字心を込めて書し、形線共に安定感がある。美しいハーモニーを奏でて温かな余韻をのこす作。

近藤 翠嶺

安定した結体、重厚な筆線は物静かにして整然としている。集中力がすぐれた緊張感のある作。

近藤 茜畦

余白を十分にとって点画を適確に形作つていく、凛々しい細線が鮮やかな赤い紙に映え爽快な作。

酒井 青桐

ゆつたりと豊かな線でつぎつぎと展開してゆく、そこには悠揚とした流れがあり妙趣がつきない好書となる。

塩田 如翠

スケール大きく躍動し、明快な広がりを見せる。大小疎密もバランスよく氣息深厚の作となった。

鈴木 葵風

展開する筆峰は自然に流れ、行間を取り字間をつめた構成ですつきりとなる。品位と格調のある作。

鈴木 悠水

張瑞図を習熟しての書風、鋭い入筆で紙を切るように運筆、多字数を整然と構成、快よい安定感がある。

関谷 蒼玄

卓越した造形、筆路明快に練達の手腕を見る墨量もたつぷ

り含ませ、一気に妙腕を揮う、爽快な作。

祖父江佳扇

厳しく右へ引き上げる書線、キビキビした字形、緩急自在で一層作品を引き立てている。練度の高い作。

竹内 松華

横二段に分割、筆法多健にて清彩がある。鋭い線と潤筆の豊かな線は見事に調和し、的確にまとめた作。

武田 郁野

詩情に心躍らせながら自由に空間を謳歌、滲んだ淡墨の広がり余白の美しさを醸し出した清雅な作。

寺岡 春蘭

揺がせにしない結構、重厚な線条に才気煥発の一面を見る。日頃の精進して得た造形の確かさがある。

中井 港星

古典に立脚した筆勢は途絶えることなく連綿してゆく、黄色の紙に潤濁の筆線が輝いている快作。

中川 美翠

伸びやかに運筆する書線の美しさ、控え目でおだやかな作風はえもいわれぬ余裕がある、品格の書。

中西 草城

屈鉄枯藤の風を得た子貞を根底においたであろう行草作品、その中にある筆圧の微妙な変化に心の動きをみる作。

南原 宏風

横への広がりを持った字形は闊達自在に展開行間を広くとつたことにより氣宇壮大になった見事な作。

丹羽 藍水

厚みのある書線、他に類をみ

ない風貌、木筒にみえる篆書を現代の新鮮な風を吹きこんだ個性的な作。

根谷 捷子

おおらかでゆつたりとした流れ、行の呼応、響き合いに美的表現を見る、清澄な氣が横溢している作。

原田 葵泉

骨格のしっかりした字形、生き生きとした線は力強く精彩がある。揺ぎない構成力はすばらしい。

平井三千代

洗練された線と字形はリズムカルに運筆、壮快な広がりをみせ感性豊かな作、平素の精進が成果を示した。

平光 朱扇

厳しく重厚な線は悠揚として紙面に響かせている。後半小字の行草とも兼合い生彩のある書になった。

藤澤 秋嶺

起筆から収筆まで筆力微動だにしない格のある書、古法を真摯な姿勢で努力した多字数の作。

穂積 清華

強靱な筆力は緊張感があり、連続する書線の展開の妙はすばらしい、余白との均衡にも配慮した作。

洞 英翠

線の切れ味鋭く、澱みのない運筆が快よい、豊潤な力の漲った筆法で一紙を纏めた、練磨を重ねた作。

松岡 瓊玉

横長に拡がる厳しい字形、重厚な練は迫力がある。完成された隷書的一端を見る、圧巻の書。

松永 翠峻

淡墨美しく、空間に無理なく自然体で連綿、長閑で大らかな詩情と清浄な氣が漂ってくる作。

松本 紅華

自由自在、奔放に躍動する線はエネルギーで充実している。赤い紙に濃墨でセンスの高さが窺える作。

八木 清峭

意気軒昂な筆鋒、スピード感があり紙面を躍動、壮快な風景が広がって行く格調の高い作。

山内 香霖

ゆつたりと抑揚の効いた線、懐広く温雅な字姿に魅力を感じるの、日頃の研鑽の深さによるもの。

山田 紅照

淡墨の美しい流れは温雅で、紙と墨と筆がまるで一体感となり宇宙を画いている。清韻の書。

山田 秀謙

切り込むように入る筆の穂先、整正の造形が美しく、揺ぎない線は凜として生命を感じる作。

第二部 (かな) 渡邊 笙鶴評

〈中日賞〉

竹内 紫峰

莊嚴な色調の料紙を効果的に使って、清澄で深みのある線質美を巧みに表現した作品。

伊佐治美芳

大らかで動きのある作品、墨量の変化で線に渋い味を出しているのがよい。

〈中日賞〉

田中 雅子

清澄感溢れる筆線は群を抜いた冴えだ。迷いなく一揮するには相当な習練があつてのことだろう、技倆賞讃。

稲垣 紅春

切れ味のよい線の魅力と文字の大小による表現の振幅と作品作りの巧みさがみごとくな作。

稲吉 欣香

筆圧の変化による線質の美しさ脚部の構成の微妙な変化とまとめが極めて効果的である。

杉本 曾泉

墨量の変化と運筆遅速による線の深味と粘りある線の美しさが魅力的な作品。

高木 愛子

澄んだ線質で、小気味よくすつきりまとめた知性的作品である。

土屋 香風

大らかな書きぶり、墨色の変化と散らし書きの構成が雄壮で厚味のある作になっている。

早川 尚江

バネのきいた用筆で、強味のある線と動きのある作風が魅力的な作品である。

半田 幸瑩

上品で地味な作ながら、墨量の変化が効果的で清楚感あふれた作品である。

森 千鶴子

優美な料紙に、古筆をよく極めた筆致でみごとに表現された作品である。

第三部 (近代詩文) 黒田 玄夏評

〈桜花賞〉

石橋 悠川

書き出しの静かな書風が三行目に来て一気に力強さに趣きを変えた。ここぞという箇所での気分がいい。

春日井清苑

軽快な筆致の中に力感の籠った用筆を織り混ぜ、更に渴筆で遠景を作るなど、見飽きさせない章法が光る。

北野 春艸

デフォルメの限界に挑んで見事栄光を射止めた。特に左への展開に思い切りの良さあり、作品が大きく見える。

戸塚 澄光

かぞえ歌・静かな雨、そんな詩情にひかれての優しさいっぱい。好感。小字に至るも確かな手腕を見る。

渡並 柳恵

風起つ瀬の氣勢に魅せるものを十分發揮し眼を止めさせる。それは躍動感から生まれた筆鋒の展開であろう。

中野 寿美

字間の思い切った余白が暢達の作調に繋がった。一行目の余白を効果的に生かす二行目の構図は難度が高い。

馬場 青邨

キリリと引き締まる造型は安定感に秀れ、タテ一線への暢達度が美しく表現されている。潤濁に妙味あり。

福岡 優慧

かなの直線的な造型が、漢字の筆線とよく調和して澁みがない。横画の爽やかな起筆はこの作の拡がりだ。

松田 清美

雨の物語の四字に筆勢を見せこの作の暢びやかさを増幅

させた。細字に尚一層の大胆さあれば更に佳なり。

宮本 清霞

一貫通貫の筆法がこの作のスケールを物語る。中でも捲・風・靡のタテ画な澄明度は錬度の高い技だ。

矢橋 江雲

隸風の筆線が心地良い風のように吹き抜ける。筆管の握りにゆとりありと思わせる巧みな樂趣ある用法だ。

山口 典子

密度の高い行立てがしっかりと引き締まり、行間を存分にあげた構成は明るく生かされて緊迫感がある。

山田 游水

筆鋒のねじれをうまく使い、軽重のバランスを効果的に表現している。筆力溢れ生氣充滿の作だ。

第四部 (少字数) 中村 立強評

〈中日賞〉

代田 美泉

第一画、短横画の仰勢から、虚実の脈絡を自然にまとめている。穂先が強く効いていて、潤濁の一体化による気韻が格調を高めている。

〈桜花賞〉

石川 茂義

「斂」素材の難しさを、筆の抑揚の組み合わせを駆使して結体をじっくりまとめあげている。筆は相当深く切り込み骨力ある作なり。

中野 万敬

どっしりと構えて、蔵鋒沈着、連断の妙を十分に發揮している。高い所より落筆し、良く最終画までまとめた構成力と

規模雄大が良い。

半田 博子

小字数書は、数・力・光の要素が必要と言われている。「光」を題材としたこの作は、秀勁にして潤濁のリズム白黒の照応が良い作。

矢田部里美

結体と運筆における抑揚のリズムが自然。暢達な気持が筆力を通してよく表現されていて、紙面に対する真摯な態度が良い。

第五部 (篆刻刻字) 岡野 楠亭評

〈中日賞〉

永谷加代子

金文の造形がしつかり構わっている。「馬」字を効果的に見せ伸びやかな線状にはキャリアと実力が窺える。

〈桜花賞〉

真田 九龍

満白文印。緻密な構成と巧みな刀法は充実感溢れる作。柔らかな風情が備わるのは作者の資質によるものか。

玉木 浩雄

内輪郭を配し印全体を引き締めている。率直な刀法には隙がなく、鈴印に至るまで確かな力量を感じる作。

為水 剛

金文、古璽の白朱二顆作。それぞれ文字の素材を生かし淳樸古拙なる作。側款拓の隸書にも味わいがある。

間瀬 清司

漢印調にして悠々とした作。篆体に骨格があり分間の嚴肅さが文字に響き合い、格調美を生み出した。



若年 (15歳~21歳) 受賞者

第63回 中日書道展入賞者

海部俊樹賞
第三部(近代詩文) 鈴木 功子

大賞
第一部(漢字) 瀨瀬 卓葉

準大賞
第一部(漢字) 青山 華塘

荒川 祥鶯 石井 瑞鶴 井村 耕心 落合 玉泉 金澤 秀鶯 龜井 杏華 唐戸 幸子 草野 慧泉 白須賀 香園 杉浦 昇旭 竹内 由美 土屋 春聲 角田 紫苑 富田 青邑 外山 悠汀 西山 玲舟 西村 松花 野々垣 清城 日比野 寿翠 牧 惠清 松田 雅風 松平 翠泉 水野 清花 水野 朋香 村井 香仙 森本 夏溪 安田 玄遠 箭野 翠風 若山 峰瀨 鷺津 岱嶺

第二部(かな) 朝岡 伸

第三部(近代詩文) 植田 錦舟

近藤 由果 新保 美月 菅沼 柏葉 鈴木 稲水 野口紀代子 平野 仁子 國府谷 妙仔 太田 淨泉 鈴木 凍山 鈴木 美月 平岡 妙紅 堀田 恵香 宮間 秀子 森 雪華 森下喜久子 鵜飼 冠山 築山 美香 浜田 翠雲 近藤 雲洋 丹羽 裕 諸富 瑞青 竹内 紫峰 田中 雅子 代田 美泉 永谷加代子 飯田 泰郷 大矢 香風 桂川 珪水 神谷 聖華 川出 泉麗 河村 雄鳳 河川 霄華 加藤 苔苑 奥村 貞虹 石川 明加 愛澤 珠翠 櫻花賞 第一部(漢字) 飯田 泰郷 大矢 香風 桂川 珪水 神谷 聖華 川出 泉麗 河村 雄鳳 河川 霄華 加藤 苔苑 奥村 貞虹 石川 明加 愛澤 珠翠

一科

推薦 第一部(漢字)

東 春翔 石川 惠翔 梅本 千寿 小川 澄光 加藤 脩平 峪口 紅霞 清水 智泉 勅使河原 惠翠 野田 啓華 野田 靜月 野田 萬峰 三浦 春華 山添 智加 青井 翠風 浅岡 高史 井桁 里奈 井藤 谿石 伊藤 東嶺 井藤 東嶺 今井 夏虹 岩澤 紫穂 岩田 華風 岩田 清風 岩崎 翠泉 稲葉 彩秀 市川 麗穗 飯田 美香 青木 友華 池田 青暈 居波 亞季 岡野 明日見 加藤 杏華 河合 澄香 清水 佳蘭 須田 桃苑 仲川 慧 野田 春華 野村 揚月 深津 陽雪 森山 陽雪 吉田 恵舟

特選

青井 翠風 浅岡 高史 井桁 里奈 井藤 谿石 伊藤 東嶺 井藤 東嶺 今井 夏虹 岩澤 紫穂 岩田 華風 岩田 清風 岩崎 翠泉 稲葉 彩秀 市川 麗穗 飯田 美香 青木 友華 池田 青暈 居波 亞季 岡野 明日見 加藤 杏華 河合 澄香 清水 佳蘭 須田 桃苑 仲川 慧 野田 春華 野村 揚月 深津 陽雪 森山 陽雪 吉田 恵舟 青井 翠風 浅岡 高史 井桁 里奈 井藤 谿石 伊藤 東嶺 井藤 東嶺 今井 夏虹 岩澤 紫穂 岩田 華風 岩田 清風 岩崎 翠泉 稲葉 彩秀 市川 麗穗 飯田 美香 青木 友華 池田 青暈 居波 亞季 岡野 明日見 加藤 杏華 河合 澄香 清水 佳蘭 須田 桃苑 仲川 慧 野田 春華 野村 揚月 深津 陽雪 森山 陽雪 吉田 恵舟



一科 第1部 当番審査員



審査当日朝の打ち合わせ会で手順説明される
伊藤昌石事務局長

- | | | | | | |
|--------------------------|-------------------------|----|-----|----|----|
| 山安村水松前古日原林野西中中中猶寺田高墨須 | 山口井瀬島枝川田比田尾村津川井西田中田 | 田中 | 高田 | 墨田 | 須田 |
| 含翠芳諒翠緋清流京敏慈晃玉桂初麗紅智都高高山高墨 | 烟谷翠煌煌苑邑流馨博惠寛翠華香泉風鶴三奈衣麻衣 | 都築 | 高山 | 高瀬 | 沙織 |
| 山口山安三松増堀藤人林野西中中永仲戸都高山高墨 | 口口井吉原田尾本見田脇山山西永坂川本築山瀬瀬 | 香雪 | さち子 | 清恵 | |
| 紅桜彩香澄白岳堀藤人林野西中中永仲戸都高山高墨 | 鶴舟花風秋雪南香保里輝泉由昌和芳爽瑞未舟香香雪 | | | | |
| 鵜上今伊伊伊伊伊市石石池阿浅浅相準 | 飼上西藤藤藤藤藤藤東橋川川田部野野井原特選 | 渡 | 涌 | 山 | |
| 春杏香柳汀清昌琴文凌景緑翠涛清翠 | 蕙苑溪翠華延郷扇親雲雲翠祥香泉月 | 美 | 果 | 江 | |
| 鵜上岩今伊伊伊伊井市石石飯浅浅青 | 飼上田井井藤藤藤藤藤戸川川川田野川木 | 渡 | 山 | | |
| 千雙浩由美清瑞桂友純仙加美揺都春 | 聖詠泉紀扇川惠川理慧城翠穂草鸞園 | 綾 | 麻 | | |

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 谷本義仙 | 棚内彩光 | 竹内重光 | 高瀬光溪 | 高瀬江舟 | 祖父江碧穂 | 鈴木晶行 | 鈴木翔山 | 杉森香逕 | 清水美和子 | 柴田伶玉 | 七野瑞江 | 佐野李曄 | 佐藤光華 | 桜井光葉 | 嵯峨節苑 | 小林洋子 | 小早川恵祥 | 小島静珠 | 黒野紫明 | 久米水聲 | 熊谷石華 | 木本竹壽 | 河村花邨 | 川瀬桃紅 | 川口美舟 | 河合秀香 | 兼子圭葉 | 金丸紫山 | 勝野佳玉 | 春日井静月 | 垣東翠照 | 尾崎節香 | 小川幸子 | 岡嶋桂川 | 大畑麦川 | 太田祥風 | 大熊翠舟 | 梅村真毬 | 宇野安理沙 | 白井紅逕 |
| 辻安岐 | 谷口翠華 | 多田桂徑 | 田口夏帆 | 高取翠揚 | 曾布川子房 | 関翠虹 | 鈴木翠泉 | 鈴木春瓊 | 杉浦仁美 | 島田楓林 | 篠原久祥 | 澤田清翠 | 佐藤翠玉 | 佐藤錦龍 | 坂川翠翹 | 齊藤美流 | 小林夏生 | 後藤枝翠 | 香ノ木茜苑 | 黒岩翠華 | 熊崎溪華 | 久野深水 | 神田彩星 | 川端柳園 | 川瀬英泉 | 川北博子 | 金子秀越 | 兼子桂苑 | 角屋雪蘭 | 香月恵里 | 梶木光雪 | 長田和記 | 奥村陽鶴 | 小川華葉 | 大村彩豊 | 大野真季 | 大寄露光 | 江崎晶葉 | 梅川脩春 | 内田勢潭 |
| 山口雅芳 | 山北真弓 | 矢野彩心 | 森本好美 | 森本一葉 | 村瀬芙蓉 | 水野秋窓 | 水谷君代 | 水田瑠華 | 松本彩雲 | 松永堯雨 | 松岡流麗 | 牧野瑞風 | 牧野泉里 | 前田小牧 | 堀場清水 | 堀田桃溪 | 古橋紀風 | 藤井秀堂 | 福本千華 | 平野桃泉 | 日比野貞寿 | 日栄白蓮 | 林萃香 | 林瓊香 | 林華香 | 袴田美水 | 野村樹恵 | 野上愛実 | 西村里豊 | 西垣梨雪 | 新美瑛洲 | 中村翠苑 | 永田桂華 | 長坂竹華 | 中川瑞風 | 長江毬華 | 内藤春翠 | 徳田貴風 | 藤堂弘風 | 辻川祥花 |
| 山口如泉 | 山内翔鶴 | 安田彩霞 | 森川紫舟 | 村田華雪 | 宮崎芳川 | 水谷瑛華 | 水野勝代 | 真野桃花 | 松永秋花 | 松川春霞 | 松岡蘭毫 | 牧奈緒美 | 牧秀艸 | 前川直哉 | 堀美峰 | 堀田廣泉 | 古橋恵子 | 舟橋松香 | 藤井沈城 | 深田光鵬 | 平川彩舟 | 彦坂翠花 | 原田春琴 | 林華宮 | 林華静 | 濱屋大樹 | 野村夢佳 | 野田翠風 | 丹羽由美 | 西川樹顛 | 西垣玉翠 | 長屋純子 | 中村浩水 | 長澤美峰 | 中川玲波 | 永岡沙弥 | 中井紅潤 | 戸部美扇 | 遠山柳恵 | 辻山幸玉 |



一科 第2部～第5部 当番審査員

児小小古倉熊國鬼川神加勝小小岡大野太田大遠植岩伊伊磯石石伊安新浅青秀 玉島澤賀出知崎定頭口谷藤田原栗本藪野田久渡田崎藤藤貝崎川川藤野木逸 翠竹松小倉葉彩景千蘭芳千節淑桃奈翠瞬翠翠心季漣陽翠里翠碧惠翠星月 風苑煙由美和香葉香風鶴舟翠溪苑芳美園玲香音陽瑤紗眉雲秋峰月苑翠	後小小小小栗熊國工河荊兼勝春長奧岡大野大野大久岡江位今伊伊石石石生荒浅明 藤嶋嶋崎浦本澤廣藤村谷松野澤廣村谷松野澤廣村谷松野澤廣村谷松野澤廣村谷松野澤廣 圭美玉陽祥文松尚美有美小珠虹志虹雲保雨子蘭石琴琴大久岡江位今伊伊石石石生荒浅明 翠秀寶香雪月湖篁翠翠扇虹雲保雨子蘭石琴琴大久岡江位今伊伊石石石生荒浅明 秀寶香雪月湖篁翠翠扇虹雲保雨子蘭石琴琴大久岡江位今伊伊石石石生荒浅明	渡脇米橫山山山山山 邊田田山井田田田田田 祥朝美翠槐啓 令萌和蘭風風靜	渡脇米橫山山山山山 邊田田山井田田田田田 祥朝美翠槐啓 令萌和蘭風風靜
--	---	--	--

早川 早川 濱島 服部 長谷 萩野 野呂 西山 西川 新津 中村 中村 中谷 中島 戶田 寺澤 土屋 玉野 谷川 田中 田澤 武内 竹内 滝川 高橋 高嶋 祖父 澄川 鈴木 鈴木 杉山 杉浦 新宮 清水 七野 佐藤 桜井 榎原 小原 後藤 誠風 桃瑞 川華 野公 呂垣 美佳 桐香 清城 知空 桃華 夏舟 啓華 葵芳 青桃 花影 惠綾 扇華 利憲 一樹 祥苑 瑞久 一華 江幽 翠榮 紫陽 花邸 松雅 敬山 綠園 美津子 瑞夏 紅蘭 花淞 春蘭 香碧 葉光	早川 早川 濱島 華井 服部 迫間 袴田 野村 丹羽 西畑 新妻 中本 中村 中谷 中島 長尾 戶田 寺澤 鶴見 辻村 谷口 田中 田中 竹村 竹内 滝本 田上 高橋 高木 関戸 鈴木 鈴木 鈴木 杉田 杉浦 白塚 柴田 志知 酒向 坂本 近藤 小林 林碧 綠春 芝祥 泉光 珂江 五紫 晶晶 千珠 冬惠 香祥 光由 恭靜 翠柳 松虹 香華 閨月 明海 壽星 彩石 薰水 海風 隆道 美惠子 貴陽 裕
---	---



第1部 (漢字) 特別賞選考風景

森田 初山 村井 三宅 箕浦 水野 水口 松本 松田 枳田 舞島 本多 堀井 夫馬 藤原 福田 平松 久田 樋口 林 春泉 妙楓 恵岳 夕麗 年樹 紅翠 紅楓 紫鵬 蘭香 妙川 翠月 恵舟 芳龍 博芳 豊泉 千祥 白扇 彩香	森土 富華 影月 劉生 清峰 芳雲 華穗 成美 燧石 琥穂 清波 鳴琴 貞子 幹秀 隆峰 佳扇 千翠 景舟 昌泉 香風	阪本 青悠 神谷 まつの 加賀 ちず子 小澤 翠泉 岡田 容子 伊佐 治瑞 芳 井上 三保子 奥村 志穂 小澤 賢子 加藤 昌子 児玉 和江 佐久間 雅子	特選 伊佐 治瑞 芳 井上 三保子 奥村 志穂 小澤 賢子 加藤 昌子 児玉 和江 佐久間 雅子	推薦 筒井 タケ子 八木 敬子 松居 光子	渡邊 祥令 脇田 朝萌 吉川 美和 山田 翠蘭 山田 槐風 山田 啓翠 山田 靜香 渡邊 祥令 脇田 朝萌 吉川 美和 山田 翠蘭 山田 槐風 山田 啓翠 山田 靜香
---	---	---	---	--------------------------	--



二科 第1部 当番審査員

準特選

三野美恵子
高田幸江
宮川紅翠

杉浦幸子
濱條美由紀

飯田美代子
伊藤恵子
稲川しづ

生駒姫城
伊藤弥生
大嶋由美子

岡崎志虹
角田美知子
加藤満寿江

加藤祥子
小野由紀子
熊崎昭子

甲谷富美子
小寺裕子
鈴木姫泉

坂本裕香
高柳ひとみ
瀬古光代

永井友理
中崎百合子
丹羽鈴子

中川紅舟
中嶋春葉
丹羽博美

細川晴加
松野友美
水野美保子

正木房子
水谷孝郎
村田さち子

脇野貴美
水野美保子
山内恵泉

山内恵泉

秀逸

浅井花枝
伊藤美代子
大矢大月

伊藤清琴
今枝節峰
奥村桂月

小倉壽子
加藤浩子
岫悦子

鏡千裕
北川佳香
小出誠子

菅原瑞景
後藤珠美
中嶋綾乃

鈴木成山
小川敬子
川西悠華

中川裕子
田沼裕子
菅原成山

富田裕子
中崎千津子
成瀬孝子

丹羽智保
長谷川美舟
判治菁泉

橋本孝子
花井竹聲
平野京子

見並春翠
水谷廣風
藤田忍

宮口弘子
三谷典子
前野英子

推 第三部 (近代詩文)

村田草舟
吉田千津枝
吉村真由美

森光苑
吉永純子
若杉美香

青木榮俊
田端洵紀
山田千夏

奥村順子
中島周子

石黒煌花
岩土彩花
奥村紫香

今西道子
蛭江香蘭
梶田春陽

加藤一枝
甲谷千樹
小島正人

亀井陽
小島廣子
佐野桃泉

鈴木美峰
滝本青潤
田中美香

高橋千代子
田中詩織
長瀬竜清

橋本佳泉
蜂須賀穂洋
藤井星風

長谷川結
花田佳子
牧野未来

山口舞子

山村光葉

浅野千香
石川華泉
伊藤青鳥

安藤春翠
伊藤青慶
犬塚八重

伊野泰光
今泉久美
大谷小百合

梅村遊藍
岡田実稚子
河合百々子

川西悠華
小林智美
近藤真衣

木村祥光
近藤秀光
櫻井幸子

志津野穂夏
清水和樹
鈴木健

塩津旭暉
洪谷久美子
鈴木祥苑

田中菜摘
高橋杏花
鈴木健

塚原清雪
滝本水蘭
関村吟香

秀逸

津嶋寛之
津野英子
長野安珠

土川奈美
徳倉貴久江
中村勝子

二和田通代
畑田裕子
彦坂香邨

萩原由希子
林和苑
平井華泉

前馬陽代
牧野小香
水野美舟

松村美沙
山田真広
吉川富穂

渡辺夏希
山中美沙季
山中美沙季

高瀬恵秀
鈴木紅春
清水紅春

秋田時子
安藤絹子
池上創

足立彩華
安藤早百合
石積園子

伊藤喜代子
伊藤喜代子
池上創

岩崎墨舟
稲垣喜由
伊藤たつゑ

津嶋寛之
津野英子
長野安珠

岩松美代子
采女紅楓
太田紫紅

小川愛華
片岡桂苑
神谷秀花

宇佐美里帆
大倉啓風
岡島淡雪

川口千代子
久保由
後藤小苑

神谷志奈子
鬼石健司
鬼頭真美

高瀬恵秀
鈴木紅春
清水紅春

神谷志奈子
鬼石健司
鬼頭真美

田中真由美
高瀬恵秀
鈴木紅春

神谷志奈子
鬼石健司
鬼頭真美

古澤恵
福場春蘭
平田光蘭

古橋勝櫻
舟戸輝子
平野和秀



第2部 (かな) 審査風景



二科 第2部~第5部 当番審査員

長谷川丈峻	宗林 翠徑	小川 勝代	浅田 壽光	特選	稲垣 華扇	長野 榮信	吉兼 理樹	深谷 朝美	服部 光峰	加藤 舞	奥田 光子	伊藤 井翠	青木 定仔	秀逸	鈴木 千晴	佐伯恭仁子	片桐千賀子	大野 玲子	荒川 安子	準特選	彌 舟紅	原田 美紀	志賀くに子	近藤 道代	特選	中野 照子	推薦	第四部 (少字数)	森 よし子	山崎 白雲	横江 海渡	星 貴博	松本 茜翠	安岡 明信	山田 玉蓉	吉村 星光	
林 新美	高島 静雲	加藤 裕美	大原 裕美		稲垣 泗郷		宮島みどり	鈴木 貴子	林 加奈子	鈴木 貴子	加藤 珪風	小川 華舟	石井八重子		永見 沙香	鈴木 玄峰	木村 怜香	奥村 郁子	太田ミヨ子		藤村 美穂	中谷ゆかり	白石 真子														

生駒 吉識	青山 芳翰	二科賞 (漢字)	山田 清香	宮下 宗豊	前田 龍泉	中野 秋石	鶴田 硯峯	瀧上 紀翠	嶋津 智楊	坂井 季舟	小島 大立	飯屋 湖雲	加藤 比敏	植田 武	磯谷 明舟	石田 華峰	池田 絹子	秀逸	吉原 愛璃	松本 泰	田中 万寿	平 富耀	杉山 秀夫	鹿野美智代	柳原 有光	小林 進	小泉 晴生	日下部響風	寛 芳桂	今村 禎邨	石川 龍泉	青木 涼虹	福原 秋冷
石田 翠昂	安藤 翠		山本 陽子	森 青翔	松岡 清	菱川 武	永田 乾石	竹内 一聖	鈴木 龍子	柳原 悠園	齊藤 昌平	清田 東方	金子 康子	大島 敦己	伊藤 雲木	石原 覚道	石川 覚道		八谷 良二	徳倉 禾風	鷹羽 秀山	鈴木 眞壽	杉浦 鶴雲	佐野 麦静	齋藤 京子	郷 正雲	久保田俊子	川瀬 重幸	上田 祥水	今井 修武	足立 麗玉	山本 正良	

石井 清澄	池田 翠瑤	井尾 琴流	飯塚 理恵	安藤 翠慶	阿知和泰山	浅野 早織	青山 和生	藍原 桂香	山本 瑤扇	山口 勝司	山口 瞳	安田 晶子	森下千代子	村瀬 愛実	眞野由紀子	前野真由美	堀内 香	古川 未凡	藤井ゆかり	野呂 隆硯	中山 隆理子	中島 千里	竹内 雀郎	関 春香	杉森 亮子	佐藤 史織	坂部 青嶂	近藤 峻岳	小松 翠篁	後藤 智明	兒島 麻乃	木村 春鶯	加藤 芳司	片桐 清風	大野 夏実	梅田 桃花	今枝 真弓	稲垣 美鳳	
石川 玲香	池田 真夕	池田 夏爛	井内 美郷	安藤 美郷	阿知和絃子	東 智子	秋田 清芳	青木 秋舟	湯浅なつみ	山本 祥子	山田 清翠	安西あすか	森田 晶子	森 麗雅	南谷 巨輝	松山 緑翠	堀木 水明	堀 美洲	藤井 玲奈	橋本 明恵	能見 啓練	永谷 華実	富永 悠司	高木 玉鈴	鈴木 溪聲	島田 牙香	佐々木汐璃	坂井 彩乃	近藤 瑛月	後藤 柳月	古園 美凜	柴山 文美	木下 恵香	加藤 祥華	緒方 晶	大西あかり	宇野英里香	上杉真里佳	井上 就可

川本 柚香	川浦 慶風	神谷 早紀	上水 桜翠	蟹江 里奈	加藤 嶺花	加藤 文子	加藤 美江	加藤 江子	片桐 秀美	柏木 梨沙	梶川 涼花	海川 咲	納村 翠玉	奥谷 幸苑	奥村 幸苑	小川 実里	小川 貴之	小川 稽山	大平 真梨子	大野 虹鷲	大野 勝子	太田 琴野	大城 英里奈	大石 真由	大池 遥	浦野 由衣	宇佐美吉恵	上村 優香里	岩田 有里	岩田 永慎	岩田 真城	今西和賀代	井上 恵	稲田 恭子	伊藤 真由子	伊藤 賦美	伊藤 鴻仁	市田 佳慧	市岡 敬華	石黒 友希	
岸 美智子	川本 晴美	唐橋 蘭月	上村 有記	金子 大介	加藤 英硯	加藤 李菜	加藤 竹香	加藤 真華	桂川 喜翠	片岡 祥泉	加島 祐美	寛 多恵子	小野 夢花	尾崎 涼舟	奥村 春扇	小川 露桜	小川 徳子	櫻木 愛弓	坂元 桜	柳原 朝香	齊藤 千佳	近藤 星崖	近藤 蕙風	近藤 明彦	小林 彩花	小林 彩花	後藤 清麗	後藤 蘭徑	後藤 琴泉	小倉 鑿石	鴻巣 玉兔	桑原 寛和	畔柳 知子	黒田 瑞祥	久保 莖園	國枝 佳代子	櫛田 千英	木村 和象	鬼頭 舞	鬼頭 柑香	岸本 紫翠

竹内 麻実	高村 清彩	高津 径花	関野 秋嵐	関戸 若紫	鈴木 誠人	鈴木 玉蘭	鈴木 愛理	杉山 順司	末松 優子	清水 綾弓	篠田 佳那	澤田 蓉風	佐分 暢光	佐藤 明美	佐藤 華	佐々 温美	佐古 智恵	櫻木 愛弓	坂元 桜	柳原 朝香	齊藤 千佳	近藤 星崖	近藤 蕙風	近藤 明彦	小林 彩花	小林 彩花	後藤 清麗	後藤 蘭徑	小倉 鑿石	鴻巣 玉兔	桑原 寛和	畔柳 知子	黒田 瑞祥	久保 莖園	國枝 佳代子	櫛田 千英	木村 和象	鬼頭 舞	鬼頭 柑香	岸本 紫翠
武内 友花	武市 祐月	高橋みなみ	高木 貴游	関根 玉翠	角谷 彩苑	鈴木 彩日	鈴木 洋子	杉山 初奈	杉浦 秀水	白木 翠洋	島田 緩夏	志賀 紀子	澤田 香	佐藤 秀影	佐藤 彩華	佐々 温美	佐古 智恵	櫻木 愛弓	坂元 桜	柳原 朝香	齊藤 千佳	近藤 星崖	近藤 蕙風	近藤 明彦	小林 彩花	小林 彩花	後藤 清麗	後藤 蘭徑	小倉 鑿石	鴻巣 玉兔	桑原 寛和	畔柳 知子	黒田 瑞祥	久保 莖園	國枝 佳代子	櫛田 千英	木村 和象	鬼頭 舞	鬼頭 柑香	岸本 紫翠

林 里保	林 かおり	早川 周作	馬場 紅雲	服部 華谿	畑中 政子	長谷川清光	野村 菜由	信安 寛美	野田 流水	野口 紅川	丹羽 牧仙	西山 桃翠	西岡 梨菜	西浦 春陽	難波 賢城	中森 藍	中村 実咲	中村 肇	中道 千尋	長野 輝泉	長縄 奏宇	中田 菊香	中嶋 のぞみ	中嶋 彩空	長尾 象外	内藤 大翠	内藤 紫翠	鳥井 薫	友松 芳春	遠山 正幸	出口 蘭子	鶴見 蒼雲	堤 絢子	筒井 美空	塚本 常勝	塚本 常勝	谷川 景仙	田仲 美結	立松 梨沙子	竹平 美峰	竹内 麗華
原 安周	林 節香	早川 文彩	早川 文彩	服部 文瑤	羽多野 劉嵬	長谷川 鳳声	橋本 枝坦	野村 繁子	野田 有里恵	野田 和寛	布川 千鶴	丹羽 晴菜	西田 憲司	西尾 清麗	新村 成草	中山 真也香	中村 鸞邑	中村 鸞邑	中村 翠月	長畑 清楓	中西 伸江	中塚 琴菜	中瀬 育世	中嶋 静鈴	長江 裕華	内藤 泉翠	鳥嶋 玉瑛	豊嶋 朱香	戸田 毘代子	土井 祥泉	鶴見 常正	堤 帆菜	都築 弘昭	塚本 常勝	谷口 由花	棚橋 正明	田中 紫芳	武山 藍	武田 麻衣		

湯山 山中 山田 山田 山口 山岸 山内 矢野 矢島 村松 村瀬 三輪 宮田 宮崎 源口 水野 三須 右高 真野 松原 松下 松浦 增田 本田 堀内 堀内 堀 堀 星野 古川 藤森 藤本 藤田 福山 深谷 廣岡 平野 日比 匹田 坂野 伴
 浅中 田田 田田 口岸 内内 野島 松瀬 輪田 崎田 口野 須高 野原 下原 浦田 田本 内堀 内堀 堀 堀 野星 川古 森藤 本藤 田藤 山福 谷深 岡廣 野平 野日 田匹 野坂 奈
 穂子 富洲 咲生 舞朗 晴加 棠里 里帆 裕子 悠 和泉 育恵 加奈 貴子 白映 和敬 夏代 華翠 主祐 あゆみ 早苗 扇峰 秀水 瞳 翠苑 孔子 美雪 五峰 優香 雅也 菁華 惠山 東翠 志穂 遊古 重扇 友之 幸 津希

横山 山藤 山田 山田 山路 山口 山内 山内 梁川 矢崎 村谷 村上 宮地 宮路 三宅 水野 水野 三沢 三木 松原 松田 松浦 松井 本田 堀木 堀内 堀 堀 堀 堀 古川 船戸 藤森 藤村 藤木 福永 廣間 平松 平野 日比 匹田 坂野 伴
 昌華 愛大 桃胡 華苑 静竹 光華 美優 萩香 美舟 希美 佳舟 泉醉 夏実 麻美 有梨 純子 桃紅 湖舟 流恵 ひさ子 昇水 桃美 緑風 真山 瑤恵 怜泉 秀鍊 真里 博崇 蘭香 綾香 郁花 美子 暁水 紫泉 和子 清峰 光玉 幸子

佳作

加藤 勝野 柿本 奥村 小川 小笠原 大村 大野 大島 遠藤 漆崎 宇佐美 鶴飼 上原 岩場 岩田 岩田 岩田 岩田 今井 井上 稲田 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 市川 市川 磯部 石丸 石塚 石川 池山 荒川 芦澤 青木 渡辺 渡辺 渡辺 米田 吉田 横田
 喜峰 楓太 曄香 まゆみ 詩織 澄遠 瑞苑 彩 舞鳥 玲雅 清江 祥太 さゆり 桂奈 寿香 由美 浩史 涼子 圭華 佳苑 雅人 紅葉 康介 清翠 優穂 由衣 博水 昌龍 楓 真奈実 翠 翠 翠 啓子 杏歌

加藤 桂川 粕谷 奥村 小川 岡下 岡崎 大村 太田 大木 江島 白井 宇佐見 上松 上田 岩場 岩田 岩田 岩田 岩田 今井 今井 稲田 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 市川 市川 板倉 五十 石原 石黒 石川 安藤 足立 赤坂 渡辺 渡辺 渡辺 芳村 吉田
 湖舟 華泉 芳翠 夕美 萌芽 真理 小華 素月 紗子 朱幽 琴月 克成 珠鳳 恵子 久美子 水光 順峰 秀嶺 芳辰 林 華泉 唯華 浩美 雪豹 沙耶 坦史 彩香 虹峰 雪月 美佳 有美 利樹 清香 敬月 清苑 桃月

中神 富田 寺尾 柘植 田边 竹村 田川 高橋 高木 高井 須田 鈴木 鈴木 杉山 杉山 杉浦 白井 正徳 清水 柴田 穴戸 佐野 佐々木 作内 酒井 後藤 尾玉 小坂 黒川 熊崎 久野 金原 木村 鬼頭 木一 神藤 川瀬 川口 上島 加納 加藤 加藤
 紫熠 鶴子 竹豊 真浪 紫煙 藍水 沙麗 美春 悠花 麗香 翔鳳 游璃 香葉 水香 芳子 美翠 裕子 春月 清華 智香 芳子 芳辰 星江 理佳 星江 美佑 美祐 峰月 春艸 智祥 溪香 保子 恭江 瓊鐘 湖月 主華 華舟 実咲 理子 将史 朱扇 未紗 清苑

中川 永江 土井 坪井 千原 田中 竹内 高山 高田 多賀 大門 鈴木 鈴木 杉山 杉山 新海 庄野 清水 清水 柴崎 篠崎 澤田 佐藤 作野 榊原 佐伯 後藤 小嶋 高坂 熊崎 久野 國枝 木和 木俣 北原 神戸 河村 川路 河合 壁谷 加藤 加藤
 翠山 彩翠 紫溪 揖心 夢泉 緑子 莉瑠 静夏 雅奈 玲秀 秀彰 公華 美まき 光海 綾華 美子 啓子 信夫 志峰 幸泉 広大 美峰 杏実 青翠 美穂 翠芳 恵穂 蘭秀 美扇 美衣子 万由 久美 梨紗 翠香 紗季 真由 彩乃 由美 芳枝 誠健

平林 平野 平野 久田 日栄 林 林 馬場 花井 服部 野村 二村 西村 西川 西岡 新美 成田 夏目 中津 中島
 美泉 溪雲 敦子 露泉 佳月 純世 美舟 力 緑珠 実希 彩恵 仁志 美翠 美穂 郁人 紅翠 美沙 果歩 紅舟



第3部 (近代詩文) 審査風景

第二部 (かな)

生駒 君代
 川本 俊子
 成田 尚子
 古橋 里子
 山口 晶子

渡辺 葉舟
 渡辺 菜都美
 渡辺 山翠
 吉川 瑛理香
 余語 誠堂
 山添 莉子
 山下 あさみ
 山口 真以
 山内 清華
 山内 小鶴
 諸永 虹泉
 森重 友里

奨励賞

浅野 蛍雪
 安藤 悦子
 磯部 ユリ子
 上野 明美
 大野 明美
 大須賀 孝子
 堀部 美影
 星川 朝香
 堀尾 朝香
 本田 小舟
 前野 秋豊
 松井 泉城
 松坂 歩実
 松田 弘香
 三川 詩乃
 水越 泉聲
 水野 久馨
 英世 英馨
 皆元 文香
 皆元 文香
 竹内 孝子
 谷口 和子
 夏目 華星
 成瀬 綾野
 西脇 聖園
 伴 幸子

板倉 恵子
 小谷津 津子
 根本 盤子
 森 則子
 安達 啓子
 石川 直美
 稻吉 小夜子
 遠藤 里美
 大武 英子
 大野 満子
 落合 八代栄
 加藤 典子
 川崎 三枝子
 久野 宏美
 小島 春美
 杉野 鈴江
 鈴木 圭子
 高津 朱美
 田中 かつお
 中田 明美
 成田 緑風
 西尾 容子
 波賀野 幸子
 深田 哲代



第 4 部 (少字数) 審査風景



第 5 部 (篆刻・刻字) 審査風景

佳作
 牧村 敦子
 三浦 昭子
 水谷サト子
 吉田 嶺雪
 和田美智子
 松田 典子
 水谷 玉汀
 村瀬 葉
 吉野 将司
 足立 洋子
 飯波 真業
 石橋 遊貴
 伊東富士子
 小野 真実
 川口 和子
 葉名 孝枝
 小戸森麻利子
 斎田 尊子
 佐藤 あき
 白根 孝子
 坪内千佳子

三部 (近代詩文)
 中峰 綾乃
 野尻 紀子
 早川佳央里
 林 澄江
 堀川 洋子
 水野 葉子
 宮谷 江舟
 榎山 明子
 西尾 雅子
 濱田 清華
 早川 清味
 堀川千津子
 本田ふみ子
 箕浦 和子
 村瀬 明子
 鷺野 嘉子
 今村 古雅
 川田 敏美
 佐伯 恭子
 鈴木 菜月
 千葉 弘子
 林 孝湖
 平田 遙菜
 若杉 輝之

奨励賞
 浅井 優琳
 天谷 結花
 飯塚ひろみ
 石原 桃花
 伊藤 正治
 茨木 彩織
 宇津野利仁
 大澤 香奈
 小川 裕子
 乙部 光代
 神村なな美
 鬼頭 信子
 木村 由麻
 久世たか子
 小出 榮風
 古賀野源太郎
 後藤 真理
 小林 奈月
 浅野 裕香
 飯田 昌華
 石田 昌子
 市川 歩実
 稲葉 裕美
 今枝 順子
 江口 未起
 小川 恵秀
 織田 知里
 加藤 秋穂
 川口 明里
 城殿 天祐
 桐山 正美
 熊谷 涉
 合木 友理
 小笹 准子
 小林 青華
 小藤 芳園

佳作
 榎原 有里
 酒向祐里奈
 杉山 良恵
 鈴木 桃玲
 武川 桃徑
 辻 由起
 高橋 千尋
 柴田 瑞香
 柴田 清翠
 澤山 光琳
 山下真知代
 肆矢 惇恵
 山本 種子
 浅井 晨光
 浅井登志子
 伊苺 恭子
 伊藤 恵巳
 石田 雛子
 伊藤 雛子
 伊吹 伴子
 大島 佑斗
 岡 有里
 小川 順子
 加藤 祥荘
 加藤 恵美
 久野永利加
 黒木 俊輔
 高坂 廣子
 近藤 恭代
 佐々木美穂
 酒井 彩加
 近藤 あゆみ
 桑山 奈々実
 久保 松山
 川澄 良子
 加藤 千晶
 小椋 開人
 岡野愛佑香
 大西 太郎
 植田 夕貴
 井上 智広
 石田 光子
 池田 朔月
 浅本 瞳
 浅井 尚風
 渡辺 千紘
 吉田 鏡華
 山中 沙佐梨
 山中 麻代
 山口 香峰
 森下 精華
 森 規世
 村田 有菜
 前田 裕子
 古田 輝美
 久田美乃里
 樋口 直美
 林 春香
 野瀬 裕子
 生川 幸平
 富田 武夫
 土井 秀栖
 寺澤 奈巳
 土屋 撰子
 辻 麻耶子
 高井 千尋
 鈴木 静夏
 佐藤 梨乃
 酒向 醉華

奨励賞
 澤井 純子
 柴田 清翠
 柴田 瑞香
 柴本賢士朗
 鈴木 華歩子
 鈴木 賀代
 高木 賀代
 田口 ゆかり
 田中 瑞季
 月ヶ瀬 葵
 寺尾 青波
 遠松 治
 中川 莉枝
 中村和伽子
 早川 歩美
 原野 佳子
 福應 節子
 松井 雲海
 柳田 桃茜
 雪下 芳子
 渡辺真莉子
 武藤 香紗
 磯貝みえ子
 内田 佑里
 黒柳 真実
 正野 力
 杉山 貴枝
 林 寿江
 峯村 榮子
 安井 洋子
 米田 清翠
 井野 華水
 岡島 美紀
 芝口 真依
 白井 初音
 永井 智子
 日高 橘子
 村岡喜代美
 石原千砂子
 井上 龍泉
 石原 幸代
 伊藤 幸代
 金子 実央
 北村 義弘
 鈴木 裕子
 堀内 緑
 武藤 順子

佳作
 青山 正人
 伊澤美紀子
 今井 徳弥
 榎並 勝彦
 小本曾郁芳
 加藤 忠之
 小松 象神
 佐々木清香
 白井 豊子
 瀬戸 文子
 西岡貴美子
 宮部政代美
 山内昂波子
 浅岡 真未
 石川 陽子
 白井 和舟
 岡本多加江
 加藤 志歩
 小池 清子
 雑賀 敬舟
 篠田 仰信
 鈴木 悠里
 高木 啓志
 藤井 苔山
 森本 隆司
 青木 和馨
 浅野 政男
 石樽 雅舟
 榎本 翠峰
 太田 柳一
 長田 正嗣
 加藤 大輔
 神山 彩華
 佐藤 敬顕
 中村 紀久
 平下 理舟
 前川 泰二
 光輪 茂夫
 村瀬 幸一
 山村 千秋
 羽柴 裕子
 古田富美子
 増井 茂
 村瀬 幸一
 縦山 詩織
 渡邊紗智子
 青木 成光
 井口 洋子
 上村 将生
 太田奈穂美
 萩原愛知子
 加藤 清城
 金子 弘明
 小林 有希
 杉浦 生恵
 羽柴 裕子
 古田富美子
 増井 茂
 村瀬 幸一
 縦山 詩織
 渡邊紗智子
 青木 成光
 井口 洋子
 上村 将生
 太田奈穂美
 萩原愛知子
 加藤 清城
 金子 弘明
 小林 有希
 杉浦 生恵
 羽柴 裕子
 古田富美子
 増井 茂
 村瀬 幸一
 縦山 詩織
 渡邊紗智子

本年度当番審査員

特別賞選考委員 (三七名)

(二科審査委員・依嘱・無鑑査作品)(順不同)

山梶山松中武榊岡大伊青松鬼中土座黒伊樽
 本山内下野内原野池藤木永頭林屋馬野藤本
 雅夏江英玉峰晴楠青仙清清翔落陽井清天樹
 月舟鶴風英敏夫亭岑游濤石雲風山邨宇游邨
 加横村中武佐加大上天関後平中高後黒安
 藤山瀬村山藤藤島田野根藤松島木藤田藤
 矢夕俊立翠慶 緑賦白玉汀紫藍大秀玄滴
 舟葉彦強屋雲裕水草雲振鷺雲川宇園夏水

一科審査員

第一部(漢字) (四九名)
 土田竹鈴篠酒後工木河片岡今伊伊伊市飯
 屋中内木田向藤藤野合山本田藤藤川田
 小隆梅蘭祥清松俊伯瑤清苔紅静真昌嶺琴
 苑豊泉峰濤谷烟朴堂舟洲泉溪雅葉石華舟
 鳥津武高杉澤佐栗木川加長岩伊伊伊伊井
 居田山井山 美木村崎藤村田藤藤藤藤口
 竹秋昂東瓊瑤泉琴潮尚紅子潤白翠新暁方
 泉月石里川沙涯聲香麗泉鴻流蒲香川嶺燕

第二部(かな) (一名)

渡山矢森平中中

第三部(近代詩文) (一二三名)

水林玉近片青

第四部(少字数) (六名)

溝廣鳥佐川内阿

第五部(篆刻・刻字) (二名)

丹中河安

丹羽根原達 波艸界 前原武黒川伊
 常海彩柏亭 切田外 田田内田口藤
 見童雲亭 童洋玉 小凍幽寿雄芳
 日比野 州子桜 鶴谷汀水峰華
 妃 扇

二科審査員

第一部(漢字) (六二名)

秋藤田桃

第二部(かな) (一名)

青木美雲

第三部(近代詩文) (一二三名)

水林玉近片青

第四部(少字数) (六名)

溝廣鳥佐川内阿

第五部(篆刻・刻字) (二名)

丹中河安

鈴澤小倉國木神加奧梅岩犬石安秋
 木田塚橋島全谷地村井飼原藤田桃
 雲明珠華英春静孤天鶯榮梅聲太桃
 峰琴香仙華琴苑握光谷川風起泉
 竹下酒黒倉木神角尾之内犬伊石浅
 内村向川田村谷野内村田飼藤田井
 清汀虹鵬珪嶺素松柳三翠游清松徑
 泉柳風霄延秀景鶴雪葉聲華逕濤桜

審査部

○部長

関根玉振

○副部長

後藤汀

主任

松島仙遊

〃

横井宏風

〃

伊藤英軒

〃

青木清石

〃

天野白雲

〃

山本雅月

〃

村瀬俊彦

〃

加藤裕

〃

武内敏

〃

横山夕葉

〃

中島龍溪

〃

岡野楠亭

〃

横山夕葉

〃

武内敏

〃

加藤裕

〃

武内敏

〃

横山夕葉

〃

中島龍溪

〃

岡野楠亭

〃

横山夕葉

〃

武内敏

〃

加藤裕

〃

武内敏

〃

横山夕葉

〃

中島龍溪

〃

岡野楠亭

〃

横山夕葉

〃

武内敏

〃

加藤裕

〃

武内敏

中日書道展 事務局業務		
	担 当 部	作 業
1	総 務 部	遺作出品依頼
2	庶 務 部	審査員等辞令交付
		審査依頼
		来賓招待
3	企 画 部	特別展
4	第1・第2 経 理 部	審査時昼食手配
		展覧会関係経理
5	第1・第2 会 員 部	各部補助
6	第1・第2 事 業 部	展覧会要項・事務分掌・出品票等作成
		中日展運営委員会
		審査会・展覧会会場使用打ち合せ・次年度申し込み
		審査会・展覧会会場設営（展示パネル・看板等）
		中日展反省会
		その他展覧会関係作業
7	研 究 部	各部補助
8	教 育 部	各部補助
9	褒 賞 部	賞品賞状準備・揮毫・袋詰
		授賞式
10	渉外宣伝部	後援・共催申請
		ポスター・案内状作成
		出品要項等発送（他部とも連携）
		新聞広告原稿
11	記録統計部	写真撮影・記録（会場風景など）
		審査員写真撮影
		受賞作品撮影
		受賞者写真撮影
12	編 集 部	展覧会原稿依頼・編集
		評論文依頼・編集
13	厚 生 部	祝賀会
14	I T 部	書類搬入集計
		地域版掲載データ作成
		入賞作品CD-ROM等作成
		展覧会データ作成

事務分掌記載部業務	
書類搬入整理	入賞通知
	入賞目録作成

第六十三回中日書道展を終えて

第一事業部長 伊藤仙游

第六十三回中日書道展は、平成二十五年度四月七日運営委員会の開催により、本格的に始動する事となりました。その後書類搬入（四月十九日）、裏打作品搬入（五月十日）、審査（十一日～十三日）、裏打作品搬出（十三日）と皆様方のご協力を戴き滞りなく進行、作品陳列を待つのみとなりました。

本年度は三年に一度の愛知トリエンナーレの影響を受け、愛知県美術館展示室が二部屋減少したため、役員作品の展示が名古屋市民ギャラリー栄、電気文化会館、愛知県美術館の三会場で陳列されることとなりました。

陳列にあたっては、市民ギャラリー栄・電気文化会館を六月十日（月）の午前・午後に変更、十一日の愛知県美術館に高所作業用の櫓を一台持ち込むなど工夫をし、また取扱業者の方々の絶大なご協力を戴き、大変スムーズに短時間で陳列することが出来ました。搬出についても各副部長の手腕や取扱業者のご協力により、短時間で終了しております。この役員展は、日本及び中部の書

壇を代表する方々や意欲的に活動を進める作家の方々など、中部日本書道会の中核を担う作品ばかりで大変見応えがあり、来場された書道愛好家の方からは感嘆の声も聞かれました。

陳列作品数は市民ギャラリー栄三一点、電気文化会館二〇四点、愛知県美術館一五九二点合計二一一一点となり、出品者の皆様のご鳳声のおかげで、来場者は三会場合計七五三六名にも上りました。

その後の名古屋博物館六月十九日～二十三日の一科展は、一〇八六点（内若年層七七）の展示（昨年比三四点減）・入場者二六九二名、六月二十六日～三十日の二科展は、一三三二点（内若年層四八六）の展示（昨年比一一八一点減）、入場者数は二五五六名に上り、一科展・二科展合計で作品数はやや減少していますが入場者数は四八〇名の増となりました。この結果を見て、約五百名余の若年層を含む一科・二科出品者の、次

代を担うエネルギーあふれる作品に対する、関心の高さを感じました。今後皆様得益々書字に励み、書壇を支える役員へと昇格して下さることを大いに期待致して居ります。

最後になりましたが、中日書道展の開催に当たりましては、本会役員の皆様のご協力とご協力を戴き、心より御礼申し上げます。また搬入・陳列など、取扱業者の皆様の大変なご尽力に感謝申し上げます。来年度以降も、中部を代表する中日書道展が内容・規模共に益々充実致しますように、皆様方の温かいご協力を戴きながら、努力してまいりたいと思っております。



設 営 風 景

第六十三回中日書道展

反省会を開催

夏本番の暑さを感じさせる七月十五日、名鉄ニューグランドホテルに於いて午後五時より、第六十三回中日書道展反省会が開催されました。本会は毎年中日書道展終了後、来年度以降のより良い運営を目指して各部署から反省事項を提出していただき、（企画委員会でも検討して居ります）がより様々のご意見・ご討議を頂くため開催致しております。本年度は理事会の開催もあり、理事の方々にもご出席をお願いしましたので、樽本樹郎、安藤滴水、両副会長、鬼頭翔雲理事長を始め六一名のご参加を戴きました。

総務部長青木清濤先生の進行により開会、理事長鬼頭翔雲先生から「中日書道展には皆様から大変ご協力を頂き有難うございます。来年度以降の中日書道展のため、忌憚のないご意見をお願いします。」旨のご挨拶をいただきました。

その後伊藤仙游第一事業部長より反省事項の説明があり、バーコードを利用した陳列名簿の作成など、中日書道展が少しずつ改革され、細かな反省点はあるものの、どの会場も陳列、搬出共スムーズに進んだ旨の説明があり、この場は主に協賛会員の方からのご意見を中心に討議を進め、作品仕分けシールの件など検討致しました。

この反省会にお寄せいただいた貴重なご意見を参考に、細部については今後企画委員会で詳しく検討してまいります。

この後名譽副会長安藤滴水先生から「中日書道展にご協力ありがとうございます。反省事項も終わり、ここからは慰労会でもあります。楽しく過ごしましょう。」と乾杯のご発声をいただき、和やかな空気に包まれました。

この後、互いに酌み交わし話し合い、和気藹々の内に時間が過ぎ、閉会の時を迎えました。

協賛会員一覧

	〒	住 所	TEL
浅井 梧竹堂	452-0823	名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703
(株) 荒川印刷	460-0012	名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006
石黒五雲堂	453-0834	名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862
(株) 一休園	731-4221	広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019
伊藤大林堂	465-0041	名古屋市名東区朝日ヶ丘63	052-776-1881
印刷屋九二八(株)	497-0011	あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190
ウサミ印刷(株)	451-0066	名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361
永楽堂	445-0854	西尾市永楽町4-10	0563-54-2053
(有) 應天堂	501-1172	岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200
(有) 岡本頌文堂	510-0081	三重県四日市市北町3-4	059-352-6010
魁盛堂(株)	451-0063	名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211
開明株式会社	336-0931	さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091
加藤長寿堂	453-0801	名古屋市中村区太閤1-16-23	052-452-4751
(有) 伽藍	460-0011	名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741
(株) 川口春霞堂	497-0012	あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024
(有) 菊屋商店	460-0007	名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145
(有) 吸月堂	462-0844	名古屋市北区清水2-2-2	052-931-6948
(株) 玉蘭堂	150-0002	東京都渋谷区渋谷1-12-11 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886
(株) 金工堂	460-0003	名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151
金陽堂表具店	471-0076	豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863
(有) 高誠堂	440-0804	豊橋市呉服町44	0532-52-5514
光文堂(株)	461-0005	名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
(株) 呉竹	630-8670	奈良市南京終町7-576	0742-50-2050
小松表具店	485-0831	小牧市東2-544	0568-75-0281
(株) 柴田紙店	491-0859	一宮市本町3-9-18	0586-72-2001
(株) 四宝堂	444-0864	岡崎市明大寺町菩提門13-21	0564-51-2671
(株) 勝榮堂	630-8113	奈良市法蓮町1161	0742-23-3005
(有) 真清社	460-0007	名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
(有) 新泉堂	462-0006	名古屋市北区若鶴町344-1	052-901-0514
(株) 青雲堂	446-0008	安城市今本町3-1-15	0566-98-2233
(株) 青柳堂	460-0008	名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
創源工房	458-0034	名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
(有) 荘文堂	478-0017	知多市新知宝泉坊30-1	0562-55-0517
(株) 大玄堂	500-8289	岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
大同印刷(株)	501-6241	羽島市竹鼻町3214	0583-92-2345
(株) 大林堂	460-0008	名古屋市中区栄3-27-15	052-261-4846
(株) サンライズ	470-0131	日進市岩崎町神明158-16	0561-41-8332
(株) 長楽斎筆舗	460-0007	名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
名古屋キョー和	460-0008	名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
名古屋ハウコドウ	462-0828	名古屋市北区東水切町2-28-8	052-915-1798
西川堂森表具店	491-0859	一宮市本町4-23-11	0586-72-3629
美創堂	486-0831	春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
平野筆墨堂(株)	463-0021	名古屋市守山区大森1-2701	052-798-6651
株式会社ベスト企画	453-0015	名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング8F	052-453-2022
(株) 墨運堂	630-8043	奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
松屋紙店	475-0866	半田市清水北町63	0569-21-2572

平成二十五年度

総会 第一回理事会 第二、三回理事会 第四回理事会

六月十六日(日) 於 ウェスティンナゴヤキャッスル
 五月十九日(日) 於 本部
 六月十六日(日) 於 ウェスティンナゴヤキャッスル
 七月十五日(月・祝) 於 名鉄ニューグランドホテル

総会

庶務部長 天野白雲

本年度総会は、平成二十五年六月十六日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル青雲の間に行いました。出席者六八一名、委任状提出者二四〇〇名、計三〇八一名となりました。

安藤滴水名誉副会長のご挨拶をいただき、定款に則り鬼頭翔雲理事長を議長とし、終始熱心にご審議いただき、いずれも承認されました。議案は以下の通りで、役員選任に関する件の承認ののち、新役員(理事・監事)が紹介されました。なお平成二十五・二十六年新役員については別表(P5)の通りです。また総会の後、新理事会が開かれ、理事長に鬼頭翔雲氏、副理事長に松永清石氏、関根玉振氏、伊藤昌石氏が選出されました。

- ① 平成二十四年度事業報告書の承認に関する件
- ② 平成二十四年度収支決算書の承認に関する件
- ③ 財産目録の承認に関する件
- ④ 役員選任に関する件



新理事長を発表される
安藤名誉副会長



総会で議長を務められる鬼頭理事長

第一回理事会

事務局長 伊藤昌石

・本年度総会の上程議案に関する理事会

平成二十五年第一回理事会を、去る五月十九日(日)、公益社団法人中部日本書道会本部にて開催いたしました。
 理事二五名のご出席のもと、理事長を議長に選出。平成二十五年総会提出議案他について熱心にご審議いただき承認されました。

議案

- ① 平成二十四年度事業報告書の承認に関する件
- ② 平成二十四年度収支決算書の承認に関する件
- ③ 財産目録の承認に関する件
- ④ 評議員の承認に関する件
- ⑤ 役員選任に関する件
- ⑥ 平成二十五年総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件



第一回理事会 本部にて

第二回理事会

・新役員（理事・監事）の
選任に関する理事会

六月十六日（日）、平成二十五年度総会に先立ち臨時理事会がウエスティンナゴヤキャッスルにおいて開催されました。出席理事は二八名。議案は、役員選考委員会に関する件。その内容は、役員選考委員会における平成二十五・二十六年度新役員（理事・監事）選考の経緯の説明と新役員の発表でした。出席理事全員の賛成で承認されました。



総会前に行なわれた第二回理事会

第三回理事会

・総会後の新理事長・新副理事長の
選任に関する理事会

六月十六日（日）総会において平成二十五・二十六年度の役員（理事・監事）が選任されましたので、総会終了後、第三回理事会が開催されました。
理事の中で最年長の榊原晴夫氏を座長として審議の上、新理事長に鬼頭翔雲氏が再任され、副理事長に松永清石氏、関根玉振氏、そして新しく伊藤昌石氏（事務局局長兼任）が選任されました。



第三回理事会
二期目の理事長に選任され挨拶される鬼頭翔雲理事長

第四回理事会

・新企画委員の選任に関する理事会

七月十五日（月・祝）名鉄ニューグラウンドホテルにおいて、新理事出席のもと平成二十五・二十六年度の企画委員のメンバーが決定しました。（企画委員メンバーはP6に記載）
又理事会に先立ち辞令交付式が行なわれました。



樽本名誉副会長から理事長の辞令を受け取る鬼頭理事長



第四回理事会

平成二十五年度 公益社団法人 中部日本書道会

総会 議案書

日時 平成二十五年六月十六日(日)・場所 ウェスティンナゴヤキャッスル

第一号議案 平成二十四年度事業報告書の承認に関する件

平成二十四年度 事業報告

第一 書道普及振興事業(公益目的事業1) 1 展覧会事業

(1) 第六十二回中日書道展

会場及び期間

愛知県美術館

平成二十四年六月十三日(水)～六月十七日(日)

名古屋市民ギャラリー栄

平成二十四年六月十二日(火)～六月十七日(日)

名古屋博物館

平成二十四年六月十九日(火)～七月一日(日)

出品点数 四、六六六件

内訳 第一部(漢字) 二、九〇〇点

第二部(かな) 五六五点

第三部(近代詩文書) 七二八点

第四部(少字数) 二〇五点

第五部(篆刻・刻字) 二六八点

(2) 第六十三回中日書きぞめ展

会期 平成二十五年三月二十二日～二十三日

会場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一六、九六四件

(3) 中日支部書道展

① 第二十七回濃飛支部展

会期 平成二十四年七月二十日～二十二日

会場 恵那文化センター

出品点数 四二点

② 第二十六回北勢支部展

会期 平成二十四年七月二十日～二十二日

会場 四日市市文化会館

(4) 出品点数 八一点

中日支部学生書道展

① 第四十一回一宮支部学生書道展

会期 平成二十四年十一月二十四日～二十五日

会場 一宮スポーツセンター

出品点数 三、八〇九点

② 第四十八回半田支部学生展

会期 平成二十四年七月十五日(土)～十六日(日)

会場 雁宿ホール

出品点数 二、五二九点

③ 第四十五回記念西三河学生書道展

会期 平成二十四年七月六日～八日

会場 岡崎市美術館

出品点数 六、二五三件

④ 第四十五回記念西三河学生書道選抜展

会期 平成二十五年二月二十日(水)～二十四日(日)

会場 岡崎市美術館

出品点数 四七一点

2 公開講座事業

第十六回公開講座

日時 平成二十四年十一月二十五日(日)

会場 愛知県産業労働センター

受講者 一四八名

テーマ 「少字数の魅力」

講師 理事 横山 夕葉 先生

講師 監事 梶山 夏舟 先生

講演会、講習会、研究会事業

(1) 第二十四回書道教育研修会(実技講習会)

日時 平成二十四年十月八日(月祝)

会場 名古屋国際センター

講演会、講習会、研究会事業

(2) 講演会

① 本部

平成二十五年二月十一日(月祝)

名古屋観光ホテル

テーマ 「がん検診を有効に受けるために」

講師 三重大学医学部附属病院長 竹田 寛 先生

参加者 四〇六名

② 一宮支部

平成二十五年一月二十七日(日)

一宮スポーツ文化センター

テーマ 「森 春壽とゆかりの人々」

講師 元一宮市博物館学芸員 毛受 英彦 先生

参加者 一七五名

③ 半田支部

平成二十五年三月三日(日)

雁宿ホール

テーマ 「文房四宝

——尾張徳川家伝来の唐墨を中心に——

講師 徳川美術館 副館長 四辻 秀紀 先生

参加者 七一名

④ 西三河支部

平成二十五年二月二十三日(日)

岡崎市商工会議所

テーマ 「宋代の書について」

講師 名誉副会長 樽本 樹邨 先生

参加者 一四七名

⑤ 濃飛支部

平成二十四年五月二十七日(日)

恵那市恵那峡グランドホテル

テーマ 「書と生活」

講師 神谷 慎軒 先生

参加者 二六名

参加者 八〇名
内容 書道講話
A 「漢字——線とかたち——」 関根 玉振 先生
A 「近代詩文書——詩文書を楽しむ——」 川崎 尚麗 先生
B 「かな——かなで遊ぶ——」 廣澤 凌舟 先生
B 「少字数——少字数を楽しむ——」 近藤 浩平 先生
鈴木 松尾 先生

⑥ 岐阜支部

平成二十四年五月二十七日(日)

岐阜会館

テーマ「書論に学ぶ——自分の書作の目標——」

講師 理事長 鬼頭 翔雲 先生

参加者 七四名

第二 福祉事業(公益目的事業2)

二〇二二年チャリティー愛の募金

——しあわせ薄い人々に愛の手を——

寄託 中日新聞社社会事業団へ二〇〇万円

東海テレビ福祉文化事業団へ一八〇万円

第三 その他の事業(相互扶助事業)

1 書道に関する調査研究および発表

調査研究及び発表

2 書道教育者養成及び普及事業

(1) 書道教育者の推薦制度 八件

(2) 外国研修旅行補助 四件

3 展覧会事業

(1) 第二十一回寿書展

会 期 平成二十四年十一月二十七日～十二月二日

会 場 電気文化会館

出品点数 二二二点

(2) 中日支部展・支部選抜展

① 一宮支部

第五十八回一宮支部書道展

会 期 平成二十四年十一月二十四日～二十五日

会 場 一宮市スポーツセンター

出品点数 二一六件

② 半田支部

第四十六回半田支部展

会 期 平成二十四年九月

会 場 雁宿ホール

出品点数 一五五件

③ 西三河支部

第四十五回西三河支部会員(四十五周年記念事業)

会 期 平成二五年二月二十日～二十四日

会 場 岡崎市美術館

出品点数 二二七件

④ 東三河支部

東三河支部展

会 期 平成二十四年七月三日(火)～八日(日)

会 場 豊川桜ヶ丘ミュージアム

出品点数 一三〇点

⑤ 東三河支部選抜展

会 期 平成二五年二月十二日(火)～十七日(日)

会 場 豊橋美術館

出品点数 五五五件

⑥ 中南勢支部

第二十七回中南勢支部展

会 期 平成二五年一月二十二日(火)～二十七日(日)

会 場 三重県立美術館(県民ギャラリー)

出品点数 八三点

⑦ 岐阜支部

第十九回岐阜支部会員展

会 期 平成二十四年九月二十一日(金)～二十三日(日)

会 場 岐阜市文化会館

出品点数 三〇三点

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部

平成二十四年十月二十八日(日) 常滑市

内容 「タイトル絵付け体験」

参加者 三六名

② 北勢支部

平成二五年二月十七日(日) じばさん三重

内容 「筆の話」

講師 一休園会長 久保田 哲暁 氏

参加者 九五名

(2) 講演会

① 本部

平成二五年二月十一日(月祝) 名古屋観光ホテル

テーマ 「がん検診を有効に受けるために」

講師 三重大学医学部附属病院長 竹田 寛 先生

参加者 四〇六名

② 東三河支部

平成二十四年七月七日(土) ウェステージ豊橋

テーマ 「崋山と小華」

講師 元豊橋市美術館館長 後藤 清司 先生

参加者 九〇名

③ 北勢支部

平成二十四年七月二十二日(日) 四日市市文化会館

テーマ 「韓天寿の書業 松阪というところ」

講師 理事長 鬼頭 翔雲 先生

参加者 九二名

(3) 研究会

① 半田支部

平成二十四年四月十四日(土) 雁宿ホール

中日書道展 作品研究会

参加者 八五名

② 西三河支部

平成二十四年四月一日(日) 安城市文化センター

中日書道展 作品研究会

参加者 一三二名

(4) 研修会

① 本部(史跡探訪研修旅行)

平成二十四年八月八日(水)～九日(木)

「MOA美術館」 「箱根ガラスの森美術館」

「大門碑林公園」他

参加者 一二四名

② 一宮支部

平成二十四年十月二十八日(日)

飛鳥路の旅 薬師寺・国立博物館正倉院展

参加者 六九名

③ 半田支部

平成二十四年十一月十八日(日)

墨の資料館(握り墨体験)

奈良国立博物館・杉岡華邨書道美術館

参加者 四三名

④ 西三河支部

平成二十四年十月三十日(日)

東海道広重美術館 梅蔭禅寺「清水次郎長資料館」

参加者 三八名

⑤ 東三河支部

平成二十四年十月二十八日(日)

常滑市 やきもの 登り窯

参加者 三六名

⑥ 濃飛支部

平成二十四年十月二十六日(金)

松坂屋美術館「古谷蒼韻展」

徳川美術館「徳川将軍のお成り」

参加者 二一名

⑦ 北勢支部

平成二十四年十一月十一日(日)

京都国立博物館「宸翰・天皇の書」

相国寺承天閣美術館 他

参加者 三二名

⑧ 中南勢支部

平成二十四年十月七日(日)

西教寺・比叡山延暦寺・ガーデンミュージアム

参加者 三十七名

⑨ 岐阜支部

平成二十四年十一月二十三日(金)

伊勢神宮・遷宮館

参加者 三十五名

5 福利厚生事業

(1) 塾総合保険

六三件 二、五三六名

(2) 会員交流会

会員交流会

平成二十四年十二月九日(日) 星ヶ丘ボウル

参加者 七四名

6 老人会色紙贈呈

半田支部

平成二十四年八月二十四日(金)

寄贈数 六七〇点

寄贈先 半田市・武豊町・阿久比町・東浦町・美浜町・南知多町の各役場から長寿者に贈呈

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。

・会員章(門章・襟章)の交付

・会員名簿の発行

8 広報活動事業

(1) 中日会報

一六四号 平成二十四年四月一日付け発行

一六五号 平成二十四年七月一日付け発行

一六六号 平成二十四年十月一日付け発行

一六七号 平成二十五年一月一日付け発行

(2) 支部会報

① 一宮支部

四一号 平成二十四年六月一日付け発行

② 半田支部

六七号 平成二十四年四月一日付け発行

六八号 平成二十四年十月一日付け発行

③ 西三河支部

六三号 平成二十四年六月一日付け発行

六四号 平成二十四年十二月一日付け発行

④ 東三河支部

六三号 平成二十四年十月一日付け発行

⑤ 濃飛支部

二号 平成二十五年二月一日付け発行

⑥ 北勢支部

二号 平成二十五年三月二十日付け発行

⑦ 岐阜支部

三九号 平成二十四年七月二十五日付け発行

(3) ホームページ

随時更新

9 資料文献収集保存事業

書道功労者等顕彰事業

表彰期日 平成二十四年六月十七日(日)

10 会場

名古屋観光ホテル

平成二十四年度功労者として、次の四氏に表彰状を贈呈した。

(故)長沼 桂舟 (故)広阪 牧川

(故)伊貝 芳雪 (故)安藤 仁宣

第四 管理業務

1 総会 本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。

平成二十四年六月十七日(日)

ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催

次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十三年十一月から平成二十四年三月までの事業報告書の承認に関する件

第二号議案 平成二十三年十一月から平成二十四年三月までの収支決算書の承認に関する件

第三号議案 財産目録の承認に関する件

2 理事会

第一回理事会

平成二十四年五月二十日(日) 本部にて開催

次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十三年十一月から平成二十四年三月までの事業報告書の承認に関する件

第二号議案 平成二十三年十一月から平成二十四年三月までの収支決算書の承認に関する件

第三号議案 財産目録の承認に関する件

第四号議案

平成二十四年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

第二回理事会

平成二十五年二月十一日(月祝)

名古屋観光ホテルにて開催

次の議案について審議、原案の通り議決した。

第一号議案 平成二十五年年度事業計画(案)に関する件

第二号議案 平成二十五年年度予算(案)に関する件

第三号議案 役員選任方法に関する件

第四号議案 参与及び評議員の承認に関する件

第五号議案 正会員の承認に関する件

第六号議案 審査会員の承認に関する件

3 評議員会

平成二十五年二月十一日(月祝)

名古屋観光ホテルにて開催

次の事項について報告をした。

(1) 平成二十五年年度事業計画書について

(2) 平成二十五年年度予算書について

(3) 参与及び評議員の承認について

(4) 正会員の承認について

(5) 審査会員の承認について

4 企画委員会

(1) 第一回企画委員会

平成二十四年四月八日(日) キャッスルプラザ

(2) 第二回企画委員会

平成二十四年五月二十日(日) 本部

(3) 第三回企画委員会

平成二十四年六月十七日(日) 本部

(4) ウエスティンナゴヤキャッスル

(5) 第四回企画委員会

平成二十四年七月十四日(土) 本部

(6) 第五回企画委員会

平成二十四年八月十八日(土) 本部

(7) 第六回企画委員会

平成二十四年十月八日(月) 本部

(8) 第七回企画委員会

平成二十四年十一月二十五日(月) 本部

(9) 第八回企画委員会

平成二十四年十二月二十三日(日) 本部

(10) 第九回企画委員会

平成二十五年二月十一日(月祝) 名古屋観光ホテル

第十回企画委員会

平成二十五年三月二十四日(月祝) 本部

第2号議案 平成24年度収支決算書の承認に関する件

平成24年度 収支計算書

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

Table with columns: 科目, 決議額(A) 円, 予算額(B) 円, 差異(A)-(B) 円, 説明, 備考. It details the financial activities and results of the association, categorized by department and activity type.

貸 借 対 照 表

平成25年 3月31日現在

科 目	当 期	前 期	増 減	説 明
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流動資産				
①現金				
現金	1,863,540	1,409,350	454,190	
普通預金	5,124,544	4,195,022	929,522	
郵便振替	84,032	928,397	△844,365	
定期預金	8,736,000	7,736,000	1,000,000	
現金預金合計	15,808,116	14,268,769	1,539,347	
②前払費用	0	0	0	
前払費用合計	0	0	0	
流動資産合計	15,808,116	14,268,769	1,539,347	
2. 固定資産				
①基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	
②特定資産				
定期預金	82,000,000	82,000,000	0	
本部積立金	2,880,000	2,214,000	666,000	
支部積立金	1,730,032	2,030,669	△300,637	
特定資産合計	86,610,032	86,244,669	365,363	
③その他の固定資産				
備品	20,265	42,739	△22,474	
電話加入権	171,533	171,533	0	
保証金	2,952,320	2,952,320	0	
その他の固定資産合計	3,144,118	3,166,592	△22,474	
固定資産合計	119,754,150	119,411,261	342,889	
資産合計	135,562,266	133,680,030	1,882,236	桑山ビル分
II 負債の部				
1. 流動負債				
預り金	183,282	169,663	13,619	
前受金	0	157,000	△157,000	
未払金	0	3,254,411	△3,254,411	
流動負債合計	183,282	3,581,074	△3,397,792	
2. 固定負債	0	0	0	
負債合計	183,282	3,581,074	△3,397,792	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産	30,000,000	30,000,000	0	
2. 一般正味財産	105,378,984	100,098,956	5,280,028	
正味財産合計	135,378,984	130,098,956	5,280,028	
負債及び正味財産合計	135,562,266	133,680,030	1,882,236	

第3号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成25年 3月31日現在

	円
総 資 産 額	135,562,266
基 本 財 産	30,000,000
運 用 財 産	105,562,266
負 債	183,282

I 資産の部	円
1. 流動資産	
①現金預金（運用資産）	
(1)現金	
本部 現金	970,539
一宮支部 現金	197,724
半田支部 現金	26,465
西三河支部 現金	202,899
東三河支部 現金	169,406
濃飛支部 現金	10,016
北勢支部 現金	36,387
中南勢支部 現金	195,681
岐阜支部 現金	54,423
現金合計	1,863,540

(2) 普通預金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店 三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店 (理) 三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店 大垣共立銀行菊井町支店 一宮支部 ゆうちょ銀行 半田支部 知多信用金庫 西三河支部 ゆうちょ銀行 西三河支部 西尾信用金庫 濃飛支部 ゆうちょ銀行 北勢支部 ゆうちょ銀行 岐阜支部 関信用金庫	1,172,731 133,694 52,165 2,548,882 199,204 417,718 38,683 0 47,677 1,825 511,965	
	普通預金合計	5,124,544	
(3) 郵便振替	本部 名古屋中央郵便局 一宮支部 郵便振替 半田支部 郵便振替 西三河支部 郵便振替 東三河支部 郵便振替 濃飛支部 郵便振替 北勢支部 郵便振替 中南勢支部 郵便振替 岐阜支部 郵便振替	64,182 0 0 7,380 970 0 1,027 942 9,531	
	郵便振替合計	84,032	
(4) 定期預金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店 大垣共立銀行菊井町支店	2,736,000 6,000,000	
	定期預金合計	8,736,000	
	流動資産合計	15,808,116	
②前払い費用		0	
2. 固定資産			
①基本財産			
(1) 土地	該当なし		
(2) 建物	該当なし		
(3) 基本金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	30,000,000	
(4) 有価証券	該当なし		
(5) 機械器具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
②特定資産(運用財産)			
(1) 土地	該当なし		
(2) 建物	該当なし		
(3) 特定資産			
定期預金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	82,000,000	
本部積立金			
80周年記念事業費積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,200,000	
設備拡充資金積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	200,000	
名簿費引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,000,000	
退職給付引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	480,000	
支部積立金			
一宮支部60周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	950,000	
半田支部記念事業積立金	知多信用金庫	400,000	
西三河支部45周年記念事業積立金	西尾信用金庫	0	
東三河支部40周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	200,000	
濃飛支部30周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	30,000	
北勢支部30周年記念事業積立金	百五銀行東員支店	150,032	
	特定資産合計	86,610,032	
③その他の固定資産(運用財産)			
(1) 備品	パソコン プロジェクター	1 20,264	本部 本部
(2) その他	電話加入権 保証金	171,533 2,952,320	株式会社桑山
	その他の固定資産合計	3,144,118	
	固定資産合計	119,754,150	
	資産合計	135,562,266	
3. 負債			
	預り金	34,133 12,700 136,449	1～3月分源泉所得税 3月分市県民税 2・3月分社会保険料
	預り金合計	183,282	
	前受金	0	
	未払金	0	
	負債合計	183,282	

正味財産増減計算書

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

科目	当期	前期	増減	説明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	9,024	0	9,024	
② 特定資産受取利息	29,871	12,618	17,253	
③ 受取会費	12,023,000	77,000	11,946,000	
評正準協会費	18,151,000	588,000	17,563,000	
議正準協会費	3,335,000	235,000	3,100,000	
員受取会費	1,125,000	75,000	1,050,000	
費取入	34,634,000	975,000	33,659,000	
④ 事業収益				
寿書展参加料	661,000	774,000	△113,000	
支部学生展参加料	5,195,000	1,902,000	3,293,000	
支部選抜展参加料	5,739,575	10,000	5,729,575	
支部研修会参加料	204,000	204,000	0	
支部講習会参加料	2,247,850	219,000	2,028,850	
支部講習会参加料	0	0	0	
書道教育者推薦教室看板料	144,000	0	144,000	
藝員交流保険料	200,000	25,000	175,000	
総合流参加料	338,716	0	338,716	
公開講座参加料	285,000	0	285,000	
書道教育研修参加料	228,000	244,000	△16,000	
80周年記念事業収入	45,000	0	45,000	
中日書きぞめ展収入	0	0	0	
中の日書きぞめ展収入	49,293,700	0	49,293,700	
愛の募金収入	6,204,160	6,158,000	46,160	
本部祝賀会収入	4,573,000	1,373,000	3,200,000	
本部祝賀会収入	17,100,650	6,040,000	11,060,650	
本部祝賀会収入	2,319,000	1,358,000	961,000	
事業取寄付金	94,778,651	18,307,000	76,471,651	
⑤ 受取利息	0	0	0	
⑥ 雑収入	3,303	3,310	△7	東和不動産
受明会員簿広告料収入	840,000	2,703,000	△2,703,000	
宛名ラベル発行手数料収入	422,465	150,000	690,000	
負担金収入	422,465	137,800	284,665	
雑収入	97,000	96,000	1,000	
雑収入	335,000	75,000	260,000	
雑経常収益計	1,697,768	3,165,110	△1,467,342	
	131,149,314	22,459,728	108,689,586	
(2) 経常費用				
① 事業費				
企画委員を兼務する評議員報酬	840,000	360,000	480,000	
給料手当	0	1,222,000	△1,222,000	
臨時雇賃金	799,996	160,000	639,996	
福利厚生費	0	0	0	
報償謝金	1,374,772	560,303	814,469	
報償謝金	7,888,618	3,811,673	4,076,945	
報償謝金	732,640	20,000	712,640	
旅費交通費	7,712,216	1,520,655	6,191,561	
食糧費	7,403,221	2,952,833	4,450,388	
消耗品費	670,300	140,529	529,771	
印刷製本費	6,959,860	3,760,008	3,199,852	
光熱水費	72,540	0	72,540	
通信運搬費	3,729,638	1,415,958	2,313,680	
保険料	0	0	0	
手使車費用	10,303,144	773,433	9,529,711	
借什器備品	10,812,130	2,600,930	8,211,200	
消耗什器備品	2,550,321	1,050,396	1,499,925	
負担託付金	0	0	0	
委託託付金	480,000	310,000	170,000	
寄託託付金	671,815	325,935	345,880	
寄託託付金	3,900,000	3,865,000	35,000	
補助金	0	0	0	
補助金	80,000	20,000	60,000	
法定福利	0	0	0	
支流出	0	0	0	
会費	301,475	0	301,475	
本部祝賀会費	16,944,487	6,081,273	10,863,214	
本部祝賀会費	2,645,444	1,358,000	1,287,444	
事業費	86,872,617	32,308,926	54,563,691	
② 管理費				
理事監事報酬	1,445,000	355,000	1,090,000	
名誉副会長報酬	200,000	0	200,000	
名誉顧問報酬	60,000	40,000	20,000	
学術顧問報酬	350,000	0	350,000	

従業員給料手当	5,266,800	1,379,800	3,887,000	
退職給付金	0	903,000	△903,000	
臨時雇賃	0	98,000	△98,000	
福利厚生費	312,019	18,249	293,770	
報償謝金	1,137,343	749,845	387,498	
報償交際費	87,905	20,000	67,905	
旅費交通費	607,298	365,767	241,531	
食糧費	2,198,546	1,075,196	1,123,350	
消耗品費	2,948,493	2,156,284	792,209	
印刷製本費	959,580	610,747	348,833	
光熱水費	9,219,885	4,645,892	4,573,993	
通運費	364,792	353,635	11,157	
手続手数料	2,702,849	1,131,473	1,571,376	
事務賃	363,282	502,655	△139,373	
車借所用	6,503,620			
消耗什器備品	1,668,863	3,637,213	△1,968,350	
租税	1,150,970	519,020	631,950	
委託託宣	0	0	0	
補助費	37,200	0	37,200	
広告宣	213,212	30,000	183,212	
什器備品減支	227,850	1,076,250	△848,400	
雑	50,000	0	50,000	
	24,000	0	24,000	
	0	0	0	
	874,688	478,849	395,839	
	22,474	12,290	10,184	パソコン、プロジェクター
	0	0	0	
管理費計	38,996,669	20,159,165	18,837,504	
経常費用計	125,869,286	52,468,091	73,401,195	
当期経常増減額	5,280,028	-30,008,363	35,288,391	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益計	0	219	△219	
(2) 経常外費用				
過年度減価償却	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	219	△219	
当期一般正味財産増減額	5,280,028	-30,008,144	35,288,172	
一般正味財産期首残高(修正前)	130,098,956	160,107,100	△30,008,144	
一般正味財産期首残高修正額	-30,000,000			
一般正味財産期首残高(修正後)	100,098,956			
一般正味財産期末残高	105,378,984	130,098,956	△24,719,972	財産目録及び貸借対照表と一致しないため修正
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0	
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0	
III 正味財産期末残高	135,378,984	160,098,956	△24,719,972	

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)
平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで
公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公1	公2	他1			
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
①基本財産運用収入						
基本財産運用収入	9,024	0	0	0	9,024	
②特定資産運用収入						
特定資産運用収入	29,871	0	0	0	29,871	
③会費収入						
評議員等会費収入	6,011,500	0	1,202,300	4,809,200	12,023,000	評議員以上11000円×1093名
正会員会費収入	9,075,500	0	1,815,100	7,260,400	18,151,000	正会員7000円×2593名
準会員会費収入	1,667,500	0	333,500	1,334,000	3,335,000	準会員5000円×667名
協賛会員会費収入	562,500	0	112,500	450,000	1,125,000	協賛会員25000円×45件
④事業収益						
寿書展収入	0	0	661,000	0	661,000	
支部展収入	112,000	0	5,083,000	0	5,195,000	支部別内訳参照
支部学生展収入	5,739,575	0	0	0	5,739,575	支部別内訳参照
支部選抜展収入	0	0	204,000	0	204,000	支部別内訳参照
支部研修会収入	0	0	2,247,850	0	2,247,850	支部別内訳参照
支部講演会収入	0	0	0	0	0	
支部講習会収入	0	0	144,000	0	144,000	支部別内訳参照
書道教育者推薦教室看板料	0	0	200,000	0	200,000	25000円×8件

塾 総 合 保 険 料	0	0	338,716	0	338,716	
会 員 交 流 参 加 料	0	0	285,000	0	285,000	
公 開 講 座 参 加 料	228,000	0	0	0	228,000	2000円×114人
書 道 教 育 研 修 参 加 料	0	0	45,000	0	45,000	3000円×有料15人
周 年 記 念 事 業 収 入	0	0	0	0	0	
中 日 展 収 入	49,293,700	0	0	0	49,293,700	中日展収入内訳参照
中 日 書 き ぞ め 展 収 入	6,204,160	0	0	0	6,204,160	400円×約17000点(整理費差引)
愛 の 募 金 収 入	0	4,573,000	0	0	4,573,000	
本 部 祝 賀 会 収 入	0	0	17,100,650	0	17,100,650	
支 部 祝 賀 会 収 入	0	0	2,319,000	0	2,319,000	支部別内訳参照
⑤ 寄 付 金 収 入						
寄 付 金 収 入	0	0	0	0	0	FAQ VI-1-①
⑥ 雑 収 入						
普 通 預 金 受 取 利 息	0	0	0	3,303	3,303	
会 員 名 簿 広 告 料 収 入	0	0	0	840,000	840,000	30000円×28件
宛 名 ラ ベ ル 発 行 手 数 料 収 入	0	0	0	422,465	422,465	
負 担 金 収 入	97,000	0	0	0	97,000	一宮市芸術文化協会交付金FAQ VI-1-①
雑 収 入	0	0	0	335,000	335,000	
経 常 収 益 計	79,030,330	4,573,000	32,091,616	15,454,368	131,149,314	
(2) 経 常 費 用						
理 事 監 事 報 酬	0	0	0	1,445,000	1,445,000	
名 誉 会 長 報 酬	0	0	0	200,000	200,000	
名 誉 副 会 長 報 酬	0	0	0	60,000	60,000	
学 術 顧 問 報 酬	0	0	0	350,000	350,000	
企 画 委 員 を 兼 務 す る 評 議 員 報 酬	756,000	0	84,000	0	840,000	
従 業 員 給 料 手 当	4,213,440	0	526,680	526,680	5,266,800	職員給与・賞与
退 職 給 付	0	0	0	0	0	
臨 時 雇 賃 金	719,996	0	80,000	0	799,996	中日展・寿展
報 償 謝 金	1,237,295	0	137,477	1,137,343	2,512,115	各種謝礼/税理士・司法書士等
報 償 奨 励	7,178,871	0	797,652	0	7,976,523	賞品代・記念品代/支部賞品代・記念品代
報 償 交 際	0	0	732,640	607,298	1,339,938	支部事業交際費/慶弔等
旅 費 交 通 費	8,424,148	0	991,076	495,538	9,910,762	作業時交通費等
食 糧 費	8,798,958	0	1,035,171	517,585	10,351,714	作業時交通費等
消 耗 品 費	1,303,904	0	162,988	162,988	1,629,880	
印 刷 製 本 費	12,016,835	808,987	3,353,923	0	16,179,745	会報その他
光 熱 水 費	349,866	0	43,733	43,733	437,332	本部事務所電気、冷暖房
通 信 運 搬 費	5,145,991	0	643,248	643,248	6,432,487	電話、郵送料等
手 数 料	9,599,784	0	1,066,642	0	10,666,426	中日展新聞広告等
事 務 所 賃 料	5,202,896	0	650,362	650,362	6,503,620	本部事務所
使 用 料	9,984,795	0	1,248,099	1,248,099	12,480,993	会場使用料等/会議室
車 借 上 料	2,961,033	0	370,129	370,129	3,701,291	バス・タクシー
消 耗 什 器 備 品 費	0	0	0	0	0	
負 担 金	0	0	0	693,212	693,212	支部事業支払会費/諸会費
委 託 料	539,799	0	179,933	179,933	899,665	看板作成等/総会等看板
寄 託 費	0	3,950,000	0	0	3,950,000	愛の募金による寄託 ほか
補 助 助 成	0	0	104,000	0	104,000	外国研修補助
法 定 福 利	699,752	0	87,468	87,468	874,688	職員社会保険、雇用保険
福 利 厚 生 費	249,617	0	31,201	31,201	312,019	
租 税 公 課	0	0	0	37,200	37,200	市県民税
会 員 交 流 費	0	0	301,475	0	301,475	
保 険 料	0	0	0	0	0	
雑 支 出	0	0	0	0	0	
什 器 備 品 減 価 償 却 費	17,980	0	2,247	2,247	22,474	備品
本 部 講 演 会 祝 賀 会 費	0	0	16,944,487	0	16,944,487	
支 部 展 覧 会 講 演 会 費	0	0	2,645,444	0	2,645,444	
経 常 費 用 計	79,400,960	4,758,987	32,220,075	9,489,264	125,869,286	
当 期 経 常 増 減 額	△370,630	△185,987	△128,459	5,965,104	5,280,028	
2. 経 常 外 増 減 の 部						
(1) 経 常 外 収 益						
経 常 外 収 益 計	0	0	0	0	0	
(2) 経 常 外 費 用						
経 常 外 費 用 計	0	0	0	0	0	
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	0	0	
他 会 計 振 替 額	0	0	0	0	0	
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△370,630	△185,987	△128,459	5,965,104	5,280,028	
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高					100,098,956	平成24年3月31日残高
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高					105,378,984	
Ⅱ 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部					0	
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額					0	
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額					0	
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高					30,000,000	平成24年3月31日残高
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高					30,000,000	
Ⅲ 正 味 財 産 期 末 残 高					135,378,984	

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。
有形固定資産（建物を除く） 定率法

(2) 引当金の計上基準

・職員退職給付引当金
職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	82,000,000	0	0	82,000,000
本部積立金	2,214,000	666,000	0	2,880,000
支部積立金	2,030,669	0	300,637	1,730,032
小 計	86,244,669	666,000	300,637	86,610,032
合 計	116,244,669	666,000	300,637	116,610,032

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
小 計	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
定期預金	82,000,000	(0)	(82,000,000)	(0)
本部積立金	2,880,000	(0)	(2,880,000)	(480,000)
支部積立金	1,730,032	(0)	(1,730,032)	(0)
小 計	86,610,032	(0)	(86,610,032)	(0)
合 計	116,610,032	(30,000,000)	(86,610,032)	(0)

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会
理事長 鬼 頭 正 昭 殿

私たち監事は、平成24年 4 月 1 日より平成25年 3 月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を読み、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成25年 5 月 3 日

監 事 梶 山 実 夫 (夏 舟) ㊟

監 事 加 藤 元 康 (矢 舟) ㊟

監 事 山 本 の り 子 (雅 月) ㊟

実技講習

公益社団法人 中部日本書道会 第25回 書道教育研修会のご案内

主催：公益社団法人 中部日本書道会／共催：中日新聞社／後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会(申請中)

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

- ◆期 日 平成25年10月14日(祝・月)
◆会 場 名古屋国際センター5階 第1会議室 第3・4・5会議室
〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 電話<052>581-5679(代)
◆受 付 9:25~9:45 (A・Bコース共)
◆内 容 9:45~ 開会式 9:55~ 書道講話 中部日本書道会副理事長 松永清石先生

Table with 2 columns: Aコース 第1会議室 and Bコース 第3、4、5会議室. Rows include time slots (10:30-12:20, 12:30-13:30, 13:30-15:20, 15:45-16:00) and topics like '近代詩文書' and '漢字'.

●Aコース・Bコースのどちらか選んで申し込んで下さい。●必ず午前、午後共受講して下さい。

●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

但、基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年はキョー和 (TEL 052-263-9401) が出店します。

- ◆受講資格 本会会員及び一般 但、本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は受講が必修です。
◆受講料 本会会員無料 一般 3,000円 (教材費)
◆定 員 110名 (Aコース・Bコースとも55人以内)
◆申込方法 本部までお申し込み下さい。
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
公益社団法人 中部日本書道会 ☎052-583-1900
◆申込期限 平成25年9月10日(火) 定員になり次第締め切ります。(毎年早めに定員に達します)
官製ハガキ又は別紙受講申込書を本会に送ってお申し込み下さい。FAX又は電話でのお申し込みはお受け出来ません。

平成二十五年 公開講座のご案内

第十七回の公開講座を開催いたします。会員及び一般市民を対象に、書の魅力について本会を代表する二名の講師が担当します。どうぞ聴講ください。

◆期 日 平成二十五年十一月二十三日(土・祝)
◆会 場 電気文化会館イベントホール(5F)
名古屋市中区栄一-二-15
☎052-211-1133

※期日・会場は予定です。変更になる場合があります。

◆講 師 第一講座 豊橋筆伝統工芸士 杉浦美充氏「筆の話」

第二講座 本会顧問 武山翠屋氏「良寛―その魅力―」

◆会 費 無 料 (ただしテキスト・資料代として二千元)

◆対 象 会員及び一般市民(十五才以上)で原則として二講座とも聴講できる方。

◆申込方法 定員百五十名

◆申込方法 はがきに聴講希望者の、住所・氏名・電話番号を明記の上、左記申込先までお送り下さい。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

Table with 2 columns: 付会 (12:30~13:00), 開会 (13:15~14:15), 第一講座 (14:35~15:35), 第二講座 (15:35~16:00), 閉会 (終了証書授与)

◆申込先 聴講決定者には後日詳細案内をお送りいたします。
〒四五〇一〇〇二一
名古屋市中村区名駅二丁目四十五番十九号
桑山ビル八階C号室

公益社団法人 中部日本書道会 公開講座係
☎052-1583-1900

担当 研究部長 廣澤凌舟

主催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会(申請中)

平成二十五年 公益社団法人 中部日本書道会

国内史跡探訪研修旅行

奈良・丹後・若狭の旅

平成二十五年八月十八日(日)、十九日(月)一泊二日で実施。報告は次号(第一七〇号)に掲載いたします。

第六十五回 毎日書道展（東海展）

会期 十一月十二日（火）～十七日（日）
会場 愛知県美術館ギャラリー

第三十回 読売書法展（中部展）

会期 十一月十九日（火）～二十四日（日）
会場 愛知県美術館ギャラリー
愛知県産業労働センター

社中展・個展のご案内

○第四十九回 麗筆会展

代表 武山翠屋
会期 九月二十日（金）～二十二日（日）
会場 一宮スポーツ文化センター二階

○傘寿までの軌跡

黒田玄夏書展
会期 十月八日（火）～十三日（日）
会場 名古屋市民ギャラリー栄

○第十五回 清晨会書展

代表 吉田清城
会期 十一月五日（火）～十日（日）
会場 名古屋市民ギャラリー栄八階

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号（十月号）は十一月中旬から翌年二月中旬までの展覧会を掲載する予定です。

編集部

塾総合保険のご案内

本会では、書道塾を経営されている会員の先生方のバックアップと、塾生の安全と安心のために「塾総合保険」を行っております。
生徒一名に付年額一三〇円で大きな保障となっております。年度途中での加入もできます。保険期間は、その年の十月一日から翌年十月一日までとなっていますが、年度途中の場合は、加入した日から平成二十六年十月一日までとなります。
この保険は、本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数での加入ができ、有利な条件となっています。事故はいつ起こるか分かりません。生徒さんの安心と安全のために是非ご加入ください。又既に加入されている皆さんは十月一日が期限ですから、忘れずに契約更新を行って下さい。資料請求、申し込みは本部まで。

新入会員紹介（四・五・六月分）

- 一宮支部 松下 理奈 羽柴 裕子
- 伊藤 文栄 ●半田支部 ●濃飛支部
- 藤花 藤原 素影 今井 紫仙
- 大江田友子 本田 緑風 今井 天陽
- 大迫 寿星 ●西三河支部 片野 恵華
- 田村 志玉 石川 玲香 野村 香泉
- 野々垣敬子 ●東三河支部 ●北勢支部
- 野村 小鏡 井口 洋子 西川 美翠
- 菱田 花影 岡本多加江
- 松尾 雅子 瀬戸 文子

あとがき

・第一六九号中日会報をお届けいたします。
・六月中旬の総会での新役員改選、七月中旬での新企画委員の選出という日程から、発行が予定より大幅に遅れました事お詫び致します。
・新体制が出来上りました。来年の八十周年行事に向け会員の皆様のご協力をお願いします。

編集部長 工藤俊朴

訃 報

（厚生部）

- 2月15日 評議員 小島李園氏
ご主人 弘様
- 3月 正会員 浅野登秀氏
享年80才
- 4月3日 評議員 加藤永樵氏
ご尊父 善平様
享年95才
- 4月17日 評議員 新美秋鳳氏
ご尊父 武二様
享年83才
- 4月25日 正会員 榑木駿介氏
享年71才
- 5月 正会員 築山恒月氏
享年74才
- 5月18日 評議員 野倉梅芳氏
ご令室 和子様
享年85才
- 5月23日 評議員 鳥居竹泉氏
ご母堂 俊江様
享年91才
- 6月 評議員 角谷玉雲氏
ご主人 良一様
享年81才
- 6月21日 参 与 森 恰華氏
享年81才
- 6月 評議員 伊藤錦香氏
享年78才

補償内容		
賠償事故	塾経営者 対人賠償 てん補限度額	1名 2,000万円 1事故 1億円
	対物賠償 てん補限度額	1事故 100万円
生徒 賠償責任 法定監督義務者 てん補限度額	1事故 2,000万円	
傷害事故	死亡・後遺障害保険金額	100万円
	入院保険金日額	1,000円
	通院保険金日額	500円
保険料（生徒1名につき年額）		130円

（注）賠償事故の場合、1事故につき1,000円を自己負担していただきます。生徒の賠償責任てん補限度額は、対人、対物賠償合わせて1事故のみの適用となります。